作業室用

茨城県教育財団文化財調査報告第200集

御園生遺跡

国補緊道第14-08-241-0-050号
埋蔵文化財調査報告書

平成15年3月

茨城県潮来土木事務所
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第200集

御園生遺跡

国補緊道第14-08-241-0-050号
埋蔵文化財調査報告書

平成15年3月

茨城県潮来土木事務所
財団法人　茨城県教育財団

御園生遺跡遠景

第49号住居跡から出土した青銅製柄杓

第１号土器焼成遺構

序

茨城県は産業・経済の発展に伴う広域流通機構の整備と，県全域にわたる調和のとれた発展を図るために，県内の交通体系の整備を進めております。県道茨城鹿島線の整備事業も，その目的に添って計画されたものであります。

このたび，茨城県潮来土木事務所は，鹿嶋市宮中地区において，県道茨城鹿島線の整備を計画いたしました。その予定地内には御園生遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は，茨城県潮来土木事務所と埋蔵文化財発掘調査について委託契約を結び，平成13年５月から平成13年９月まで鹿嶋市御園生遺跡において発掘調査を実施いたしましたところ，貴重な遺構・遺物を検出することができました。

本書は御園生遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより，郷土への理解を深める手だてとして，また，教育，文化の向上の一助として広く活用されますことを希望いたします。

なお，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である茨城県潮来土木事務所から多大なる御協力を賜りましたことに対し，深く御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，鹿嶋市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，衷心より感謝の意を表します。

平成15年３月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　齋　藤　佳　郎

例　　言

1　本書は，茨城県潮来土木事務所の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成13年度に発掘調査を実施した，茨城県鹿嶋市大字宮中860番地の３ほかに所在する御園生遺跡の発掘調査報告書である。

2　今回の調査範囲は，茨城県教育委員会発行の「茨城県遺跡地図」では，御園生遺跡と安崎遺跡にまたがった範囲であるが，教育庁文化課と鹿嶋市の協議の結果，「御園生遺跡」として調査・報告することになった。

3　当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

　調　査　平成13年５月1日～平成13年９月30日

　整　理　平成14年６月1日～平成15年３月31日

4　当遺跡の発掘調査は，調査第一課長阿久津久の指揮のもと，調査第１班長海老沢稔，首席調査員荒井保雄，主任調査員成島一也が担当した。

5　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理第二課長瓦吹堅の指揮のもと，首席調査員荒井保雄，主任調査員成島一也が担当した。第３章第３節３（1）～（5），４（1）～（4），５（1）～（5）及び第４節は荒井，第１章～第３章第２節，第３節１（1）～（3），２（1）～（3），３（6）・（7）及び写真図版は成島が担当した。

6　本書の作成にあたり，土器焼成遺構の遺構と遺物の特徴について財団法人鹿嶋市文化スポーツ振興事業団事務局次長の風間和秀氏に，緑釉・灰釉陶器の産地・年代鑑定については愛知県立陶磁資料館主任学芸員の井上喜久男氏に御指導いただいた。

7　発掘調査及び整理に際し，御指導・御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし，X軸＝－4,640m，Y軸＝＋72,040mの交点を基準点（A１a1）とした。なお，この原点は，日本測地系による基準点である。

調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西，南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C･･･，西から東へ１，２，３･･･とし，「A１区」，「B２区」のように呼称した。さらに，大調査区内の小調査区は，北から南へa，b，c･･･j，西から東へ1，2，3･･･0とし，名称は，大調査区の名称を冠し，「A１a1区」，「B２b2区」のように呼称した。

2　抄録の北緯及び東経欄には，世界測地系に基づく緯度・経度を（　）を付して併記した。

3　遺構，土層に使用した記号は，次のとおりである。

遺構　住居跡－SI　　掘立柱建物跡－SB　　溝－SD　　ピット群－PG

土器焼成遺構・土壙墓・小竪穴遺構・土坑・地下式壙・方形竪穴遺構－SK

土層　撹乱－K

4　遺構・遺物の実測図中の表示は，次のとおりである。

焼土・釉・赤彩・漆　　炉・貝殻・貼床・凝灰岩・繊維土器

竈・粘土・炭化材・柱痕・黒色処理・黒斑　　油煙・煤

|←○→| 摩擦痕　　|←□→| 敲打痕

●土器・拓本記録土器　　○土製品　　□石器・石製品　　△金属製品　　-----　硬化面

5　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

6　遺構・遺物実測図の掲載方法については，次のとおりである。

(1)　遺構全体図は200分の１，各遺構の実測図は60分の１，80分の１，200分の１の縮尺にした。

(2)　遺物は原則として３分の１の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり，その場合は個々に縮尺をスケールで表示した。

7　「主軸」は，住居跡については炉・竈を通る軸線あるいは南北の柱穴を結ぶ軸線とし，その他については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸・長径方向」は，主軸・長径が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。（例 N－10°－E）

8　遺物観察表の記載方法は次のとおりである。

(1)　遺物の計測値の単位はcm・gである。なお，現存値は（）で，推定値は［］を付して示した。

(2)　備考欄は，土器の現存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3)　遺物番号については，すべて通し番号とし，挿図，観察表，写真図版に記した番号は同一とした。

9　遺構一覧表における計測値は，現存値は（）で，推定値は［］を付して示した。

抄　録

ふりがな	みそのういせき
書名	御園生遺跡
副書名	国補緊道第14－08－241－0－050号埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第200集
著者名	荒井保雄　成島一也
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL　029－225－6587
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL　029－225－6587
発行年月日	2003（平成15）年3月26日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
御園生遺跡（みそのういせき）	茨城県鹿嶋市大字宮中（おおあざみやなか）860番地の3ほか	08222－073	35度57分17秒 （35度57分28秒）	140度37分57秒 （140度37分45秒）	35～36m	20010501～20010930	4383.91m^2	県道茨城鹿島線整備事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
御園生遺跡	集落跡	縄文（中期）	竪穴住居跡　5軒 土坑　20基	縄文土器（深鉢） 土製品（耳栓，土器円板，土器片錘） 石器（石鏃，楔形石器，掻器，剥片，石錘，石皿）	縄文時代中期の集落跡と古墳時代後期から平安時代前期にかけての集落跡が中心の複合遺跡。 古墳時代後期の住居跡から柄付青銅製杓が出土している。 平安時代の土器焼成遺構から多量の土師器小皿が，土壙墓から埴が出土している。 対岸に置かれた鹿島郡衙跡（神野向遺跡）との関わりが強いと考えられる。
		古墳	竪穴住居跡　34軒 土坑　4基 不明遺構　1基	土師器（坏，椀，甕，壺，甑） 須恵器（坏，壺，提瓶，壺，鼎） 土製品（球状土錘，突起支脚） 石器（砥石） 石製品（石製模造品） 金属製品（青銅製柄杓，刀子，鋲，鐙）	
		奈良・平安	竪穴住居跡　60軒 掘立柱建物跡　7棟 土器焼成遺構　2基 土壙墓　2基 小竪穴遺構　6基 土坑　31基	土師器（坏，高台付坏，小皿，椀，甕，甑） 須恵器（坏，高台付坏，壺，鉢，甕，長頸瓶，甑） 緑釉陶器（皿） 灰釉陶器（椀，壺，長頸瓶） 土製品（球状土錘，突起支脚，羽口） 石器（砥石） 金属製品（鎌，鏃，刀子，釣針）	
	墓域	中・近世	段切遺構　1基 地下式壙　1基 方形竪穴遺構　3基 土坑　2基 溝　3条	土師質土器（内耳鍋） 陶器・磁器（椀，片口鉢，甕，卸皿） 土製品（泥面子） 石器（砥石） 金属製品（古銭）	
	その他	時期不明	土坑　150基 ピット群　1群 溝　7条 不明遺構　1基		

目　　次

序
例　言
凡　例
抄　録
第1章　調査経緯 …… 1
　第1節　調査に至る経緯 …… 1
　第2節　調査経過 …… 1
第2章　位置と環境 …… 2
　第1節　地理的環境 …… 2
　第2節　歴史的環境 …… 2
第3章　調査の成果 …… 7
　第1節　遺跡の概要 …… 7
　第2節　基本層序 …… 7
　第3節　遺構と遺物 …… 8
　　1　縄文時代の遺構と遺物 …… 8
　　(1)　竪穴住居跡 …… 8
　　(2)　土坑 …… 20
　　(3)　遺構外出土遺物 …… 36
　　2　古墳時代の遺構と遺物 …… 51
　　(1)　竪穴住居跡 …… 51
　　(2)　土坑 …… 123
　　(3)　不明遺構 …… 125
　　(4)　遺構外出土遺物 …… 126
　　3　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 128
　　(1)　竪穴住居跡 …… 128
　　(2)　掘立柱建物跡 …… 251
　　(3)　土器焼成遺構 …… 258
　　(4)　土壙墓 …… 266
　　(5)　小竪穴遺構 …… 268
　　(6)　土坑 …… 274
　　(7)　遺構外出土遺物 …… 296
　　4　中・近世の遺構と遺物 …… 298
　　(1)　段切遺構 …… 298
　　ア　地下式壙 …… 300
　　イ　方形竪穴遺構 …… 302
　　ウ　土坑 …… 304
　　エ　溝 …… 306
　　(2)　溝 …… 307
　　(3)　遺構外出土遺物 …… 309
　　5　その他の遺構と遺物 …… 310
　　(1)　土坑 …… 310
　　(2)　溝 …… 311
　　(3)　ピット群 …… 314
　　(4)　不明遺構 …… 315
　　(5)　遺構外出土遺物 …… 316
　第4節　まとめ …… 317
写真図版
付　図

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

茨城県は，茨城県鹿嶋市宮中において，県道茨城鹿島線の整備を進めている。

平成12年11月17日，茨城県潮来土木事務所長から茨城県教育委員会教育長宛てに，県道茨城鹿島線建設工事地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取り扱いについて照会があった。

これに対して茨城県教育委員会は，平成12年11月24日に現地踏査を行い，平成12年12月25日に試掘調査を実施した。そして，平成13年1月17日，茨城県教育委員会教育長から茨城県潮来土木事務所長宛てに，事業地内に御園生遺跡が所在する旨回答した。

平成13年2月1日，茨城県潮来土木事務所長から茨城県教育委員会教育長宛てに，文化財保護法第57条の3に基づく土木工事等の通知が提出された。平成13年2月19日，茨城県教育委員会教育長から茨城県潮来土木事務所長宛てに，工事により埋蔵文化財に影響が及ぶことから，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

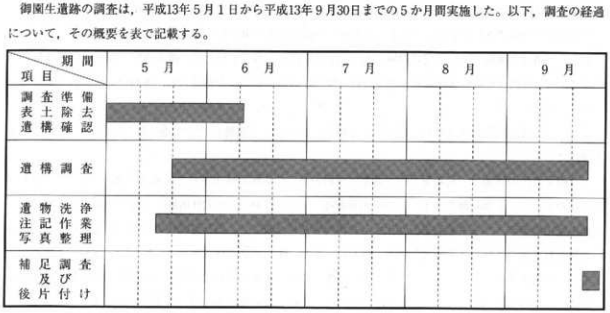
平成13年3月13日，茨城県潮来土木事務所長から茨城県教育委員会教育長宛てに，事業地内における埋蔵文化財（御園生遺跡）の取扱いについて協議書が提出された。

その結果，現状保存が困難であることから，記録保存のための発掘調査を実施することを決定し，平成13年3月19日，茨城県教育委員会教育長から茨城県潮来土木事務所長宛てに，事業地内における御園生遺跡について，発掘調査の範囲及び面積等について回答した。また，併せて調査機関として，財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は，茨城県潮来土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け，平成13年5月1日から平成13年9月30日まで発掘調査を実施した。

第2節　調　査　経　過

御園生遺跡の調査は，平成13年5月1日から平成13年9月30日までの5か月間実施した。以下，調査の経過について，その概要を表で記載する。



第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

鹿嶋市は，茨城県の南東に位置し，東を太平洋，西を北浦，南を鰐川に接している。御園生遺跡は，茨城県鹿嶋市大字宮中860番地の3ほかの，鹿嶋市南西部の鹿島台地から南西に延びる標高35～36mの舌状台地東部に位置し，低地との比高は35mほどである。

遺跡周辺の地勢は，北は那珂川から南は常陸利根川まで延びている鹿島台地と呼ばれる標高40m前後の洪積台地で，標高は南に移るほど低くなる。太平洋側は，ところどころに海食崖がみられ，その南には海岸砂丘が発達している。また，北浦湖岸側や鰐川流域には，浸食によって形成された谷津が細長く樹枝状に台地部まで入り込み，台地端部と低地の比高は深い。この鹿島台地は，地質的には約1万年以上前の第四紀洪積世に形成され，下層から砂層・砂礫層・シルト層からなる成田層，常総粘土層，関東ローム層に分層される。また，遺跡周辺の土地利用状況は，主として畑地・住宅地であり，遺跡の現況は畑地と荒地であった。

第2節　歴史的環境

御園生遺跡が所在する鹿島台地部には，利根川の支流によって解析された谷津が広がり，縄文時代の集落跡，奈良・平安時代の官衙跡や集落跡など多くの遺跡が存在している。

当遺跡〈1〉は，昭和55年と平成8年から9年にかけて2回の発掘調査が行われている。昭和55年の調査は個人住宅の建設に伴って行われたもので，縄文時代中期の竪穴住居跡7軒，奈良・平安時代の竪穴住居跡3軒，中世の土壙墓4基などが確認されている[1]。また，平成8年度の調査は都市計画道路工事に伴うもので，縄文時代後期の竪穴住居跡1軒，古墳時代中期から奈良・平安時代の竪穴住居跡20軒，掘立柱建物跡3棟，鍛冶工房跡1基などが確認されている。特に，土師器の足高高台付皿・小皿，鉄製品などが多量に出土した土坑が4基確認され，これらの遺物は祭祀の道具として使用されたと考えられている[2]。今回の調査[3]では，縄文時代中期の竪穴住居跡，古墳時代後期から平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡，土器焼成遺構，土壙墓，中世の地下式壙などが確認されており，これまでの調査との強い関連が窺われる。

また，当遺跡と隣接している安崎遺跡〈22〉[4]は平成13年に調査が行われ，縄文時代の竪穴住居跡3軒と祭祀遺構，奈良時代の竪穴住居跡4軒，平安時代の竪穴住居跡4軒などが確認され，再利用に供された子持勾玉が出土している。

ここでは，遺跡周辺の縄文時代，奈良・平安時代，中世の主な遺跡について述べることにする。（表1，第1図）

主な縄文時代の遺跡は，前期後半の土壙墓と中期の竪穴住居跡が検出されている北台遺跡〈3〉[5]，早期から中期の土器片と土製耳飾が出土している国神遺跡〈4〉[6]，中期の竪穴住居跡と土坑が検出され，硬玉製の大珠や安山岩製の「つまみ形石器」が出土した鍛冶台遺跡〈26〉[7]，旧石器時代の石器や縄文時代早・前期の住居跡37軒が調査された伏見遺跡〈29〉[8]がある。また，集石遺構が検出されて，早・中・後期の土器が出土している中町南遺跡〈30〉[9]，炉穴12基，集石遺構1基などが検出され，早期から後期の土器や被熱礫が多量に出土している西谷A遺跡〈32〉[10]などがある。特に，鍛冶台遺跡〈26〉は，当遺跡と同じように石錘や土器

片錘が多く出土しており，縄文時代の漁労活動の一端が窺える遺跡である。

奈良・平安時代では，鹿島神宮を中心に多くの遺跡が存在している。特に，7世紀後半から8世紀初頭では，鍛冶工房跡や製鉄炉などの製鉄に関連する遺跡が多いのが特徴である。春内遺跡〈10〉では，7世紀後半の竪房式竪穴工房跡1軒，竪穴工房跡18軒，竪穴住居跡4軒，掘立柱建物跡5棟などが検出され[11]，鍛冶炉は掘りくぼめた穴に砂質粘土をはる構造である。旧鹿島郡家や神宮の造営と同時期の遺跡である。片岡遺跡〈23〉では，竪房式竪穴工房跡2軒，竪穴工房跡7軒，竪穴住居跡65軒，掘立柱建物跡数棟などが検出され，春内遺跡と同様の構造の鍛冶炉と地床炉状の2種類が確認されている[12]。

旧鹿島郡衙跡である神野向遺跡〈24〉は，昭和60年に政庁域が確認され，昭和61年には一部が国の史跡に指定され，多数の墨書土器や銅印「福」，円面硯，炭化米などが出土している。また，平成11年(1999)の調査では，遺跡2例目となる長屋状の竪房式竪穴工房跡が検出されている[13]。これら鍛冶工房の操業時期は，郡衙の造営時期と一致し，そこで生産されたさまざまな製品は郡衙造営のために供給されたと考えられている。

また，比屋久内遺跡〈2〉は，9世紀後半から10世紀にかけての製鉄跡で，自然地形を利用して砂鉄の精錬が行われ[14]，登り窯状で半地下式の製鉄炉が検出されている。また，長畑遺跡〈15〉では，竪穴住居跡39軒のほか，平安時代後期の小鍛冶と考えられる竪穴遺構が検出され，角内遺跡〈17〉では，銅滓や土師器製の坩堝片，羽口が出土し，銅の鍛冶工房跡の存在が考えられている[15]。さらに厨台遺跡群の厨台遺跡〈25〉や鍛冶台遺跡〈26〉においても多量の鉄滓が出土し，鍛冶炉と考えられる地床炉が検出している[16]。

中世にこの地を統治していたのは鹿島氏である。鹿島氏は常陸大掾氏の一族吉田清幹の子，鹿島三郎政幹に始まる。治承4年(1180)の源頼朝の平氏追討を期に鹿島神宮の惣追補使に任命され，以降，鹿行三十三館の旗頭として勢力を振るい，400年にわたって鹿島地方を統治した。その居城が鹿島城跡〈12〉である。鹿島城跡〈12〉はこれまでに8回の調査が行われており，本丸内の遺構や掘立柱建物跡，溝，土坑などが確認されている[17]。また，二の丸付近に位置する祝詞遺跡〈13〉からは堀が確認されている。

その他の中世遺跡としては，厨台遺跡〈25〉で検出された大型竪穴状削平遺構がある[18]。当遺跡で検出した段切遺構と同じもので，斜面部を削平した後，人為的に作った平坦面に土壙墓と火葬施設が構築されている。これらの遺構はまだ検出例は少ないが，今後の調査研究が期待される。

※文中の〈　〉内の番号は，表1，第1図の該当番号と同じである。

註

1）橋本久雄ほか「鹿島町内遺跡発掘調査報告Ⅱ　鹿島郡衙推定地ほか」『鹿島町の文化財第17集』茨城県鹿島町教育委員会　鹿島考古学資料刊行会　1981年
2）小田代昭丸「御園生遺跡発掘調査報告書Ⅰ」『鹿嶋市の文化財第101集』鹿嶋市文化スポーツ振興事業団　1998年
3）今回の調査範囲は，御園生遺跡と安崎遺跡にまたがった範囲である。
4）小田代昭丸　糸川崇「鹿嶋市内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書23　鹿嶋市内No.98・90遺跡（安崎遺跡）」『鹿嶋市の文化財第113集』鹿嶋市文化スポーツ振興事業団　2002年
5）小田代昭丸　岩松和光「国神遺跡Ⅴ　'89～'91発掘調査報告書」『鹿島町の文化財第74集』茨城県鹿島町教育委員会　1992年
6）註5に同じ
7）風間和秀　川崎隆由「鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告Ⅵ　鍛冶台遺跡」『鹿島町の文化財第69集』茨城県鹿島町遺跡保護調査会　1990年
8）小野真一ほか「常陸伝見」伏見遺跡調査会　1979年
9）田口崇　黒沢正明「中町附遺跡」『鹿島町の文化財第22集』茨城県鹿島町教育委員会　鹿島考古学資料刊行会　1982年
10）風間和秀　小田代昭丸「西谷A遺跡」『鹿島町の文化財第88集』鹿島町文化スポーツ振興事業団　1995年
11）風間和秀　宮崎美和子「春内遺跡」『鹿島町の文化財第89集』鹿島町文化スポーツ振興事業団　1995年

12) a 小田代昭丸 石橋美和子『鹿嶋市内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書17 鹿嶋市内No.74遺跡（KT74）片岡遺跡 鹿嶋市内No75遺跡（KT75）片岡遺跡』『鹿嶋市の文化財第95集』茨城県鹿嶋市教育委員会 1996年
b 風間和秀 宮崎美和子 岩松和光「片岡遺跡発掘調査報告書Ⅲ」『鹿嶋市の文化財第98集』鹿嶋市文化スポーツ振興事業団 1997年
c 小田代昭丸 石橋美和子『鹿嶋市内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書20 鹿嶋市内No.83遺跡（KT83）宮中野古墳群 鹿嶋市内No.84遺跡（KT84）片岡遺跡 鹿嶋市内No.85遺跡（KT85）二子塚古墳群』『鹿嶋市の文化財第106集』 茨城県鹿嶋市教育委員会 1999年

13) 石橋美和子『鹿嶋市内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書21 鹿嶋市内No.86遺跡（KT86）神野向遺跡鹿嶋市内No.87遺跡（KT87）二子塚古墳群1号墳』『鹿嶋市の文化財第109集』 茨城県鹿嶋市教育委員会 2000年

14) 田口崇 本田勉ほか『鹿島町内遺跡発掘調査報告Ⅱ』『鹿島町の文化財第23集』茨城県鹿島町教育委員会 鹿島考古学資料刊行会 1982年

15) 田口崇『鹿島町内遺跡発掘調査報告Ⅴ』『鹿島町の文化財第35集』茨城県鹿島町教育委員会 1984年

16) a 石橋美和子『鹿嶋市内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書22 鹿嶋市内No.88遺跡（KT88）厨台No.11遺跡』『鹿嶋市の文化財第111集』茨城県鹿嶋市教育委員会 2001年
b 註7に同じ

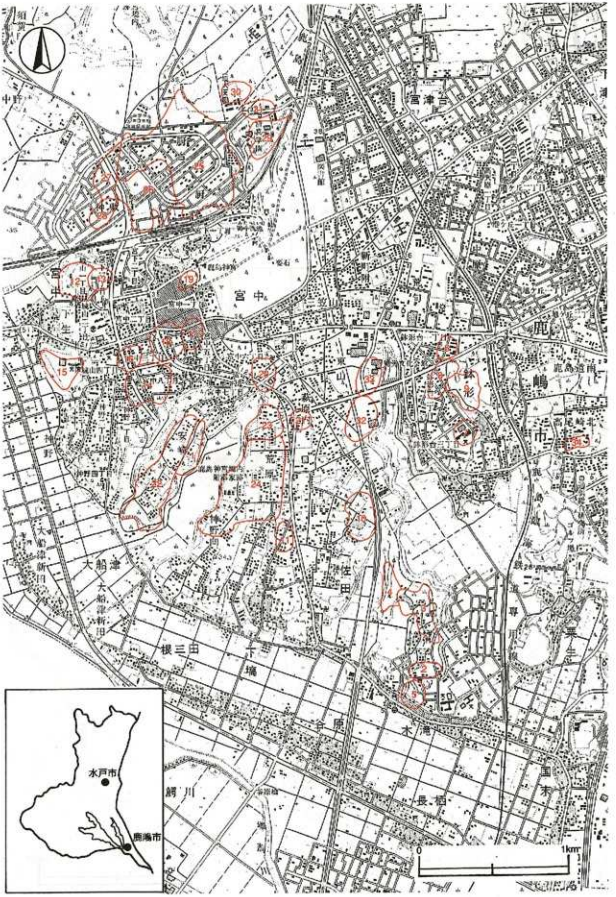
17) 岩松和光 糸川崇『鹿島城址Ⅴ 鹿島商工会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査』『鹿嶋市の文化財第108集』鹿嶋市文化スポーツ振興事業団 2000年

18) 宮崎美和子 田口崇 風間和秀 岩松和光『鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告Ⅻ 土地区画整理事業に伴う発掘調査 厨台No.5・6・8・16・22・26遺跡』『鹿嶋市の文化財第79集』鹿嶋市文化スポーツ振興事業団 1996年

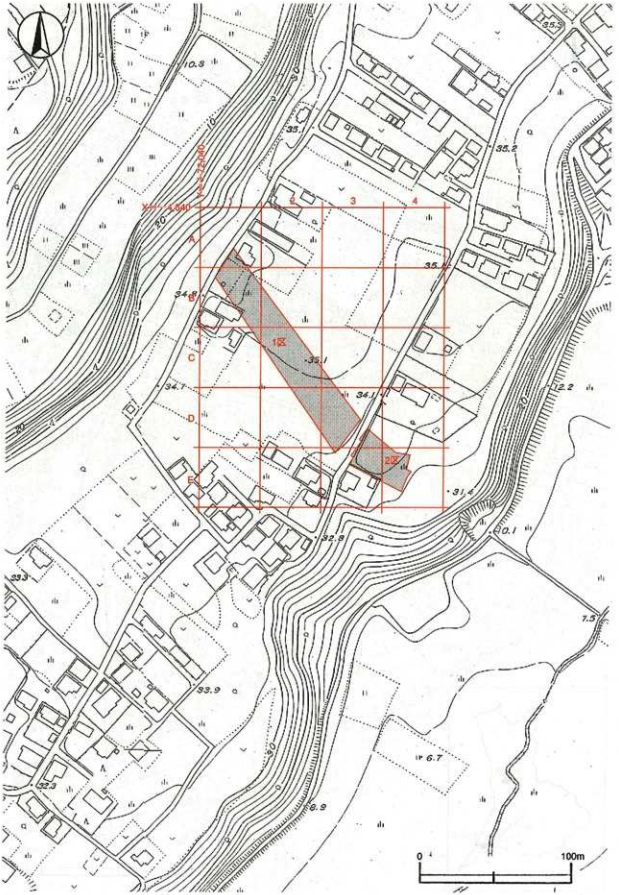
参考文献
・鯵須紀夫ほか『茨城県 地理ガイド』
・茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年

表1 御園生遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世	番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
1	御園生遺跡		○		○	○	○	○	18	道祖神前遺跡					○		
2	比屋久内遺跡					○			19	鹿島神宮境内遺跡				○			
3	北台遺跡		○		○				20	三明神遺跡					○		
4	国神遺跡		○	○	○	○		○	21	萩原内遺跡		○			○		
5	稲荷台遺跡	○	○	○	○	○			22	安崎遺跡		○		○	○		
6	鍋不入遺跡	○			○	○			23	片岡遺跡		○	○	○	○	○	
7	内畑遺跡		○						24	神野向遺跡	○	○	○	○	○	○	○
8	中山遺跡					○			25	厨台遺跡	○	○	○	○	○	○	○
9	鹿島神宮寺跡Ⅰ期					○			26	鍛冶台遺跡	○	○	○	○	○	○	○
10	春内遺跡		○		○	○			27	片野遺跡	○	○	○	○	○	○	○
11	新畑遺跡				○	○			28	円龍台遺跡	○	○	○	○	○	○	
12	鹿島城跡			○	○	○	○	○	29	伏見遺跡	○	○	○	○	○		
13	祝詞遺跡				○	○	○	○	30	中町附遺跡		○			○		
14	殿坪・国主遺跡		○		○	○			31	角内附遺跡		○					
15	根畑遺跡		○		○	○	○		32	西谷A遺跡		○			○		
16	新町遺跡		○			○	○	○	33	東山遺跡		○			○		
17	角内遺跡					○	○	○	34	高尾崎B遺跡		○	○				



第１図　御園生遺跡周辺遺跡分布図



第２図　御園生遺跡調査区設定図

第３章　調査の成果

第１節　遺跡の概要

御園生遺跡は，縄文時代から中・近世までの複合遺跡である。調査前の現況は畑で，調査面積は4383.91㎡である。

今回の調査によって検出された遺構は，縄文時代の竪穴住居跡５軒，土坑20基，古墳時代の竪穴住居跡34軒，土坑４基，不明遺構１基，奈良・平安時代の竪穴住居跡60軒，掘立柱建物跡７棟，土器焼成遺構２基，土壙墓２基，小竪穴遺構６基，土坑31基，中・近世の段切遺構１基，地下式壙１基，方形竪穴遺構３基，土坑２基，溝３条，時期不明の土坑150基，ピット群１群，溝７条，不明遺構１基である。

遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20cm）で163箱分が出土した。縄文時代では早期末から後期前葉まで土器が出土しているが，中期後葉の加曽利Ｅ式土器がほとんどである。また，古墳時代後期から平安時代前期までの土師器，須恵器のほか，緑釉陶器，灰釉陶器も出土している。その他には，土師質土器，陶器，磁器，耳栓，土器円板，球状土錘，泥面子，楔形石器，削器，剥片，石鏃，磨製石斧，打製石斧，石錘，石製模造品，砥石，青銅製柄杓，刀子，銛，鎌，鏃，鬥，釘，古銭などが出土している。

第２節　基本層序

調査Ｉ区のＤ２ｂ８区にテストピットを設定し，約2.4m掘り下げて基本土層の観察を行った（第３図）。なお，ローム層の層序区分については，武蔵野台地での層序区分を参考に，ローマ数字で示す。

Ｉ層は極暗褐色の表土層であり，ローム小ブロック・ローム粒子を中量含んでいる。粘性と締まりはともに弱く，層厚は10～14cmである。

Ⅱ層は，黒褐色の腐植土層で表土とローム層の間層である。層厚は８～16cmであり，ローム粒子を少量，ローム小ブロックを微量含み，粘性は弱く，締まっている。

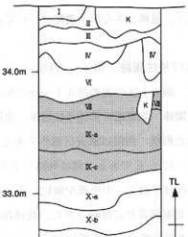
Ⅲ層はにぶい黄褐色のソフトローム層であり，粘性を帯び，締まっている。層厚は６～16cmである。

Ⅳ層もにぶい黄褐色のソフトローム層であり，Ⅲ層よりも粘性を帯び，締まっている。層厚は５～36cmである。

Ⅴ層は確認できなかった

Ⅵ層は黄褐色のハードローム層で，白色粒子を微量含んでおり，粘性を帯び，締まっている。層厚は24～43cmであるが，ＡＴ（姶良丹沢テフラ）は確認できなかった。

Ⅶ層はにぶい褐色のハードローム層で，赤色粒子・黒色粒子を微量含んでおり，粘性を帯び，締まっている。この層は第二黒色帯（ＢＢⅡ）の最上層と考えられ，層厚は14～22cmであり，約20,000～25,000年前に比定できる。



第３図　基本土層図

Ⅷ層は層位が安定せず，確認できなかった。

Ⅸ-a層は暗褐色のハードローム層であり，赤色粒子を少量含んで粘性を帯び，強く締まっている。この層は第二黒色帯の下層であり，層厚は19～38cmである。

Ⅸ-b層は層位が安定せず，確認できなかった。

Ⅸ-c層は暗褐色のハードローム層であり，黒色粒子を微量含んで粘性を帯び，強く締まっている。Ⅸ-a層よりも色調がやや明るいことから，Ⅸ-c層とし，第二黒色帯の最下層であり，層厚は16～24cmである。この層は約28,000年前に比定できる。

Ⅹ-a層は明褐色のハードローム層であり，白色粒子を微量含み，粘性を帯び，締まっている。層厚は10～28cmである。

Ⅹ-b層は明褐色のハードローム層で，粘性を帯びて，硬く締まっている。層厚は15～32cmである。

Ⅹ-c層は明褐色のハードローム層で，黒色粒子を少量含み，粘性を帯びて，Ⅹ-b層よりも硬く締まっている。層厚は８～22cmである。ここまでが立川ローム層（ＴＬ）に比定される。

Ⅺ層は黄褐色のハードローム層である。白色粒子・黒色粒子をともに微量含み，粘性を帯びて，締まっている。層厚は15～46cmである。この層以下が武蔵野ローム層（ＭＬ）に比定される。

Ⅻ層は黄褐色のハードローム層である。白色粒子を少量含み，強い粘性を帯びて，締まっている。層厚は12cm以上である。

なお，遺構の多くは，Ⅲ層上面で確認され，Ⅲ層からⅨ-a層にかけて掘り込まれている。

第３節 遺 構 と 遺 物

１ 縄文時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

調査の結果，縄文時代中期後葉の住居跡５軒が検出された。これら住居跡は，調査Ⅰ区の北西部に集中している。

以下，遺構と主な出土遺物について記述する。

第17号住居跡（第４・５図）

位置 調査Ⅰ区の北西部Ａ１ｊ5区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係 北東部を第18号住居跡，北部を第46号土坑，南部を第50号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部は調査区域外であるが，平面形は長径6.33m，短径2.75mの楕円形と推定される。主軸方向はＮ－42°－Ｅである。壁は外傾して立ち上がり，壁高は10～31cmである。

床 ほぼ平坦で，中央部が硬化している。

炉 北東部寄りに付設された，長径76cm，短径53cmの楕円形の地床炉で，床面を４cmほど掘りくぼめている。炉床及び炉壁は火熱を受けているが，赤変していない。また，覆土中から34cmの炭化材が出土している。

ピット ７か所。Ｐ１～Ｐ７は深さ14～72cmで，その規模と配置から柱穴と考えられる。Ｐ７は位置から出入り口施設に伴う可能性がある。

P2土層解説

1	褐 色	ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
2	褐 色	ローム粒子多量

P4土層解説

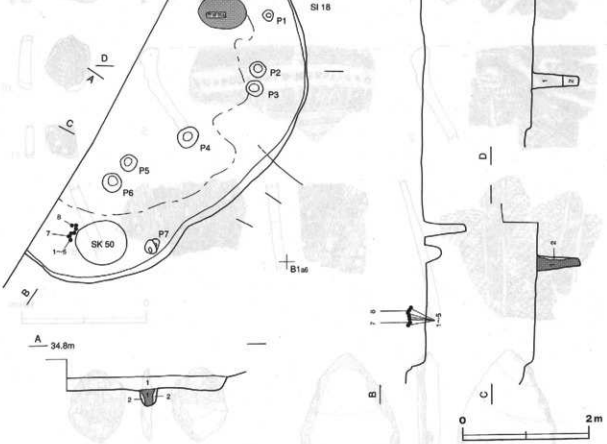
1	暗 褐 色	焼土粒子・炭化粒子微量，柱痕と考えられる
2	褐 色	ローム粒子多量，ローム小ブロック微量

P5土層解説
1　暗　褐　色　　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量，柱痕と考えられる
2　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

覆土　単一層で，ローム粒子微量を含む褐色土である。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

遺物出土状況　縄文土器深鉢片299点，土器片錘３点，石器２点（掻器２），軽石１点，礫１点が出土している。第５図１～５・７・８は南部の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から縄文時代中期後葉と考えられる。



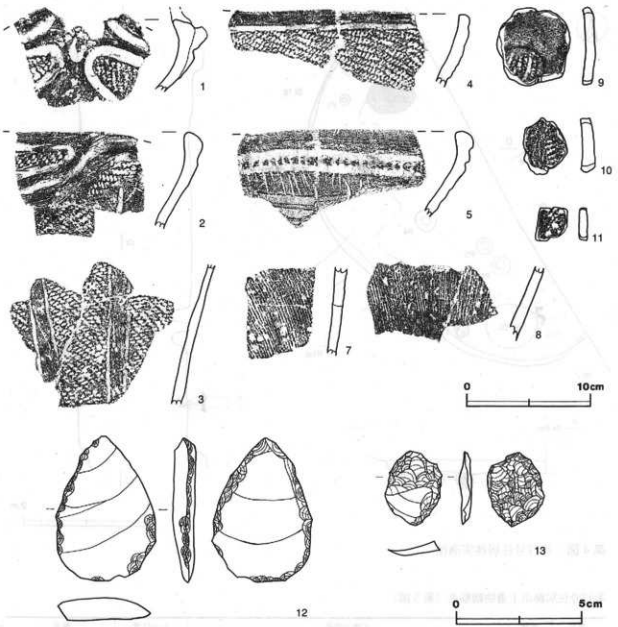
第４図　第17号住居跡実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第５図）

番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
1～5,7,8	深　鉢	１・２は隆帯と沈線による口辺部文様帯を有し，区画内にＲＬの単節縄文が充填されている。３は沈線による懸垂文内にＬＲの単節縄文を充填している。４は口辺部に幾位の沈線を周回し，それ以下にＬＲの単節縄文を施文している。５は口辺部に平行沈線文を周回して半截竹管文を充填し，地文は縦位の条線文を施す。７・８は胴部に条線文を施す。	南部覆土上層	中期後葉　（加曽利ＥⅢ式）１・２・４・５　ＰＬ31

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	土器片錘	6.2	5.7	0.8	37.9	土製	剥部片，各辺部研磨，両端部研磨による剥み	覆　土	中期後葉（加曽利EⅢ式）PL.38
10	土器片錘	4.4	3.6	1.2	17.4	土製	剥部片，各辺部研磨，両端部研磨による剥み	覆　土	中期後葉（加曽利EⅢ式）PL.38
11	土器片錘	2.7	2.6	0.7	（5.5）	土製	剥部片，各辺部研磨，両端部研磨による剥み	覆　土	中期後葉　PL.38

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
12	掻器	5.9	3.9	0.9	25.8	黒色安山岩	大形剥片の周縁を両面押圧剥離	覆　土	PL.37
13	掻器	3.0	2.2	0.5	3.16	チャート	両面押圧剥離	覆　土	PL.37



第５図　第17号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡（第６・７図）

位置　調査Ⅰ区の北西部Ｂ１ｂ9区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　南部を第26号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　北東部が調査区域外，西部は第26号住居跡と重複のため，確認できた規模は，長軸2.76m，短軸0.99mで，平面形は不明である。壁は外傾して立ち上がり，壁高は48cmである。

床　ほぼ平坦である。

炉　確認されなかった。

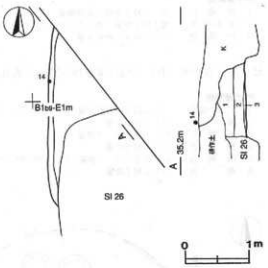
ピット　確認されなかった。

覆土　3層に分層される。焼土粒子・炭化粒子を含み，第1・2層が平衡的な堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

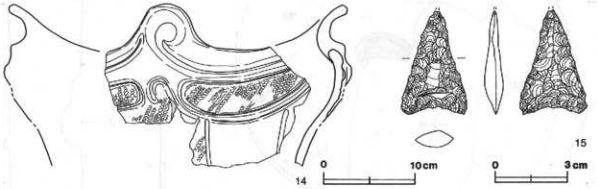
土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
2　褐　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム少ブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片9点，石器1点（石鏃）が出土している。第7図14は西部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後葉と考えられる。



第6図　第25号住居跡実測図



第7図　第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
14	縄文土器	深　鉢	[36.0]	(18.1)	—	口辺部を隆帯と沈線で区画し，RLの単節縄文を充填し，胴部には幅広の垂下文。	橙	長石・石英	普　通	西部覆土下層	5%　中期後葉（加曽利EⅢ式）　PL32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
15	石鏃	(4.3)	2.8	0.8	(6.8)	黒色安山岩	両面押圧剥離，基部の抉りは浅く，側縁は直線的	覆　土	先端部欠損　PL37

第34号住居跡（第8・9図）

位置　調査Ⅰ区の北西部B1d7区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　西部から南部を第35～37号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　平面形は径7.00mの円形と推定される。壁は外傾して立ち上がり，壁高は6～14cmである。

床　平坦で，中央部が硬化している。

炉　ほぼ中央部に付設されている。第36号住居跡に掘り込まれているため，長径116cm，短径80cmの楕円形で，床面を皿状に21cmほど掘りくぼめた地床炉と推定される。炉床は火熱を受けて硬化している。

炉土層解説

1　暗　褐　色　　ローム粒子少量，砂粒微量
2　暗赤褐色　　焼土粒子中量，焼土大ブロック・ローム粒子少量
3　灰　褐　色　　ローム粒子・砂粒少量
4　褐　　色　　焼土粒子・ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
5　暗　褐　色　　焼土粒子・ローム粒子・砂粒少量，焼土中ブロック微量

ピット　5か所。P1～P4は深さ19～37cmであり，規模と配置から柱穴と考えられる。P5の性格は不明である。

P1土層解説

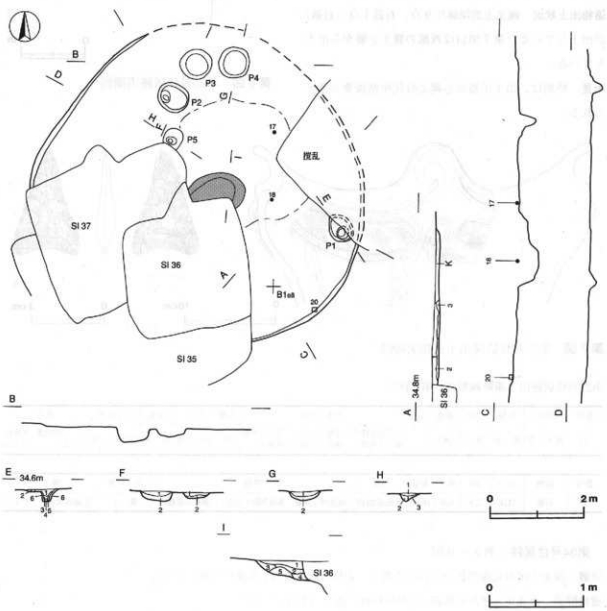
1　にぶい褐色　　ローム粒子・砂粒少量，ローム中ブロック微量
2　褐　　色　　ローム粒子少量
3　灰　褐　色　　ローム中ブロック微量
4　褐　　色　　ローム粒子中量
5　灰　褐　色　　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
6　褐　　色　　ローム粒子微量

P2土層解説

1　灰　褐　色　　ローム粒子少量
2　褐　　色　　ローム粒子中量

P3土層解説

1　灰　褐　色　　ローム粒子少量
2　褐　　色　　ローム小ブロック少量



第８図　第34号住居跡実測図

P4土層解説
1 灰 褐 色 ローム粒子少量
2 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

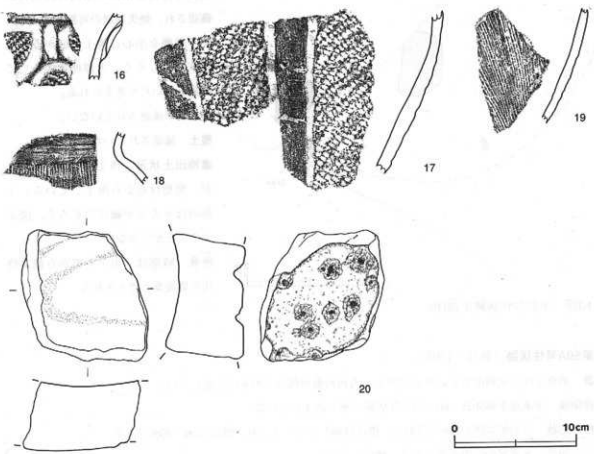
P5土層解説
1 灰 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2 灰 褐 色 ローム小ブロック微量
3 褐 色 ローム粒子少量

覆土 3層に分層される。全体的に暗褐色を基調として，ロームブロック・ローム粒子を含み，締まりがある。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子・ローム中ブロック微量
3 暗 褐 色 ローム中ブロック少量

遺物出土状況 縄文土器深鉢片113点，剥片1点，石器1点（石皿）が出土している。第9図17は北東部，18は東部，20は南部の，いずれも覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器及び遺構の形態から縄文時代中期後葉と考えられる。



第9図 第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表（第9図）

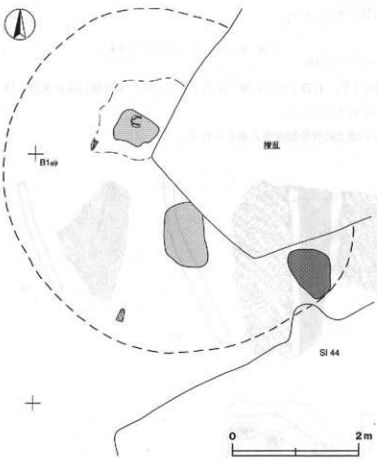
番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
16～19	深 鉢	16は口辺部近くで隆帯と沈線が文様帯を区画し，LRの単節縄文を充填している。17はRLの単節縄文を施文した懸垂文が見られる。18・19には条線文が施されている。	16・19は覆土，17・18は北東部と東部の覆土下層	中期後葉（加曽利EⅢ式）17 PL32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
20	石皿	(10.9)	(10.4)	5.7	(948.0)	安山岩	周囲に縁を有し，機能面は凹む，裏面に10穿孔	南部覆土下層	凹石転用 PL39

第42号住居跡（第10図）

位置　調査Ⅰ区の北西部Ｂ１ｅ8区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　南東部付近を第44号住居跡に掘り込まれている。



第10図　第42号住居跡実測図

規模と形状　すでに床が除去された状態であり，平面形は径5.60mほどの円形と推定される。壁は確認できなかったが，埋甕や焼土塊，炭化材などの遺物が出土している範囲で判断した。

床　ほぼ平坦で，埋甕付近が硬化し，埋甕の西側と南部の床面に炭化材が確認され，焼失家屋の可能性がある。

炉　埋甕を中心に焼土が広がる。甕は非常にもろく，土器埋設炉として機能していたと考えられる。

ピット　確認されていない。

覆土　確認されていない。

遺物出土状況　縄文土器深鉢片17点が，埋甕付近から出土している。土器のほとんどが細片でもろく，図示することができない。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後葉と考えられる。

第59A号住居跡（第11～15図）

位置　調査Ⅰ区の北西部Ｂ２ｊ1区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　南東部を第59Ｂ・60・61号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　平面形は径4.00mの円形で，壁は外傾して立ち上がり，壁高は30～35cmである。

床　平坦で，北東部から南西部にかけて硬化している。

炉　中央部に付設されている。長径87cm，短径60cmのほぼ楕円形で，床面を34cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床および炉壁は，火熱を受けて硬化している。

炉土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子多量，焼土小ブロック・ローム小ブロック中量	3	暗 赤 褐 色	ローム中ブロック・焼土小ブロック中量
2	黒　褐　色	ローム中ブロック中量，焼土小ブロック少量	4	暗 赤 褐 色	ローム大ブロック・焼土中ブロック多量

ピット　2か所。Ｐ1・Ｐ２は深さ22・29cmであり，規模と配置から柱穴と考えられる。

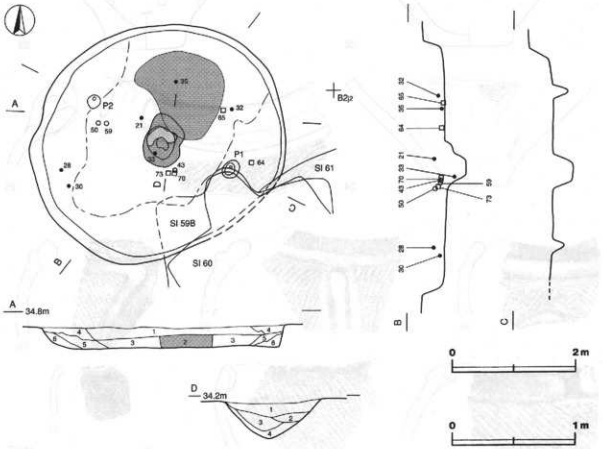
覆土　6層に分層される。全体的に黒褐色を基調としており，粘性が弱い。第１～４層に多量の遺物が投棄されていることから，人為堆積であり，５・６層はレンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

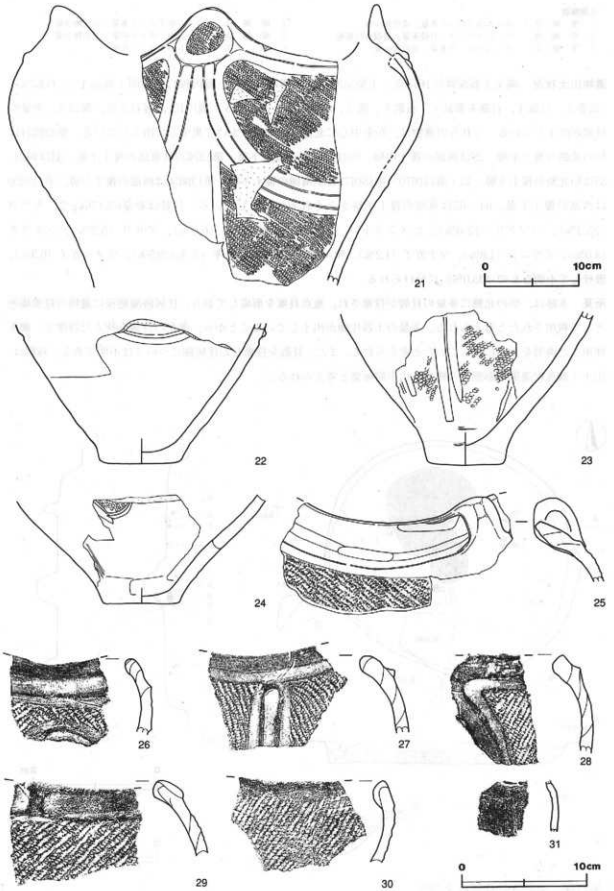
1	黒 褐 色	ローム中ブロック多量，炭化物少量	4	暗 褐 色	ローム中ブロック多量，炭化物少量
2	黒 褐 色	ローム中ブロック・貝殻多量，貝殻の投棄層	5	暗 褐 色	ローム中ブロック中量，炭化物少量
3	黒 褐 色	ローム中ブロック多量，炭化物中量	6	褐 色	ローム小ブロック多量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片1678点，土製品31点（土器片錘19，土器円板11，不明土製品１），石器24点（掻器１，石鏃４，石鏃未製品１，石匙１，錐１，磨製石斧１，石錘５，剥片10），軽石３点，礫12点，多量の貝殻が出土している。これらの遺物は，炉を中心に北部から東部にかけて集中して出土している。第12図21は炉の北側の覆土中層，28は西部の覆土中層，30は南西部の覆土下層，第13図32は東部の覆土下層，33は炉内，35は炉北側の覆土下層，43・第14図70・第15図73は炉南側の覆土下層，第13図50は西部の覆土中層，第14図59は西部の覆土下層，64・65は東部の覆土下層からそれぞれ出土している。貝殻は総量63.176kgで，キサゴ（25.3％），ハマグリ（12.0％），ヒメシラトリ（8.2％），オキシジミ（6.0％），アサリ（5.2％），シオフキ（4.0％），アカニシ（1.8％），マテガイ（1.2％），サルボウ・ホソコオロギ（ともに0.5％），ツメタガイ（0.3％），破砕して不明なもの（35.0％）に分けられる。

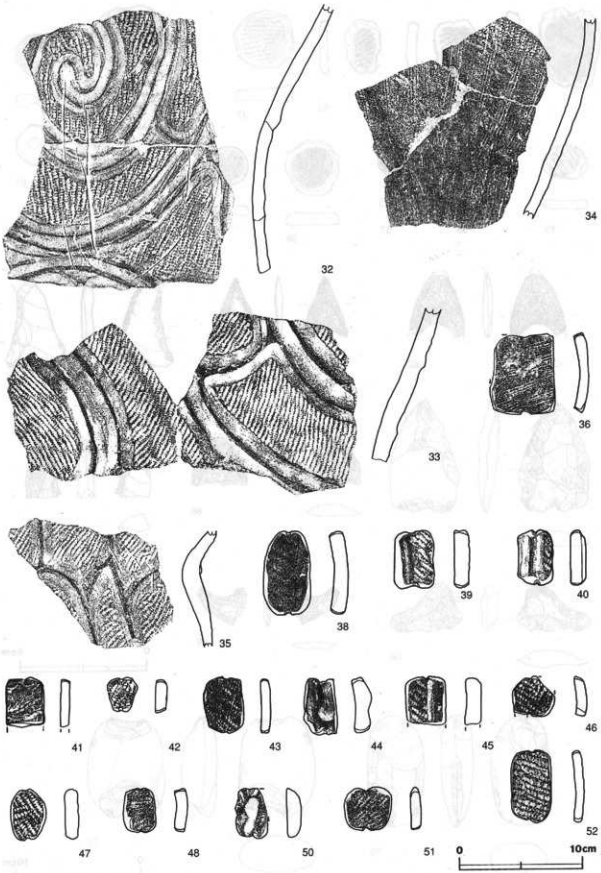
所見　本跡は，炉の北側に多量の貝殻が投棄され，地点貝塚を形成しており，住居跡廃絶後に遺物の投棄場所として利用されたと考えられる。多量の土器片錘が出土していることから，南北の台地を挟んだ谷津で，網を使用した漁労を中心に行っていたと考えられる。また，貝殻を投棄した住居跡については不明である。時期は，出土土器及び遺構の形態から縄文時代中期後葉と考えられる。



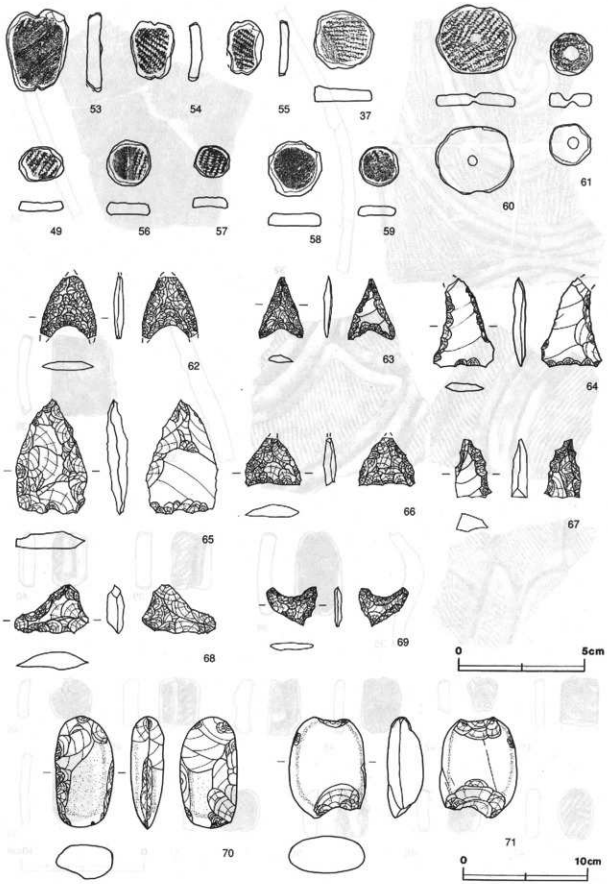
第11図　第59Ａ号住居跡実測図



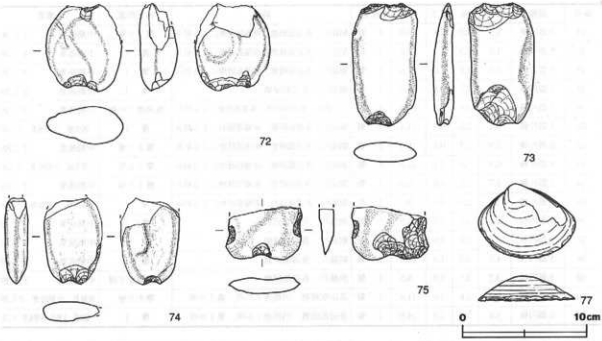
第12図　第59A号住居跡出土遺物実測図（1）



第13図　第59A号住居跡出土遺物実測図（2）



第14図　第59A号住居跡出土遺物実測図（3）



第15図　第59Ａ号住居跡出土遺物実測図（４）

第59Ａ号住居跡出土遺物観察表（第12～15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
21	縄文土器	深鉢	[34.0]	(30.0)	－	隆帯と沈線による連続した口縁部文様帯を有し、胴部は整垂区画文、ＲＬの単節縄文を施文	橙	雲母・長石・石英	普通	炉北側覆土中層	30% 中期後葉（加曽利Ｅ Ⅲ式） Ｐ L.32
22	縄文土器	深鉢	－	(11.3)	6.5	胴上部に沈線文	にぶい橙	雲母・長石・石英・赤色粒子	普通	覆土上層	5% 中期後葉（加曽利Ｅ Ⅲ式）
23	縄文土器	深鉢	－	(12.4)	6.0	整垂区画内にＲＬの単節縄文を充填	橙	雲母・長石・石英	普通	覆土上層	5% 中期後葉（加曽利Ｅ Ⅲ式）
24	縄文土器	深鉢	－	(8.8)	6.1	整垂区画内にＬＲの単節縄文を充填	にぶい橙	雲母・石英・赤色粒子	普通	覆　土	5% 中期後葉（加曽利Ｅ Ⅲ式）

番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
25～35	深　鉢	25は口縁部に把手・隆帯を貼り付け、地文はＬＲの単節縄文を施す。26は微隆帯区画内にＲＬの単節縄文を充填。27は口辺部に横位の沈線を周回し、縦位の沈線区画文を配している。全体にＲＬの単節縄文を施文。28・29もＲＬの単節縄文を施文し、隆帯や沈線で文様帯を区画。30はＲＬの単節縄文。31は条線文。32・33は隆帯と沈線による渦文状の文様帯を区画し、ＬＲの単節縄文を充填。34は胴上部にＲＬの単節縄文を、下部に条線文を施す。35は隆帯区画内にＲＬの単節縄文を充填。	25～27・34は覆土上層、28は西部覆土中層、29・31は覆土、30・32・35は南西部・東部・炉北側の覆土下層、33は炉内	中期後葉（加曽利Ｅ Ⅲ式）32～34 Ｐ L.31, 32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
36	土器片錘	6.6	6.7	0.8	(36.1)	土　製	口辺部片、各辺部研磨、両端部研磨による割み	覆　土	一部欠損　中期後葉 Ｐ L.38
37	土器円板	4.7	4.6	1.1	30.0	土　製	胴部片、一部研磨	覆土上層	中期後葉　Ｐ L.39
38	土器片錘	6.9	3.8	1.3	48.4	土　製	胴部片、各辺部研磨、両端部研磨による割み	覆土上層	中期後葉　Ｐ L.38
39	土器片錘	4.7	3.3	1.3	(29.2)	土　製	胴部片、各辺部研磨、両端部研磨による割み	覆土上層	一部欠損　中期後葉 Ｐ L.38
40	土器片錘	4.5	2.8	1.1	20.4	土　製	口辺部片、各辺部研磨、両端部研磨による割み	覆　土	中期後葉　Ｐ L.38
41	土器片錘	(3.9)	3.2	0.7	(13.2)	土　製	胴部片、各辺部研磨、両端部研磨による割み	覆土上層	一部欠損　中期後葉 Ｐ L.38
42	土器片錘	2.8	2.4	0.9	7.9	土　製	胴部片、各辺部研磨、両端部研磨による割み	覆土上層	中期後葉　Ｐ L.38
43	土器片錘	4.5	3.2	0.8	16.6	土　製	胴部片、各辺部研磨、両端部研磨による割み	炉南側覆土下層	中期後葉　Ｐ L.38
44	土器片錘	4.5	2.6	1.2	18.1	土　製	口辺部片、各辺部研磨、両端部研磨による割み	覆　土	中期後葉　Ｐ L.38
45	土器片錘	(4.9)	3.3	1.4	(25.1)	土　製	胴部片、各辺部研磨、両端部研磨による割み	覆　土	中期後葉　Ｐ L.38

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
46	土器片錘	3.3	3.5	0.8	(10.8)	土 製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による剥み	覆土上層	中期後葉 PL38
47	土器片錘	4.2	2.9	1.2	15.8	土 製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による剥み	覆 土	中期後葉 PL38
48	土器片錘	3.5	2.9	1.0	11.8	土 製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による剥み	覆 土	中期後葉 PL38
49	土器円板	2.8	3.7	0.8	9.0	土 製	胴部片，各辺部研磨	覆 土	中期後葉 PL39
50	土器片錘	4.0	2.6	1.3	(15.4)	土 製	口辺部片，各辺部研磨，両端部研磨による剥み	西部覆土中層	中期後葉 PL38
51	土器片錘	3.4	3.8	0.9	(14.4)	土 製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による剥み	覆 土	一部欠損 中期後葉 PL38
52	土器片錘	5.9	3.3	0.7	19.0	土 製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による剥み	覆土上層	中期後葉 PL38
53	土器片錘	6.3	5.0	1.1	(37.5)	土 製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による剥み	覆土上層	一部欠損 中期後葉 PL38
54	土器片錘	4.7	3.5	0.8	15.5	土 製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による剥み	覆土上層	中期後葉 PL38
55	土器片錘	4.3	2.9	0.6	(9.1)	土 製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による剥み	覆 土	一部欠損 中期後葉 PL38
56	土器円板	3.2	3.5	1.0	15.9	土 製	胴部片，各辺部研磨	覆 土	中期後葉 PL39
57	土器円板	2.5	2.9	0.8	7.2	土 製	胴部片，各辺部研磨	覆 土	中期後葉 PL39
58	土器円板	4.4	4.3	1.0	22.3	土 製	胴部片，各辺部研磨	覆 土	中期後葉 PL39
59	土器円板	3.2	3.1	0.9	8.5	土 製	胴部片，各辺部研磨	西部覆土下層	中期後葉 PL39
60	土器円板	5.5	5.8	1.0	44.0	土 製	各辺部研磨，凹部表1か所，裏1か所	覆土上層	未製品・中期後葉 PL39
61	土器円板	3.4	3.4	1.0	(14.9)	土 製	各辺部研磨，凹部表1か所，裏1か所	覆 土	一部欠損 未製品 中期後葉 PL39

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
62	石鏃	(2.5)	2.2	0.4	(2.1)	黒色安山岩	両面押圧剥離，基部の抉りは深く，側縁は曲線	覆 土	先端部欠損 PL37
63	石鏃	2.5	2.8	0.3	1.0	黒色安山岩	両面押圧剥離，基部の抉りは深く，側縁は直線	覆 土	PL37
64	掻器	(3.6)	2.4	0.5	(3.5)	黒色安山岩	両面押圧剥離，側縁は左右同方向の曲線	東部覆土下層	一部欠損 PL37
65	石鏃	4.6	2.9	0.8	9.5	黒色安山岩	両面押圧剥離，基部の抉りは浅く，側縁は曲線	東部覆土下層	PL37
66	石鏃	(1.9)	2.2	0.5	(2.0)	黒色安山岩	両面押圧剥離，基部の抉りはほとんどなく，側縁は曲線	覆 土	先端部欠損 PL37
67	石鏃	2.4	1.5	0.6	2.5	黒色安山岩	両面押圧剥離，側縁は曲線	覆 土	未製品 PL37
68	石匙	1.9	2.9	0.7	3.4	黒色安山岩	両面押圧剥離，縦形	覆 土	PL37
69	錐	1.6	2.0	0.3	0.9	チャート	両面押圧剥離，基部の抉りは深く，側縁は曲線	覆 土	PL37
70	唐鍬石斧	9.0	4.5	2.7	152.8	砂 岩	扁平礫利用，片刃	炉南側覆土下層	PL37
71	石錘	8.1	6.1	2.9	192.6	砂 岩	長軸方向上下に調整，自然石使用	表 採	PL37
72	石錘	(7.0)	6.1	3.0	(147.1)	凝灰岩	長軸方向上下に調整，自然石使用	覆土上層	一部欠損
73	石錘	9.9	5.2	1.6	130.6	砂 岩	長軸方向上下に調整，自然石使用	炉南側覆土下層	PL37
74	石錘	(6.9)	4.7	1.6	(79.7)	砂 岩	長軸方向下に調整，自然石使用	覆土上層	上部欠損
75	石錘	(4.3)	6.1	1.2	(49.4)	砂 岩	長軸方向下と短軸方向左右に調整，自然石使用	覆 土	上半部欠損

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	貝種	特徴	出土位置	備考
77	貝刃	6.0	7.8	1.9	26.7	ハマグリ	腹縁部に押圧調整	住居跡内地点貝塚	PL39

(2) 土坑

検出した土坑は，調査Ⅰ区19基，調査Ⅱ区1基の合計20基で，そのほとんどが調査Ⅰ区の北西部に位置している。時期は，縄文時代中期後葉に属するものが19基，時期不明が1基であり，住居跡の時期と一致している。以下，遺構と主な出土遺物について記述する。

第25号土坑（第16図）

位置　調査Ⅱ区の南部E 4 f2区に位置し，舌状台地の縁辺部斜面に立地している。

規模と形状　平面形は長径0.93m，短径0.80mの楕円形で，深さ22cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに立

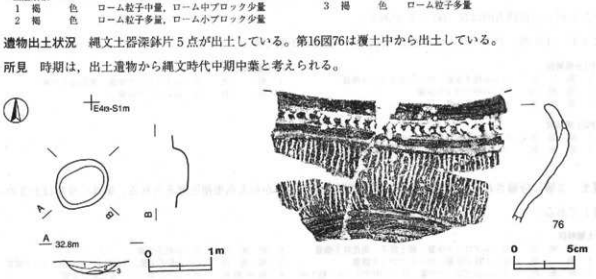
ち上がる。長径方向はN－33°－Eである。

覆土　3層に分層される。全体的に褐色土を基調とし，よく締まっている。また，ブロック状の堆積状況を示し，ローム粒子を多量に含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片5点が出土している。第16図76は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉と考えられる。



第16図　第25号土坑・出土遺物実測図

第25号土坑出土遺物観察表（第16図）

番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
76	深　鉢	口縁部に平行沈線文を巡らし，半截竹管による刺突文を施し，口辺部には縦位の条線文を施している。	覆　土	中期中葉（加曽利E Ⅱ式）　PL32

第49号土坑（第17図）

位置　調査Ⅰ区の北西部A 1 $_{16}$区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

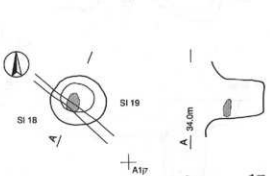
重複関係　南西部を第18号住居跡に，北東部を第19号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　平面形は長径0.92m，短径0.78mの楕円形で，深さは87cmである。底面は平坦で，壁は垂直に立ち上がり，長径方向はN－90°である。

覆土　単一層で，全体的に暗褐色土を基調とし，ローム粒子を多く含んでいる。底面から50～65cmの覆土中に貝殻が投棄されていることから，人為堆積と考えられる。

遺物出土状況　投棄された貝殻が覆土中層から出土している。貝殻は総量474gで，オキシジミが81.8%を占め，その他シオフキが10.0%，ハマグリが5.5%，サルボウが2.7%に分けられる。

所見　土坑内に投棄された貝塚で，土坑が廃棄された後，やや時間が経てから廃棄土坑として利用されたものである。時期については，土器が出土していないことから不明であるが，古墳時代の住居跡に掘り込まれていることから，縄文時代中期の可能性が高い。



第17図　第49号土坑実測図

第52号土坑（第18・19図）

位置　調査Ⅰ区の北西部Ｂ１ｆｇ区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　東部を第44号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　平面形は長径2.80m，短径2.45mの不定形で，深さは60cmである。底部は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，長径方向はＮ－60°－Ｅである。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ53～85cmで，性格は不明である。

P1土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗 褐 色　ローム中ブロック少量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量

P2土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

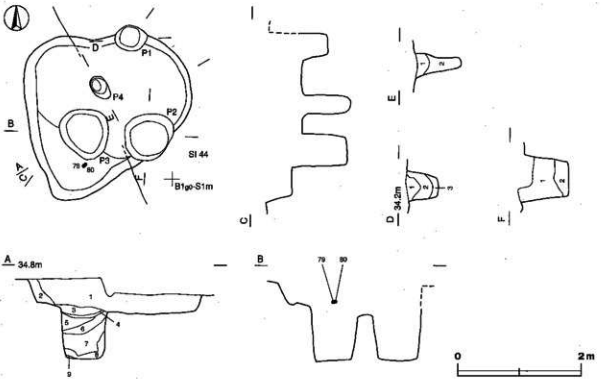
P4土層解説
1　褐　　色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック少量

覆土　２層に分層される。ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。第３～９層はＰ３の覆土である。

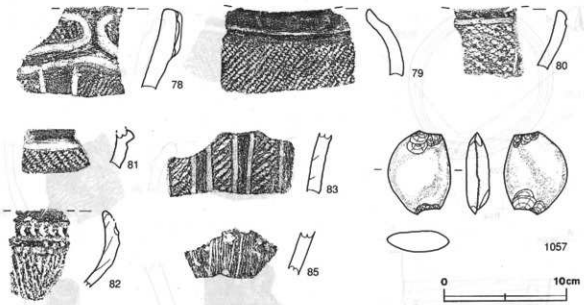
土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，ロームブロック微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・粘土中ブロック微量
4　褐　　色　ローム中ブロック中量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗 褐 色　ローム粒子少量
7　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子・粘土小ブロック微量
8　黒 褐 色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
9　黒 褐 色　ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片72点，石器２点（剥片１，石錐１）が出土している。第19図79・80は南部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土遺物と形態から縄文時代中期後葉と考えられる。



第18図　第52号土坑実測図



第19図　第52号土坑出土遺物実測図

第52号土坑出土遺物観察表（第19図）

番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
78～83，85	深　鉢	78は隆帯と沈線による口辺部文様帯と胴部の懸垂文を有し，区画内はＲＬの単節縄文を施文。79は微隆帯による口辺部施文帯を有し，下部にはＬＲの単節縄文を施文。80はＬＲの単節縄文を地文とし，口縁部に沈線を周回させる。81も同様である。82は口辺部に平行沈線を巡らし，半載竹管による刺突文を施し，下部には条線文を施文。83・85は懸垂文句画を有し，83はＲＬの単節縄文を充填し，85は条線文を地文としている。	78・81～83・85は覆土 79・80は南部覆土下層	中期後葉（加曽利ＥⅢ式）78，79，82 ＰＬ.32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
1057	石錘	6.8	5.1	1.8	83.6	凝灰質礫岩	長軸方向上下に調整，自然石使用	覆　土	ＰＬ.37

第60号土坑（第20図）

位置　調査Ｉ区の北西部Ｂ１ａ8区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　第22Ａ・22Ｃ・23号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　平面形は径2.50mの円形で，深さは92cmである。壁は垂直に立ち上がり，底面は平坦で，北壁の一部を除いて壁溝が周回する。

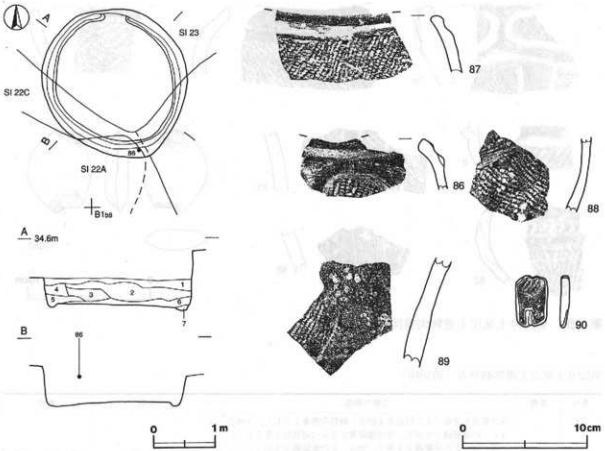
覆土　7層に分層される。全体的に褐色土を基調としている。ブロック状の堆積状況を示し，ロームブロックや焼土粒子，炭化物・粒子を含んだ人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐	色	ロームブロック中量，焼土小ブロック微量	5	褐	色	ローム小ブロック中量，炭化物少量
2	褐	色	ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐	色	ローム中ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐	色	ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量	7	褐	色	ローム小ブロック多量，炭化粒子微量
4	褐	色	ローム大ブロック・炭化物少量，焼土粒子微量				

遺物出土状況　縄文土器深鉢片45点，土器片錘１点が出土している。第20図86は南部の上層から出土している。

所見　時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。



第20図　第60号土坑・出土遺物実測図

第60号土坑出土遺物観察表（第20図）

番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
86～89	深　鉢	86は隆帯と沈線による口辺部文様帯を有し，87は口辺部に沈線を周回させている。88・89は胴部片で，LR・RLの単節縄文が施文されている。	86は南部覆土上層，87～89は覆土	中期後葉（加曽利E Ⅲ式）86，87は PL32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
90	土器片錘	4.1	2.6	0.7	11.9	土製	口辺部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	覆　土	中期後葉　PL38

第62号土坑（第21図）

位置　調査Ⅰ区の北西部B１e8区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　覆土上部を第39・40号住居跡に掘り込まれている。

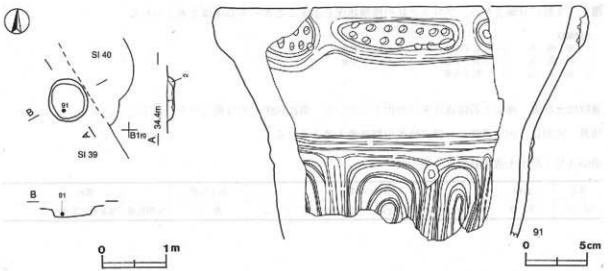
規模と形状　平面形は径0.70mの円形で，深さは13cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　２層に分層される。ブロック状の堆積状況を示し，土器片が覆土下層に一括して投棄されていることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム小ブロック少量
2　褐　　色　　ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片11点が出土している。第21図91は南部の覆土下層に一括して出土している。

所見　時期は，出土遺物及び遺構の形態から，縄文時代中期後葉と考えられる。



第21図　第62号土坑・出土遺物実測図

第62号土坑出土遺物観察表（第21図）

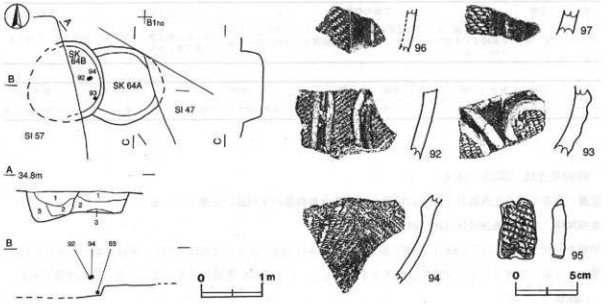
番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
91	縄文土器	深　鉢	[28.7]	(18.7)	—	口縁部は隆帯と沈線で区画した中に円形刺突文を充填し，胴部は隆帯による懸垂文状の区画がなされ，隆帯に沿って沈線文が施文されている。	橙	雲母・炎石・石英・赤色粒子	普通	南部覆土下層	15%　中期後葉（加曽利E式）PL32

第64A号土坑（第22図）

位置　調査Ⅰ区の北西部B１h9区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　東部を第47号住居跡，西部を第64B号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　平面形は径1.35mの円形と推定され，深さは32cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。



第22図　第64A・64B号土坑，出土遺物実測図

覆土　3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗　褐　色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3　褐　　色　　ローム粒子多量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片９点が出土している。第22図96・97は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。

第64Ａ号土坑出土遺物観察表（第22図）

番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
96・97	深　鉢	96・97は胴部片で，沈線による区画文を有している。	覆　土	中期後葉（加曽利ＥⅢ式）

第64Ｂ号土坑（第22図）

位置　調査Ｉ区の北西部Ｂ１ｈｈ区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　第64Ａ号土坑の西部を掘り込み，さらに第57号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　平面形は長径1.28m，短径0.96mの楕円形と推定され，深さは46cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，長径方向はＮ－36°－Ｅである。

覆土　3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片24点，土器片錘１点が出土している。第22図92・94は東部の覆土中層，93は東部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。

第64Ｂ号土坑出土遺物観察表（第22図）

番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
92～94	深　鉢	92・93は沈線によって文様帯が区画されたもので，いずれもＲＬの単節縄文が充填されている。94はＲＬの単節縄文が方向を変えて施されている。	92・94は東部覆土中層，93は東部覆土下層	中期後葉（加曽利Ｅ Ⅲ式）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
95	土器片錘	4.8	3.1	1.1	(21.3)	土製	胴部片，両端部研磨による刻み	覆　土	一部欠損　ＰＬ38

第68号土坑（第23・24図）

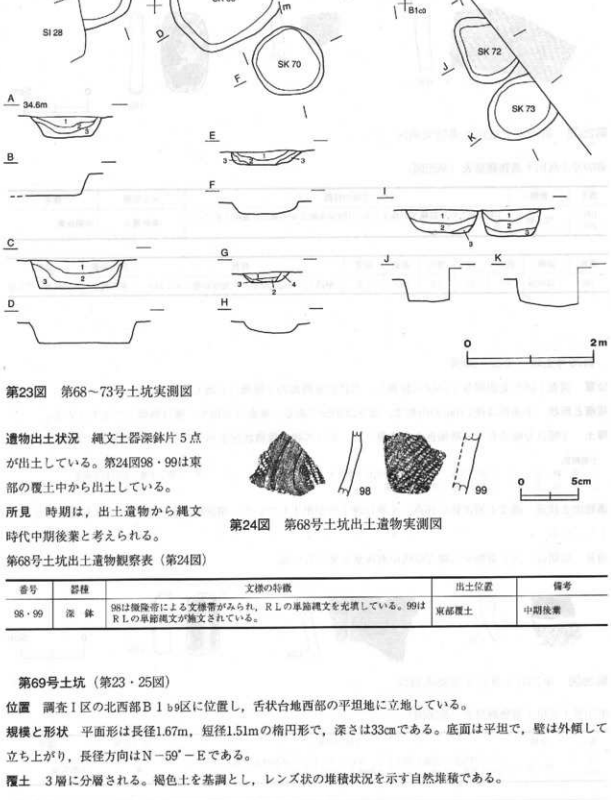
位置　調査Ｉ区の北西部Ｂ１ｂｂ区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　西部を第28号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　平面形は径1.30mの円形と推定され，深さは35cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　3層に分層される。全体的に褐色土を基調とし，レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積である。

土層解説
1　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　　ローム粒子少量，炭化粒子微量



第23図　第68～73号土坑実測図

遺物出土状況　縄文土器深鉢片５点が出土している。第24図98・99は東部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。

第24図　第68号土坑出土遺物実測図

第68号土坑出土遺物観察表（第24図）

番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
98・99	深　鉢	98は微隆帯による文様帯がみられ，ＲＬの単節縄文を充填している。99はＲＬの単節縄文が施文されている。	東部覆土	中期後葉

第69号土坑（第23・25図）

位置　調査Ｉ区の北西部Ｂ１ｂ9区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

規模と形状　平面形は長径1.67m，短径1.51mの楕円形で，深さは33cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，長径方向はＮ－59°－Ｅである。

覆土　３層に分層される。褐色土を基調とし，レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1	褐	色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子微量	3	褐	色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐	色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量				

遺物出土状況　縄文土器深鉢片21点，土器片錘１点が出土している。第25図100～102はいずれも東部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。

第25図　第69号土坑出土遺物実測図

第69号土坑出土遺物観察表（第25図）

番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
100・101	深　鉢	100はＲＬの単節縄文が施文され，101は条線文が円弧状に施文されている。	東部覆土	中期後葉

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
102	土器片錘	6.4	3.7	1.0	36.4	土製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	東部覆土	中期後葉　ＰＬ38

第70号土坑（第23・26図）

位置　調査Ｉ区の北西部Ｂ１ｃ9区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

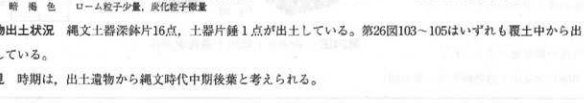
規模と形状　平面形は径1.10mの円形で，深さは20cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層に分層される。暗褐色土を基調とし，レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片16点，土器片錘１点が出土している。第26図103～105はいずれも覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。



第26図　第70号土坑出土遺物実測図

第70号土坑出土遺物観察表（第26図）

番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
103・104	深　鉢	103は口辺部に沈線を周回させ，それ以下にＲＬの単節縄文を施文している。104は羽状文区画内にＲＬの単節縄文が充填されている。	覆　土	中期後葉

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
105	土器片錘	5.1	2.5	1.4	24.6	土製	口辺部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	覆　土	中期　ＰＬ38

第71号土坑（第23・27図）

位置　調査Ⅰ区の北西部Ｂ１ｂ9区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

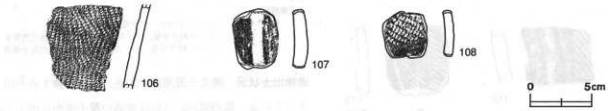
規模と形状　平面形は長径0.88m，短径0.68mの楕円形で，深さは18cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに立ち上がり，長径方向はＮ－34°－Ｅである。

覆土　4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片８点，土器片錘２点が出土している。第27図106～108はいずれも西部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。



第27図　第71号土坑出土遺物実測図

第71号土坑出土遺物観察表（第27図）

番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
106	深鉢	ＲＬの半截縄文が施文されている。	西部覆土	中期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
107	土器片錘	4.8	3.5	1.3	25.7	土製	口辺部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	西部覆土	中期後葉
108	土器片錘	3.8	3.6	0.9	16.8	土製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	西部覆土	中期後葉

第72号土坑（第23・28図）

位置　調査Ⅰ区の北西部Ｂ１ｃ0区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

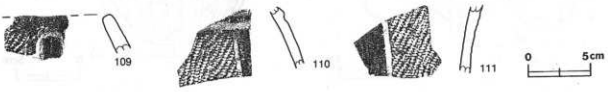
規模と形状　平面形は長径1.17m，短径0.75mの不定形で，深さは35cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，長径方向はＮ－37°－Ｗである。

覆土　3層に分層される。褐色土を基調とし，ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片23点が出土している。第28図109～111はいずれも覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。



第28図　第72号土坑出土遺物実測図

第72号土坑出土遺物観察表（第28図）

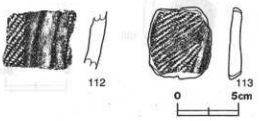
番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
109～111	深　鉢	いずれも沈線によって文様帯を区画し，ＲＬの単節縄文を施文している。110と111は同一個体である。	覆　土	中期後葉

第73号土坑（第23・29図）

位置　調査Ｉ区の北西部Ｂ１ｃｏ区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

規模と形状　平面形は長径1.20m，短径1.00mの楕円形と推定され，深さは43cmである。底面は平坦で，壁は垂直に立ち上がり，長径方向はＮ－52°－Ｅである。

覆土　３層に分層される。褐色土を基調とし，平衡的な堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。



第29図　第73号土坑出土遺物実測図

土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片20点，土器片錘１点が出土している。第29図112・113は東部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。

第73号土坑出土遺物観察表（第29図）

番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
112	深　鉢	隆帯と沈線によって文様帯を区画し，ＲＬの単節縄文を充填している。	東部覆土	中期後葉

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
113	土器片錘	5.8	5.1	1.0	41.2	土製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による剥み	東部覆土	中期（加曽利Ｅ式）　ＰＬ38

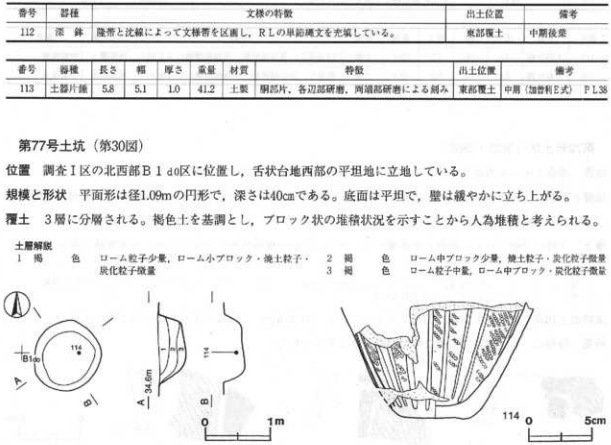
第77号土坑（第30図）

位置　調査Ｉ区の北西部Ｂ１ｄｏ区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

規模と形状　平面形は径1.09mの円形で，深さは40cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに立ち上がる。

覆土　３層に分層される。褐色土を基調とし，ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量



第30図　第77号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器深鉢片11点が出土している。第30図114は中央部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。

第77号土坑出土遺物観察表（第30図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
114	縄文土器	深鉢	－	(9.2)	5.0	沈線による懸垂文区画内に L R の羽節縄文を充填している。	明赤褐	金雲 長石 石英 赤色粒子	普通	中央部覆土中層	10% 中期後葉

第81号土坑（第31図）

位置　調査Ⅰ区の北西部Ｂ１ｃ5区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　南西部を第32号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　平面形は長径1.98m，短径1.43mの楕円形で，深さは16cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，長径方向はＮ－62°－Ｗである。

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ69・72cmで，性格は不明である。

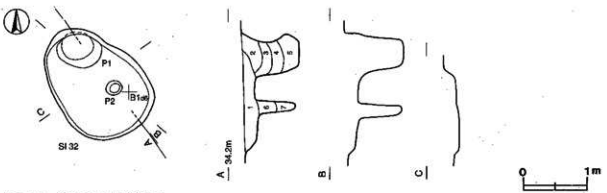
覆土　２層に分層される。褐色土を基調として，Ｐ１・Ｐ２ともに埋め戻されていることから人為堆積である。第３～５層はＰ１，第６・７層はＰ２の覆土である。

土層解説

1	褐	色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量	5	褐	色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
2	褐	色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量	6	暗	褐 色	ローム小ブロック・炭化粒子微量
3	褐	色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	7	褐	色	ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
4	褐	色	ローム粒子中量				

遺物出土状況　遺物は出土していないが，重複している第32号住居跡からは縄文土器片が７点出土している。

所見　時期は，遺構の形態から縄文時代中期後葉と考えられる。



第31図　第81号土坑実測図

第86号土坑（第32図）

位置　調査Ⅰ区の北西部Ｂ２ｇ1区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

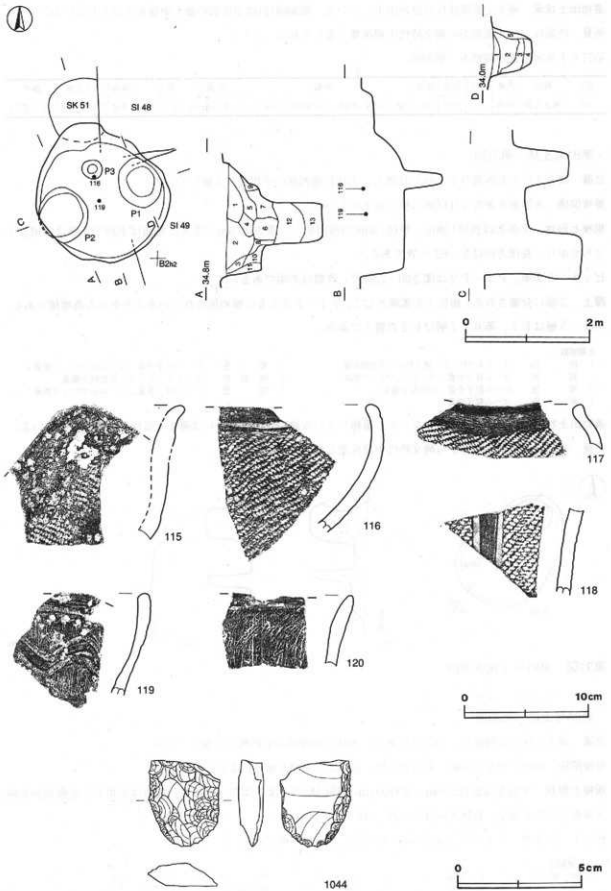
重複関係　第48・49号住居跡と第51号土坑に北部から東部を掘り込まれている。

規模と形状　平面形は長径2.26m，短径2.04mの楕円形で，深さは72cmである。底面は平坦で，北壁部分を除き垂直に立ち上がり，長径方向はＮ－27°－Ｗである。

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ65～95cmで，性格は不明である。

P1土層解説

1	暗	褐 色	ローム粒子中量	4	褐	色	ローム小ブロック少量
2	褐	色	ローム粒子多量，ローム中ブロック少量	5	極	暗 褐色	ローム粒子中量
3	暗	褐 色	ローム粒子少量				



第32図　第86号土坑・出土遺物実測図

覆土　11層に分層される。ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。第12・13層はＰ２の覆土である。

土層解説

1	暗　褐　色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量		8	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量	
2	暗　褐　色	ローム小ブロック少量，焼土粒子微量		9	褐　色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量	
3	褐　色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量		10	暗　褐　色	ローム中ブロック少量	
4	褐　色	ローム中ブロック微量		11	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量	
5	褐　色	ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量		12	褐　色	ローム中ブロック少量	
6	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量		13	暗　褐　色	ローム小ブロック少量	
7	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量					

遺物出土状況　縄文土器深鉢片160点，掻器１点，剥片１点が出土している。第32図116・119は中央部の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。

第86号土坑出土遺物観察表（第32図）

番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
115～120	深　鉢	115は口辺部無文帯を有し，下部はＲＬの単節縄文を施文している。116は口辺部に横位の沈線を周回させ，ＲＬの単節縄文を施文している。117も口辺部無文帯を有し，下部にＲＬの単節縄文を施文している。118は沈線による懸垂文区画を有している。119・120は条線文を施文とし，119は口辺部に沈線を巡らし，120は口辺部に横位の矢羽文を施文している。	116・119は中央部覆土上層，115・117・118・120は覆土	中期後葉（加曽利E Ⅲ式）115，116，119 ＰL32

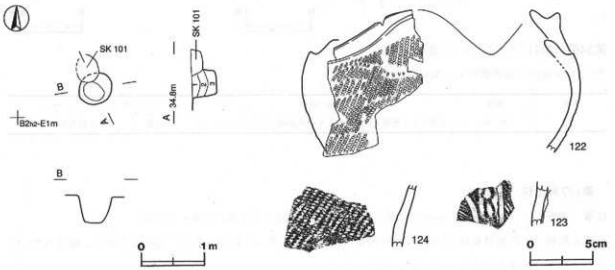
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
1044	掻器	3.4	2.8	1.0	11.9	黒色安山岩	上方からの打撃による剥離	覆　土	ＰL37

第102号土坑（第33図）

位置　調査Ｉ区の北西部Ｂ２$_{g2}$区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　第101号土坑に北部を掘り込まれている。

規模と形状　平面形は長径0.56m，短径0.50mの楕円形で，深さは40cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，長径方向はＮ－41°－Ｅである。



第33図　第102号土坑・出土遺物実測図

覆土　3層に分層される。平衡的な堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子少量
2　褐　　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　褐　　色　　ローム中ブロック微量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片21点が出土している。第33図122は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。

第102号土坑出土遺物観察表（第33図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
122	縄文土器	鉢	[16.4]	(11.9)	－	口辺部施文帯を有し，下部にＬＲの単節縄文を施文している。	にぶい黄褐	長石・石英	普通	覆　土	10% 中期後葉

番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
123・124	深　鉢	123は貼付文と沈線文が，124はＬＲの単節縄文が施文されている。	覆　土	中期後葉

第113号土坑（第34図）

位置　調査Ｉ区の中央部Ｃ２ｃ6区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　第72号住居跡に掘り込まれている。

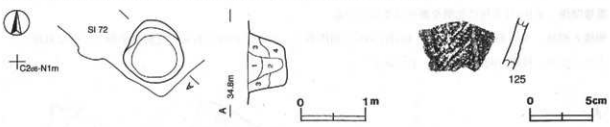
規模と形状　平面形は長径1.03m，短径0.93mの楕円形で，深さは66cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，長径方向はＮ－12°－Ｗである。

覆土　4層に分層される。ロームブロックを含み，ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　　ローム中ブロック少量
3　暗　褐　色　　ローム中ブロック少量
4　暗　褐　色　　ローム小ブロック少量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片７点が出土している。第34図125は覆土中から出土している。

所見　時期は，遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。



第34図　第113号土坑・出土遺物実測図

第113号土坑出土遺物観察表（第34図）

番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
125	深　鉢	沈線による懸垂文区画内にＬＲの単節縄文が充填されている。	覆　土	中期後葉

第177号土坑（第35図）

位置　調査Ｉ区の中央部Ｃ２ｂ3区に位置し，舌状台地中央部の平坦地に立地している。

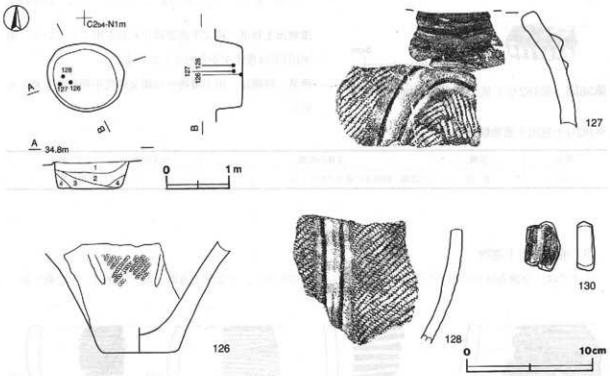
規模と形状　平面形は長径0.72m，短径0.61mの楕円形で，深さは45cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，長径方向はＮ－53°－Ｗである。

覆土　4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示し，第3・4層の層位が逆転していることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム中ブロック中量
2　暗　褐　色　　ローム大ブロック多量
3　黒　褐　色　　ローム中ブロック中量
4　褐　　色　　ローム中ブロック中量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片50点，土器片錘1点が出土している。第35図126は西部の覆土下層，127・128は西部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。



第35図　第177号土坑・出土遺物実測図

第177号土坑出土遺物観察表（第35図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
126	縄文土器	深鉢	—	(8.9)	5.6	沈線による整形文区画内にＬＲの単節縄文が充填されている。	にぶい赤褐	雲母・長石・石英	普通	西部覆土下層	5％　中期後葉

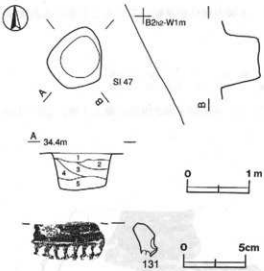
番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
127・128	深　鉢	127・128は平行する撚糸帯で文様帯が区画され，ＲＬの単節縄文が区画内に充填されている。	西部覆土中層	中期後葉　127　PL32

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
130	土製円盤	4.0	2.7	1.4	17.2	土製	口辺部片，両端部研磨による斜み	覆　土	中期　PL36

第182号土坑（第36図）

位置　調査Ⅰ区の北西部Ｂ２h1区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　第47号住居跡に掘り込まれている。



第36図　第182号土坑・出土遺物実測図

規模と形状　平面形は長径1.02m，短径0.88mの不整楕円形で，深さは57cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，長径方向はN－16°－Eである。

覆土　5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐　色	ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
2	暗 褐 色	ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
3	黒 褐 色	ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
4	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム大ブロック微量
5	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム大ブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器深鉢片6点が出土している。第36図131は覆土中から出土している。

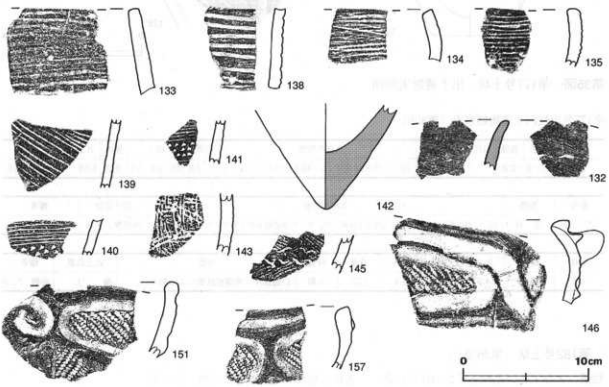
所見　時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。

第182号土坑出土遺物観察表（第36図）

番号	器種	文様の特徴	出土位置	備考
131	深　鉢	口辺部に刺突文が施文されている。	覆　土	中期後葉

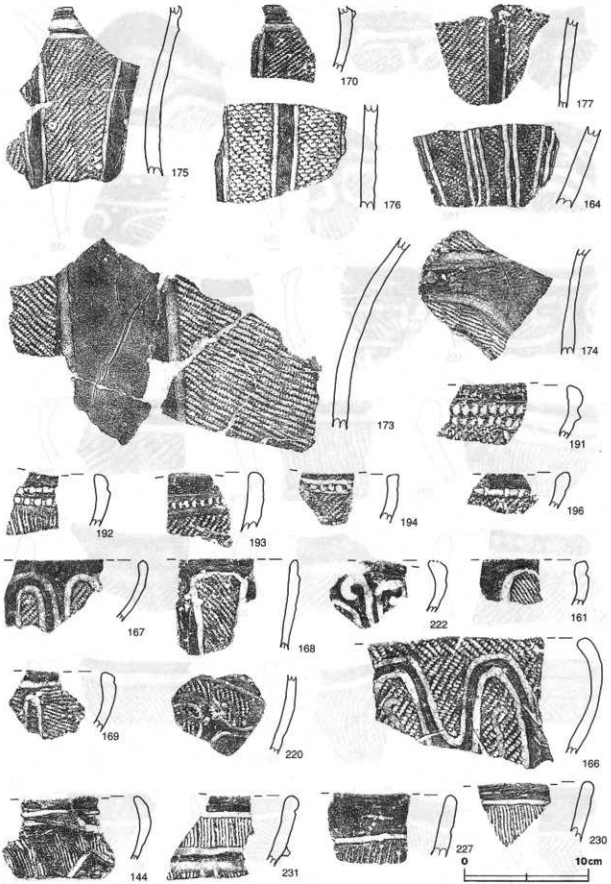
(3) 遺構外出土遺物

ここでは，全調査区から出土した遺構に伴わない遺物の中から，主な出土遺物（第37～48図）を記載する。

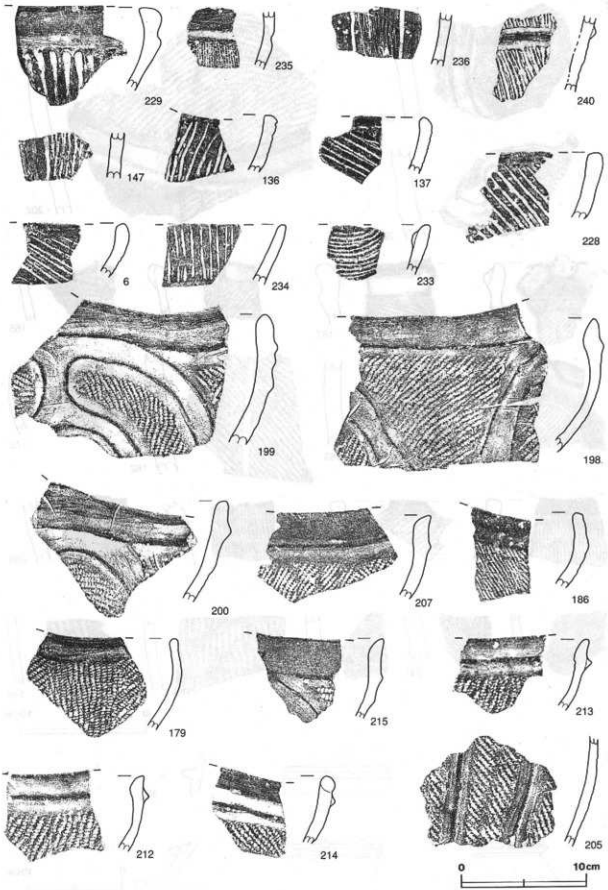


第37図　遺構外出土遺物実測図（1）

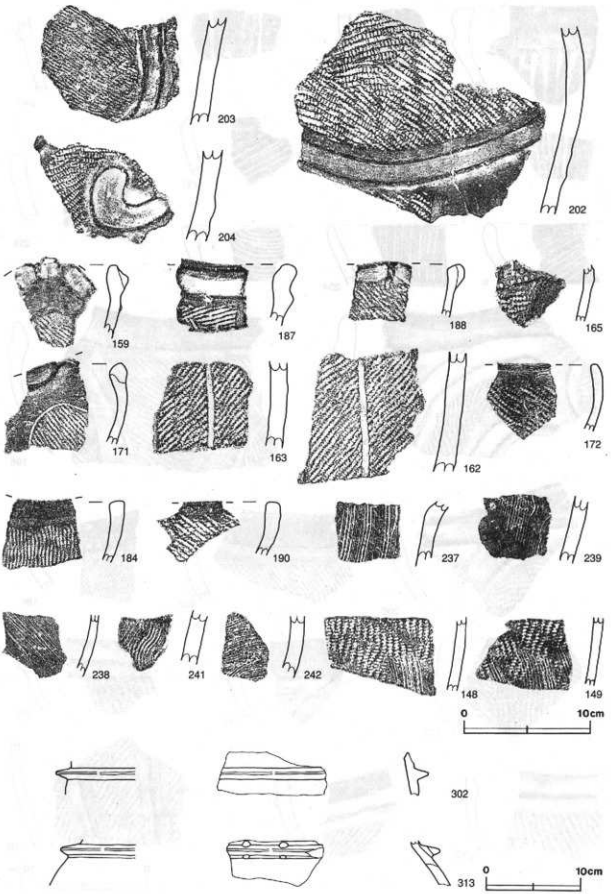
第38図　遺構外出土遺物実測図（2）



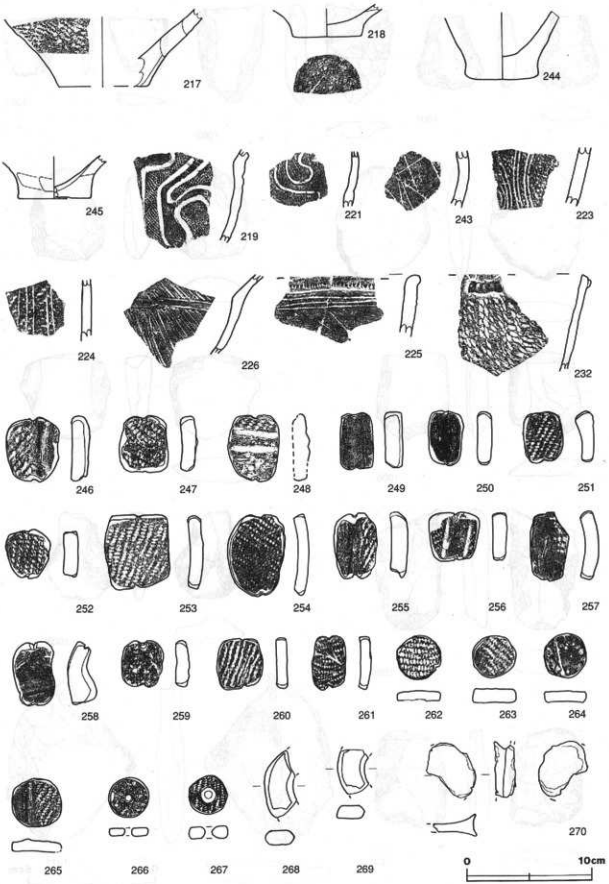
第39図　遺構外出土遺物実測図（3）



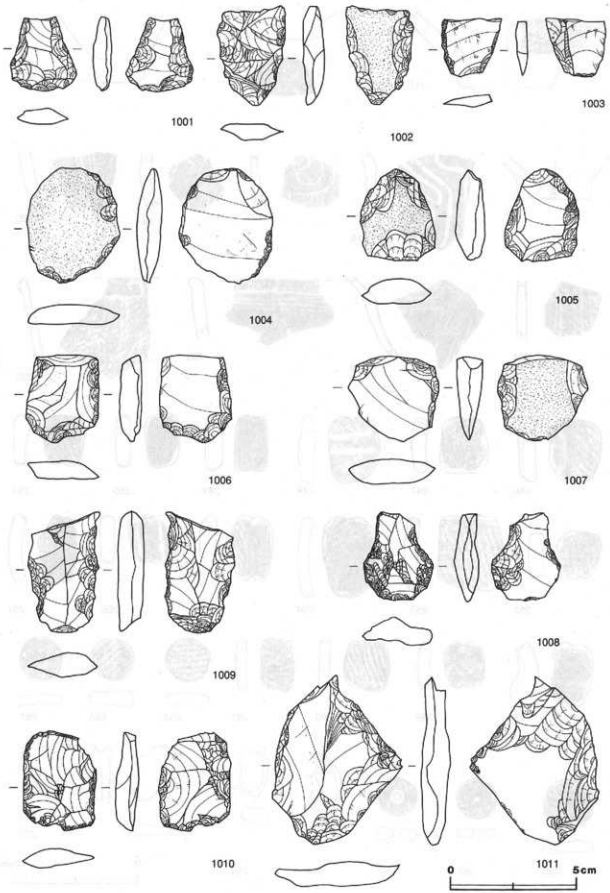
第40図　遺構外出土遺物実測図（4）



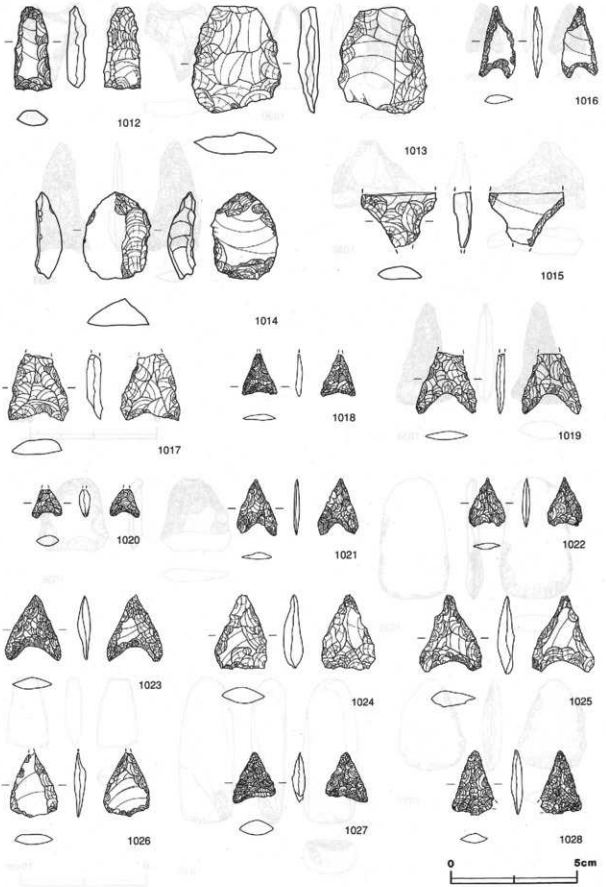
第41図　遺構外出土遺物実測図（5）



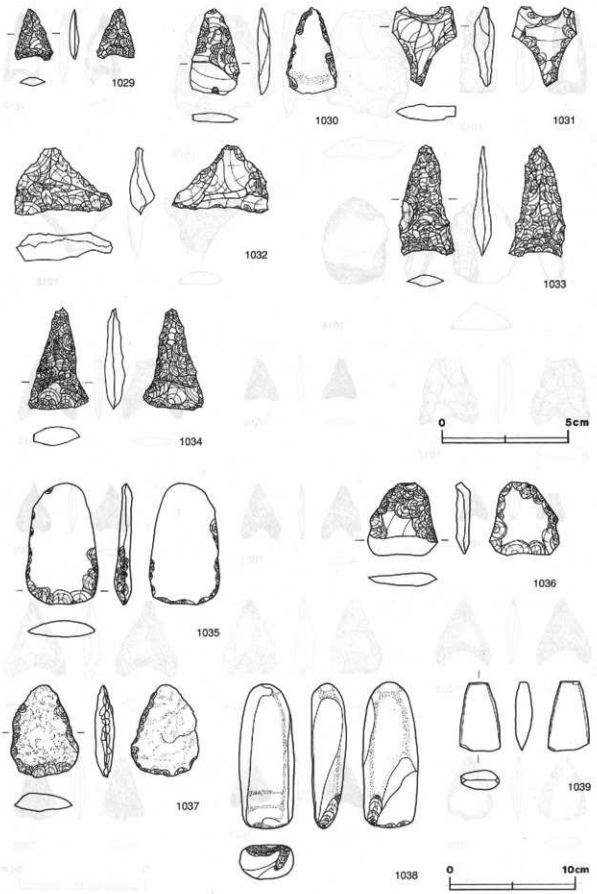
第42図　遺構外出土遺物実測図（6）



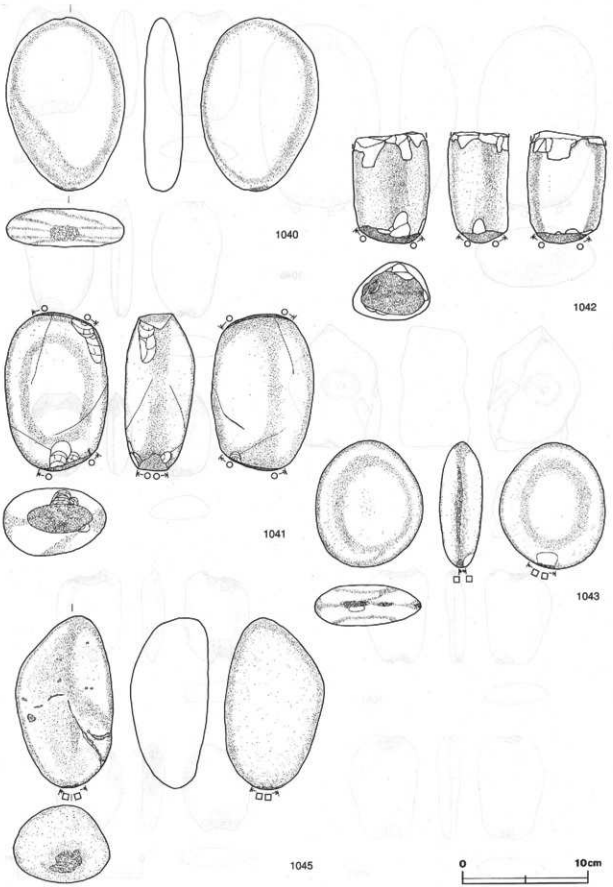
第43図　遺構外出土遺物実測図（7）



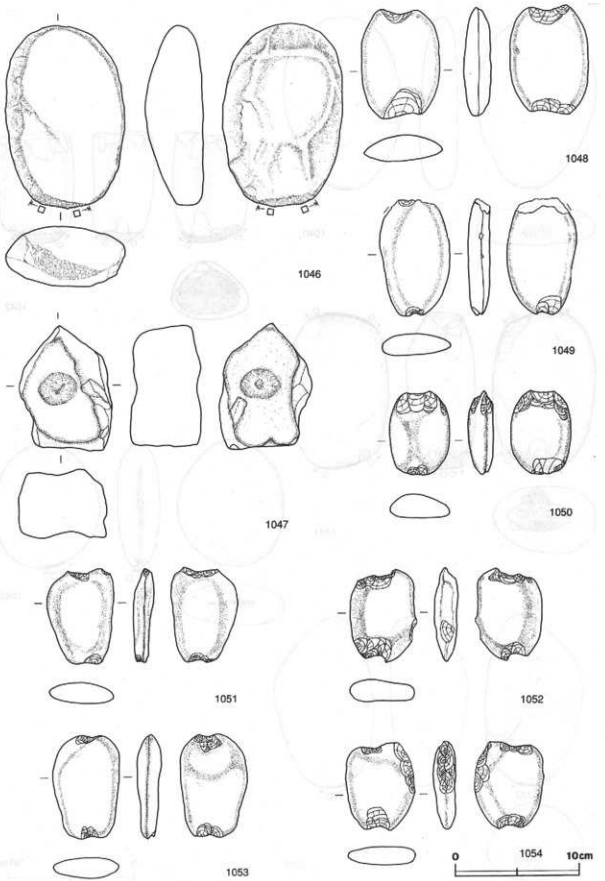
第44図　遺構外出土遺物実測図（8）



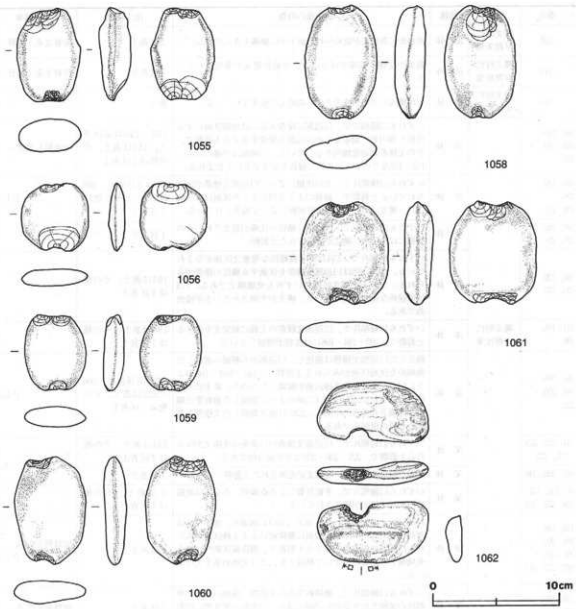
第45図　遺構外出土遺物実測図（9）



第46図　遺構外出土遺物実測図（10）



第47図　遺構外出土遺物実測図（11）



第48図　遺構外出土遺物実測図（12）

遺構外出土遺物観察表（第37～48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
142	縄文土器	深　鉢	－	(8.5)	－	尖底部片	明赤褐	雲母・長石・石英・繊維	普通	Ⅰ区表土	10%　早期中葉（沈線文系）
217	縄文土器	深　鉢	－	(5.5)	[7.0]	L R の単節縄文を施す	明褐	雲母・長石	普通	Ⅰ区表土	5%　中期末
218	縄文土器	深　鉢	－	(2.6)	4.4	ヘラ削りが施されている	明赤褐	雲母	普通	Ⅰ区表土	5%　中期末
244	縄文土器	深　鉢	－	(5.4)	5.9	ヘラ削りが施されている	橙	石英	普通	Ⅰ区表土	5%　中期末
245	縄文土器	深　鉢	－	(3.4)	6.0	ヘラ削りが施されている	橙	石英・白色粒子	普通	Ⅰ区表土	5%　後期
302	縄文土器	有孔鍔付土器	－	(4.5)	－	鍔部片	にぶい黄褐	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	Ⅰ区表土	5%　中期後葉　P L.36
313	縄文土器	有孔鍔付土器	－	(4.8)	－	鍔部片，2孔を有している	にぶい橙	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	Ⅰ区表土	5%　中期後葉　P L.33

番号	時期	器種	文様の特徴	出土位置	備考
133～135，138～141	縄文時代早期中葉	深　鉢	器面に横位あるいは斜位の沈線が施文された土器群。133・138はやや太い沈線で，134・135・139～141は細く，140・141には刺突文が施文されている。	133～135・138～140　Ⅰ区表土 141　表土	沈線文系土器群　P L.33

番号	時期	器種	文様の特徴	出土位置	備考
132	縄文時代 早期末葉	深鉢	表裏面に条痕文が認められ，胎土中に繊維を含んでいる。	Ⅰ区表土	条痕文系土器群 P L 33
143	縄文時代 前期後葉	深鉢	器面の文様は明確ではないが，半截竹管文が多用されている。	Ⅰ区表土	竹管文系土器群 P L 33
145	縄文時代 中期初頭	深鉢	羽状構成の文様が施文され，結節文が施文されている。	表土	P L 33
146, 150~158, 160, 201		深鉢	いずれも口縁部片で，口辺部に隆帯あるいは沈線区画による円形・楕円形・渦巻などの口辺部文様帯を有する土器群で，その文様帯は退化傾向を示している。口縁部は平縁のほか，153・158などのように舌状に波状を呈するものも含まれる。	152・158はⅡ区表土，154は表土，その他はⅠ区表土	加曽利ＥⅢ式か P L 33
178, 183, 206, 208~211		深鉢	いずれも口縁部片で，太い沈線によって口辺部文様帯が区画されている土器群で，前者のような円形などの区画はみられない。縄文はほとんどが横位回転によって施文されている。	208はⅡ区表土，189は表土，その他はⅠ区表土	P L 33・34
180~182, 185, 195, 216		深鉢	いずれも口縁部片で，口縁部に横位の沈線が施文され，その下部には全体的に縄文が施文された土器群。	Ⅰ区表土	P L 34
164, 170, 173~177		深鉢	いずれも胴部片で，174以外は直線的な懸垂文区画がなされている。170・175は口辺部文様帯を区画する横位の隆帯がみられる。これらの縄文区画はいずれも充填縄文である。174は曲線的な沈線区画がみられ，縄文が充填されているが後出的である。	164は表土，その他はⅠ区表土	
191~194, 196	縄文時代 中期後葉	深鉢	いずれも口縁部片で，口辺部文様帯の上部に刺突文を有する土器群で，193・194・196には沈線が周回している。	196は表土，その他はⅠ区表土	P L 34
161, 166~169, 220, 222		深鉢	独立した口辺部文様帯は退化し，Ⅱ辺部から胴部へ連続した曲線的な沈線区画がみられる土器群で，161・167・168のように口辺部まで懸垂文様区画が展開したものや，蕨手状の沈線が付加された222，さらに166のように連続した曲線帯に縄文が充填されたものもある。220は166と類似した文様帯を有する土器の胴部片である。	220はⅡ区表土，166・222は表土，その他はⅠ区表土	P L 34・35
144, 227, 229~231, 235		深鉢	いずれも口辺部片で，口辺部文様帯内に多条の沈線文がみられる土器群で，227・230・235はやや後出的である。	144は表土，その他はⅠ区表土	P L 35
147, 236, 240		深鉢	胴部の懸垂文様区画に沈線文が充填された土器群。	Ⅰ区表土	P L 35
6, 136, 137, 228, 233, 234		深鉢	いずれも口縁部片で，半截竹管による直線的，あるいは連弧状の平行沈線文が施文されている。	6は表土，その他はⅠ区表土	P L 35
179, 186, 198~200, 202~205, 207, 212~215		深鉢	179・186・198~200・207・212~215は口縁部片，202~205は胴部片であり，いずれも器面に微隆線による文様区画がみられる口辺部に無文帯を有する土器群で，微隆線区画内は縄文充填部分と無文部によって構成され，より文様効果を上げている。	Ⅰ区表土	加曽利ＥⅣ式 P L 35・36
159, 165, 187, 188		深鉢	いずれも口縁部片で，微隆線文系の土器群。波状口縁部に突起状の装飾を有する159・188のほか，口辺部の無文帯に円形の刺突文がみられるものもある。	Ⅰ区表土	加曽利ＥⅣ式 P L 36
171		深鉢	沈線によって文様区画がなされ，区画内に縄文が充填されている。	Ⅰ区表土	
162, 163		深鉢	縄文地に縦位の沈線が施文されている。	Ⅰ区表土	
172, 184, 190		深鉢	いずれも口縁部片で，無文帯を有し，下部に縄文が施文されている。	184は表土，その他はⅠ区表土	P L 36
148, 149, 237~239, 241, 242		深鉢	いずれも胴部片で，櫛目状文が施文されているが，148・149は上部に縄文，下部に櫛目状文がみられる。	Ⅰ区表土	P L 36
219, 221	縄文時代 後期初頭	深鉢	曲線的な条線区画内に縄文を充填させた土器群。	Ⅰ区表土	称名寺式 P L 36
243		深鉢	沈線による格子状文が施文されている胴部片。	Ⅱ区表土	
223, 224	縄文時代 後期前葉	深鉢	いずれも胴部片で，縄文地に半截竹管による沈線文が施文されている。	Ⅰ区表土	堀之内Ⅰ式 P L 36
225, 226, 232	縄文時代 後期後葉	深鉢	225は口辺部片で，口唇部に刻みを有している。226は胴部片で，頸部に横位の無文帯を区画し，地文は斜位の条線文を施文している。232は口縁部片で，口辺部に押圧隆帯が貼付され，地文は組縄を縄文が施文されている。	Ⅰ区表土	加曽利Ｂ式 P L 36

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
246	土器片錘	5.1	4.1	1.2	27.7	土製	口辺部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	Ⅰ区表土	中期後葉 P L.38
247	土器片錘	4.5	3.8	1.2	27.0	土製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	Ⅰ区表土	P L.38
248	土器片錘	5.4	4.2	1.3	35.2	土製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	Ⅰ区表土	中期後葉 P L.38
249	土器片錘	4.4	1.6	1.3	19.8	土製	口辺部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	Ⅰ区表土	P L.38
250	土器片錘	4.3	2.7	1.0	16.9	土製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	Ⅰ区表土	中期後葉 P L.38
251	土器片錘	4.0	3.1	1.4	18.6	土製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	Ⅰ区表土	P L.38
252	土器片錘	3.8	3.6	1.1	19.9	土製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	Ⅰ区表土	P L.38
253	土器片錘	5.9	5.1	1.1	47.7	土製	口辺部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	Ⅰ区表土	P L.38
254	土器片錘	6.6	4.6	0.9	37.3	土製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	Ⅰ区表土	P L.38
255	土器片錘	5.3	3.4	1.3	30.5	土製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	Ⅰ区表土	中期後葉 P L.38
256	土器片錘	3.9	4.1	1.2	23.6	土製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	Ⅰ区表土	中期後葉 P L.38
257	土器片錘	5.4	3.0	1.1	19.6	土製	口辺部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	Ⅰ区表土	中期後葉 P L.38
258	土器片錘	5.1	3.3	1.7	33.9	土製	口辺部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	Ⅰ区表土	P L.38
259	土器片錘	3.8	3.3	1.0	14.9	土製	胴部片，両端部研磨による刻み	Ⅰ区表土	P L.38
260	土器片錘	4.0	3.7	0.9	19.3	土製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	Ⅰ区表土	P L.38
261	土器片錘	4.3	2.7	0.9	13.5	土製	胴部片，各辺部研磨，両端部研磨による刻み	Ⅰ区表土	P L.38
262	土器円板	3.4	3.4	0.8	(11.0)	土製	胴部片，各辺部研磨	Ⅰ区表土	裏面破損 P L.39
263	土器円板	3.5	3.5	1.1	16.0	土製	胴部片，各辺部研磨	Ⅰ区表土	P L.39
264	土器円板	3.5	3.3	0.8	13.8	土製	胴部片，各辺部研磨	Ⅰ区表土	P L.39
265	土器円板	4.8	3.3	1.0	17.6	土製	胴部片，各辺部研磨	Ⅰ区表土	中期後葉 P L.39
266	有孔円板	3.2	3.2	0.6	8.8	土製	胴部片，各辺部研磨，孔を有する	Ⅰ区表土	P L.39
267	有孔円板	3.1	3.1	0.9	10.6	土製	胴部片，各辺部研磨，孔を有する	Ⅰ区表土	P L.39
268	有孔円板	(5.4)	(2.6)	1.2	(17.3)	土製	胴部片，各辺部研磨	Ⅰ区表土	25%
269	有孔円板	(3.5)	(2.5)	1.1	(11.2)	土製	胴部片，各辺部研磨	Ⅰ区表土	25%
270	耳　栓	(4.4)	(3.9)	1.7	(18.2)	土製	表裏面ヘラ磨き，最小厚0.6cm	Ⅰ区表土	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
1001	掻器	3.0	2.7	0.8	6.5	黒色安山岩	両面押圧剥離，上部からの打撃による剥離	Ⅰ区表土	P L.37
1002	掻器	4.0	2.8	0.9	10.6	メノウ	両面押圧剥離，上部からの打撃による剥離	Ⅰ区表土	
1003	掻器	2.3	2.4	0.5	3.0	黒曜石	両面押圧剥離，上部からの打撃による剥離	Ⅰ区表土	P L.37
1004	掻器	4.6	3.8	0.9	19.9	黒色安山岩	両面押圧剥離，上部からの打撃による剥離	表　土	P L.37
1005	掻器	3.7	2.9	1.2	14.3	黒色安山岩	両面押圧剥離，斜め上部からの打撃による剥離	Ⅰ区表土	P L.37
1006	掻器	3.5	2.9	0.9	13.4	黒色安山岩	両面押圧剥離，上部からの打撃による剥離	Ⅰ区表土	P L.37
1007	掻器	3.4	3.6	1.1	13.9	黒色安山岩	両面押圧剥離，上部からの打撃による剥離	Ⅰ区表土	P L.37
1008	掻器	3.5	2.8	1.0	8.3	メノウ	両面押圧剥離，上部からの打撃による剥離	Ⅰ区表土	P L.37
1009	掻器	4.8	2.8	1.0	15.4	黒色安山岩	両面押圧剥離，斜め上部からの打撃による剥離	Ⅰ区表土	P L.37
1010	楔形石器	3.9	2.9	0.9	12.5	チャート	対向する側縁から向き合う両端剥離	Ⅱ区表土	P L.37
1011	楔形石器	6.7	5.2	1.2	34.5	黒色安山岩	対向する側縁から向き合う両端剥離	Ⅰ区表土	P L.37
1012	楔形石器	3.3	1.5	0.7	4.2	頁　岩	対向する側縁から向き合う両端剥離	Ⅰ区表土	P L.37
1013	楔形石器	4.3	3.1	0.9	18.5	チャート	対向する側縁から向き合う両端剥離	Ⅰ区表土	P L.37
1014	楔形石器	3.0	2.7	1.1	10.8	チャート	対向する側縁から向き合う両端剥離	表　土	P L.37
1015	有茎尖頭器	(2.2)	3.0	0.7	(4.6)	黒色安山岩	両面押圧剥離，左右基部の抉りは浅い	Ⅰ区表土	上半部欠損 P L.37
1016	石鏃	2.4	1.4	0.4	1.4	チャート	両面押圧剥離，基部の抉りは深く，側線は直線	Ⅱ区表土	P L.37
1017	石鏃	(2.6)	2.4	0.6	(4.0)	黒色安山岩	両面押圧剥離，基部の抉りは浅く，側線は直線	Ⅰ区表土	先端部欠損 P L.37
1018	石鏃	(1.7)	1.4	0.3	(0.5)	チャート	両面押圧剥離，基部の抉りは浅く，側線は直線	Ⅰ区表土	先端部欠損 P L.37

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
1019	石鏃	(2.4)	2.4	0.4	(1.9)	黒色安山岩	両面押圧剥離，基部の抉り浅く，側縁は直線	Ⅰ区表土	先端欠損 PL37
1020	石鏃	(1.2)	1.2	0.4	(0.5)	黒色安山岩	両面押圧剥離，基部の抉り浅く，側縁は直線	Ⅰ区表土	先端部欠損 PL37
1021	石鏃	2.3	1.6	0.2	0.8	チャート	両面押圧剥離，基部の抉り浅く，側縁は直線	Ⅰ区表土	PL37
1022	石鏃	1.9	1.4	0.3	0.7	チャート	両面押圧剥離，基部の抉り浅く，側縁は直線	Ⅰ区表土	PL37
1023	石鏃	2.6	2.2	0.5	2.0	黒色安山岩	両面押圧剥離，基部の抉り浅く，側縁は直線	Ⅰ区表土	PL37
1024	石鏃	3.0	2.1	0.8	4.3	チャート	両面押圧剥離，基部の抉りはなく，側縁は直線	Ⅰ区表土	PL37
1025	石鏃	3.1	2.5	0.7	4.0	黒色安山岩	両面押圧剥離，基部の抉り浅く，側縁は曲線	Ⅰ区表土	PL37
1026	石鏃	(2.6)	1.8	0.5	(2.0)	黒色安山岩	両面押圧剥離，基部は凹形で，側縁は直線	Ⅰ区表土	先端部欠損 PL37
1027	石鏃	2.0	1.7	0.5	1.1	黒曜石	両面押圧剥離，基部の抉りは浅く，側縁は直線	Ⅰ区表土	PL37
1028	石鏃	2.5	(1.6)	0.4	(1.5)	チャート	両面押圧剥離，基部突出気味で，側縁は直線	表 土	右側縁欠損 PL37
1029	石鏃	2.0	1.5	0.4	1.0	黒色安山岩	両面押圧剥離，基部の抉りは浅く，側縁は直線	Ⅰ区表土	PL37
1030	石鏃	3.5	2.0	0.5	3.3	頁 岩	両面押圧剥離，側縁は直線，裏面自然面	Ⅰ区表土	未製品 PL37
1031	鏃	3.2	2.6	0.7	4.8	黒色安山岩	両面押圧剥離，基部の抉りは深く，側縁は曲線	Ⅰ区表土	PL37
1032	石匙	2.7	3.8	1.0	8.8	黒色安山岩	両面押圧剥離，縦形	Ⅰ区表土	PL37
1033	両面調整石器	4.4	2.2	0.7	5.6	黒色安山岩	両面押圧剥離，側縁は左右同方向の曲線	Ⅰ区表土	PL37
1034	両面調整石器	4.1	2.4	0.8	6.0	黒色安山岩	両面押圧剥離，側縁は左右両方向の曲線	Ⅰ区表土	PL37
1035	打製石斧	9.7	5.5	1.3	95.7	黒色安山岩	両面押圧剥離，撥形	Ⅱ区表土	PL37
1036	打製石斧	5.7	5.5	1.2	43.6	砂 岩	両面押圧剥離，片刃磨製，撥形	Ⅰ区表土	PL37
1037	打製石斧	7.4	5.3	1.5	59.4	ホルンフェルス	両面押圧剥離，撥形	Ⅰ区表土	PL37
1038	磨製石斧	11.6	4.3	2.7	221.0	砂 岩	刃部は凹形，片刃，先端部敲打痕	Ⅰ区表土	PL37
1039	磨製石斧	5.5	3.1	1.3	(39.5)	蛇紋岩	定角式，両刃	表 土	先端部一部欠損 PL37
1040	磨石	13.9	9.5	3.2	562.0	砂 岩	先端部使用痕	Ⅱ区表土	
1041	磨石	12.5	8.2	5.5	882.0	砂 岩	先端部使用痕	Ⅰ区表土	PL39
1042	磨石	(9.0)	6.2	4.8	(420.0)	凝灰岩	先端部使用痕	Ⅰ区表土	
1043	磨石	10.2	8.5	3.4	400.0	砂 岩	先端部使用痕	Ⅰ区表土	
1045	敲石	13.8	7.9	6.2	879.0	ヒン岩	先端部敲打痕	Ⅰ区表土	
1046	敲石	14.9	9.6	4.6	919.0	砂 岩	先端部敲打痕	Ⅰ区表土	
1047	凹石	10.2	7.4	5.9	497.0	砂 岩	凹部表面1か所，裏面1か所	表 土	PL39
1048	石錘	8.9	6.3	2.2	169.9	ホルンフェルス	長軸方向上下に調整，自然石使用	Ⅰ区表土	PL37
1049	石錘	(9.5)	5.7	1.7	(139.3)	凝灰質礫岩	長軸方向上下に調整，自然石使用	Ⅰ区表土	上部一部欠損 PL37
1050	石錘	6.8	4.8	2.0	92.5	砂 岩	長軸方向上下に調整，自然石使用	Ⅰ区表土	PL37
1051	石錘	7.5	5.5	1.7	108.9	凝灰質礫岩	長軸方向上下に調整，自然石使用	Ⅰ区表土	PL37
1052	石錘	7.4	5.3	1.9	105.0	凝灰質礫岩	長軸方向上下，短軸方向右に調整，自然石使用	Ⅰ区表土	PL37
1053	石錘	8.4	5.4	1.9	118.4	凝灰質礫岩	長軸方向上下に調整，自然石使用	Ⅰ区表土	PL37
1054	石錘	7.1	5.6	1.9	98.2	凝灰質礫岩	長軸方向上下，短軸方向右に調整，自然石使用	Ⅰ区表土	PL37
1055	石錘	7.3	5.1	2.5	128.5	凝灰質礫岩	長軸方向上下に調整，自然石使用	Ⅰ区表土	PL37
1056	石錘	5.4	5.3	1.3	53.7	砂 岩	長軸方向上下に調整，自然石使用	Ⅰ区表土	PL37
1058	石錘	9.1	5.7	2.5	189.3	凝灰質礫岩	長軸方向上下に調整，自然石使用	Ⅰ区表土	PL37
1059	石錘	6.0	4.8	1.6	73.5	砂 岩	長軸方向上下に調整，自然石使用	表 土	PL37
1060	石錘	8.6	5.6	1.8	122.7	凝灰質礫岩	長軸方向上下に調整，自然石使用	表 土	PL37
1061	石錘	8.3	6.9	2.3	207.0	凝灰質礫岩	長軸方向上下に調整，自然石使用	Ⅰ区表土	PL37
1062	不明石器	8.8	4.9	1.9	106.5	黒雲母片岩	上部抉入部は深く，下部に敲打痕	Ⅰ区表土	

2　古墳時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

調査の結果，古墳時代の住居跡は調査Ⅰ区から28軒，調査Ⅱ区から6軒が検出された。住居跡の時期区分は，5世紀代が7軒，6世紀代が18軒，7世紀代が9軒の合計34軒で，調査Ⅰ区の北西部から中央部，調査Ⅱ区の中央部に集中し，舌状台地上の平坦部全域に分布している。

以下，遺構と主な出土遺物について記述する。

第4号住居跡（第49・50図）

位置　調査Ⅱ区中央部のＥ３$_{d9}$区に位置し，舌状台地東部の緩やかな傾斜地に立地している。

重複関係　北東部から東側部分を第5号住居跡・第3号掘立柱建物跡・第1号小竪穴遺構に，西部を第3号住居跡に掘り込まれている。また，南部は調査区域外に延びる。

規模と形状　長軸6.12m，短軸5.84mほどが確認され，平面形は方形または長方形と推定される。主軸方向はＮ－24°－Ｗである。壁は掘り込みが浅く，壁高は7～12cmである。

床　ほぼ平坦で，北から北東コーナー部と南東部に壁溝が巡っているが，本来は全周していたと考えられる。

竈　北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。東袖部と火床部が残存しているが，天井部・西袖部は欠失しており，第1層が天井部の崩落土に相当する。規模は焚口部から煙道部まで126cm，袖部最大幅122cm，壁外への掘り込みは24cmである。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめており，火熱を受けているが赤変していない。廃絶後に火床部を18cmほど掘り込み，焼土を廃棄している。また，煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1	にぶい褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
2	にぶい褐色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
3	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック・砂粒少量
4	灰褐色	ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化物微量
5	褐色	ローム小ブロック少量，粘土粒子・砂粒微量
6	暗褐色	ローム中ブロック・砂粒微量
7	暗褐色	ローム中ブロック微量
8	褐色	ローム小ブロック少量，砂粒微量

ピット　8か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４で，深さは68～80cmである。Ｐ５・Ｐ６は深さ14cmで，南東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。Ｐ７・Ｐ８の性格は不明である。

Ｐ1土層解説

1	暗褐色	ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム ブロック微量
3	褐色	ローム小ブロック少量，柱の抜き取り痕
4	暗褐色	ローム中ブロック少量

Ｐ2土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック少量
2	褐色	ローム中ブロック少量
3	褐色	ローム小ブロック少量
4	暗褐色	ローム大ブロック少量

Ｐ3土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
2	灰褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	ローム中ブロック少量
4	褐色	ローム粒子少量

Ｐ4土層解説

1	暗褐色	ローム大ブロック少量
2	暗褐色	ローム小ブロック中量
3	褐色	ローム中ブロック中量

Ｐ5土層解説

1	暗褐色	ローム粒子微量
2	褐色	ローム中ブロック微量
3	暗褐色	ローム小ブロック微量

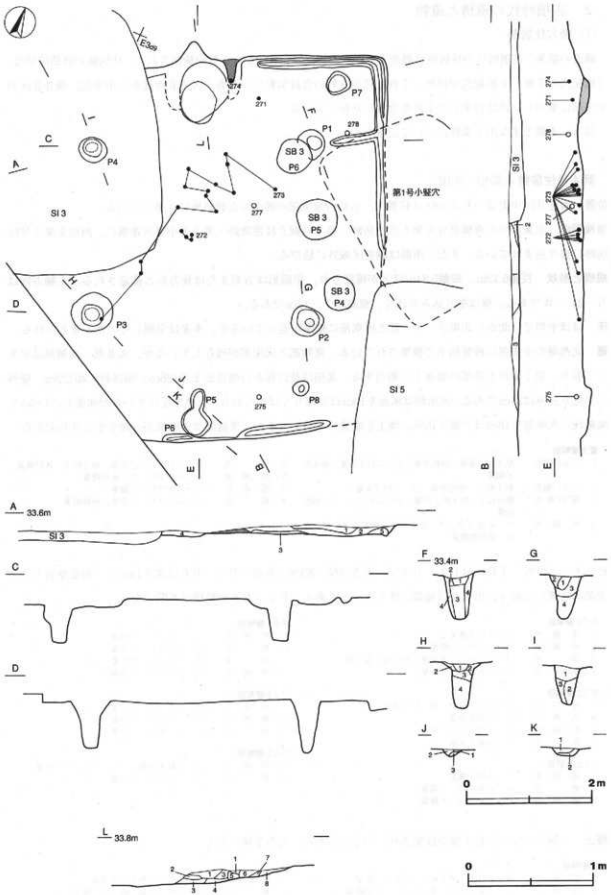
Ｐ6土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
2	褐色	ローム中ブロック少量

覆土　5層からなり，粘土塊が投棄されていることから，人為堆積である。

土層解説

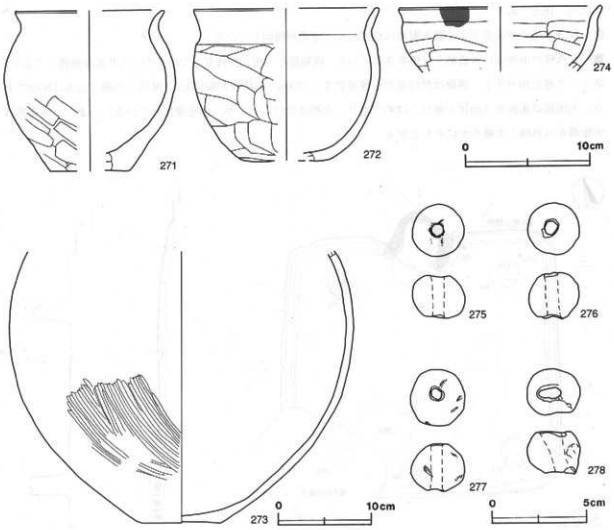
1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
3	褐色	ローム粒子中量
4	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
5	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量



第49図　第4号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片432点（坏52，甕380），須恵器片６点（坏４，甕２），土製品５点（球状土錘４，不明１），軽石１点，礫５点が中央部を中心に出土している。第50図271は竈右袖部脇の覆土上層，272は中央部の覆土下層，274は竈内，275は南東壁寄りの覆土下層，278は北コーナー部寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。273は埋め戻された時に流れ込んだものと考えられる。また，不明土製品は火熱を受けた粘土塊の細片である。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から６世紀前葉と考えられる。



第50図　第４号住居跡出土遺物実測図

第４号住居跡出土遺物観察表（第50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
271	土師器	甕	[11.8]	12.9	[6.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	竈右袖部脇覆土上層	30%
272	土師器	甕	[14.5]	12.3	[6.8]	雲母・赤色粒子	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	中央部覆土下層	20%
273	土師器	甕	－	(29.0)	8.3	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き	覆土上層～下層	30%
274	土師器	椀	[16.1]	(5.3)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面・内面ヘラナデ	竈内	25%　外面煤付着

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
275	球状土錘	2.85	2.75	0.72	16.8	土製	ナデ	南東壁覆土下層	
276	球状土錘	2.82	2.84	0.75	17.6	土製	ナデ	P3覆土	
277	球状土錘	3.13	2.92	0.68	21.5	土製	ナデ	中央部覆土上層	
278	球状土錘	2.48	2.73	1.09	14.2	土製	ナデ，指頭痕	北コーナー部覆土中層	

第５号住居跡（第51・52図）

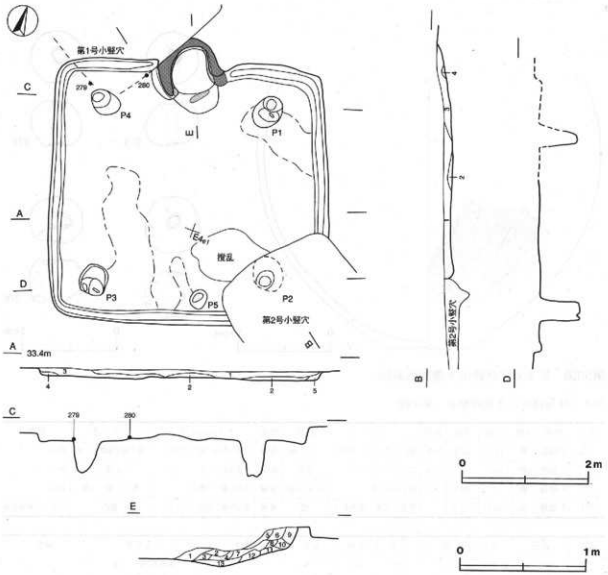
位置　調査Ⅱ区中央部のＥ３ d0区に位置し，舌状台地東部の緩やかな傾斜地に立地している。

重複関係　西部分が第４号住居跡の東部を掘り込んでいる。また，竈から北西コーナー部にかけて第１号小竪穴遺構，南東コーナー部は第２号小竪穴遺構にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　平面形は長軸4.45m，短軸4.30mの方形で，主軸方向はＮ－21°－Ｗである。掘り込みが浅く，壁高は14～18cmである。

床　ほぼ平坦で中央部がよく踏み固められており，壁溝が周回している。

竈　北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部と火床部が残存しているが，天井部は崩落しており，第３・７層が相当する。規模は焚口部から煙道部まで120cm，袖部最大幅120cm，壁外への掘り込みは30cmである。火床部は床面を５cmほど掘りくぼめており，火熱は受けているが，赤変硬化していない。また，煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。



第51図　第５号住居跡実測図

竈土層解説

1	暗	褐	色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・砂粒微量
2	灰	褐	色	ローム粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量
3	暗	褐	色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量
4	暗	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック・砂粒微量
5	灰	褐	色	ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
6	灰	褐	色	ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
7	灰	褐	色	砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子微量
8	黒	褐	色	ローム小ブロック少量，砂粒微量
9	暗	褐	色	ローム粒子・砂粒微量
10	暗	褐	色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・砂粒微量
11	赤	褐	色	焼土粒子中量，焼土中ブロック・ローム粒子・砂粒少量
12	黒	褐	色	焼土小ブロック・ローム粒子・砂粒少量
13	褐		色	ローム中ブロック中量，砂粒微量

ピット　5か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４で，深さは46～64cmである。Ｐ５は深さ29cmで，南東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。

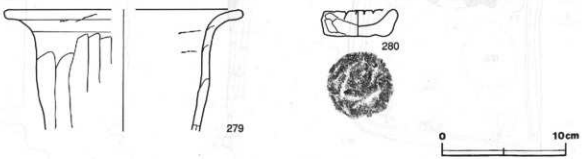
覆土　5層からなり，中央部の覆土上層から下層にかけて焼土粒子・炭化物を含む層が見られ，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2	暗	褐	色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗	褐	色	ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
4	褐		色	ローム粒子少量
5	暗	褐	色	ローム小ブロック微量

遺物出土状況　土師器片335点（坏68，甕266，手捏土器１），須恵器片２点（坏２），土製品５点（球状土錘１，不明４），礫１点が出土している。第52図279は西コーナー部の覆土下層，280は竈左袖脇の床面直上からそれぞれ出土している。不明土製品は火熱を受けた粘土塊の細片で，ヘラによるナデ調整が見られるが，用途は不明である。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から６世紀中葉と考えられる。



第52図　第５号住居跡出土遺物実測図

第５号住居跡出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
279	土師器	甕	[18.6]	(10.0)	—	雲母・長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り	西コーナー部覆土下層	5% 輪積み痕
280	土師器	手捏土器	5.7	2.2	5.5	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ナデ，指頭痕，内面ナデ	竈左袖部脇床面直上	95% P.L45

第６号住居跡（第53・54図）

位置　調査Ⅱ区中央部のＥ４$_{e1}$区に位置し，舌状台地東部の緩やかな傾斜地に立地している。

重複関係　南東部を第７号住居跡に掘り込まれ，南壁が第28号土坑を掘り込んでいる。また，中央部西側は木根による撹乱を受けている。

規模と形状　長軸3.06m，短軸3.03mの方形で，主軸方向はＮ－25°－Ｗである。壁高は18～35cmで，各壁とも

ほぼ外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部から南東壁にかけて踏み固められており，壁溝が全周している。

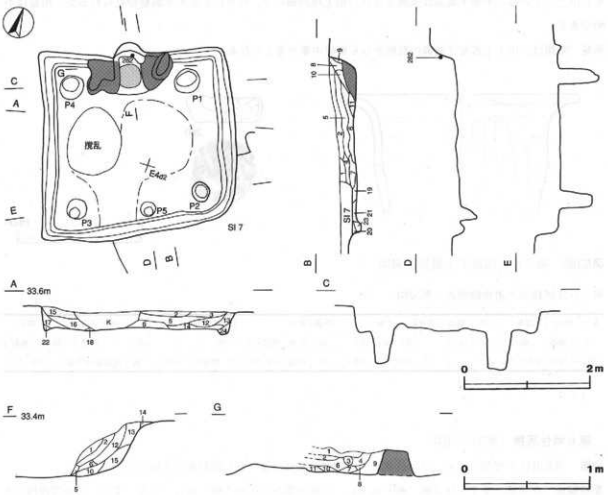
竈　北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。天井部は崩落しており，第１・３・４層がこれに相当し，左袖部は欠失している。規模は焚口部から煙道部まで86cm，袖部最大幅約100cmで，壁外への掘り込みは20cmである。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。また，煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック微量	
2	灰　褐　色	焼土ブロック微量	
3	にぶい黄褐色	粘土ブロック中量	
4	灰　褐　色	焼土粒子中量，粘土粒子少量	
5	褐　　色	ローム粒子・粘土粒子少量	
6	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量，粘土粒子微量	
7	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量	
8	灰　褐　色	粘土粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック微量	
9	にぶい黄褐色	粘土粒子中量，ローム粒子微量	
10	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子少量	
11	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子微量	
12	灰　褐　色	ロームブロック・粘土粒子少量	
13	灰　褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量	
14	暗　褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量	
15	にぶい褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量	

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４で，深さは55～68cmである。Ｐ５は深さ30cmで，南壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。

覆土　24層からなり，一部撹乱を受けている。覆土は，全体的にロームブロックを含む層が多く堆積していることから，人為堆積と考えられる。



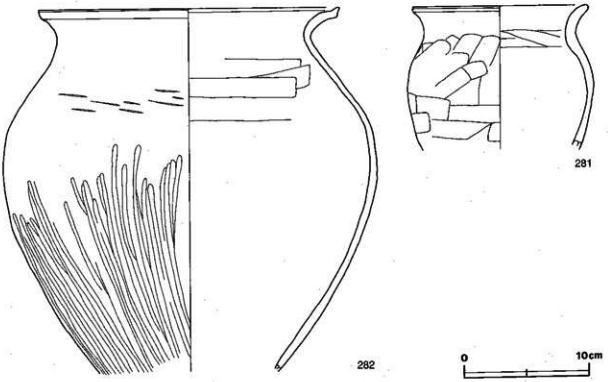
第53図　第６号住居跡実測図

土層解説

1 褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック微量
3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
4 暗褐色 粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
5 暗褐色 ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
6 暗褐色 ロームブロック少量
7 暗褐色 炭化粒子・粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
8 灰褐色 ロームブロック・粘土粒子少量
9 褐色 ローム粒子少量
10 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
11 灰褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
12 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13 明褐色 ローム粒子微量
14 明褐色 ロームブロック微量
15 明褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
16 明褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
17 明褐色 粘土粒子少量，ロームブロック微量
18 明褐色 ローム粒子中量，粘土粒子微量
19 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
20 褐色 ロームブロック少量
21 褐色 ロームブロック少量，粘土粒子微量
22 褐色 ローム粒子少量
23 暗褐色 ロームブロック微量
24 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片315点（坏31，甕284），須恵器片6点（坏6），礫6点，炭化物が出土している。第54図281の土師器甕は中央部北東側の覆土中から出土している。282の土師器甕は竈の煙道部から潰れた状態で出土したもので，煙道に使用されたものと考えられる。

所見　本跡は，覆土上層から下層にかけてロームブロックを含むことから，住居廃棄後に埋め戻されたものと思われる。時期は，出土土器及び遺構の形態から7世紀後葉と考えられる。



第54図　第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表（第54図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
281	土師器	甕	14.0	(11.6)	－	雲母・赤色粒子	赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	覆土	30%
282	土師器	甕	24.0	(29.3)	－	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	竈内	60%

第９号住居跡（第55・56図）

位置　調査Ⅱ区中央部のＥ３ａｏ区に位置し，舌状台地東部の緩やかな傾斜地に立地している。

規模と形状　平面形は長軸4.45m，短軸4.03mの方形で，主軸方向はＮ－55°－Ｗである。壁高は27～47cmで，各壁とも外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，南西部の一部を除いて踏み固められている。また，壁溝が周回している。

竈　北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。天井部の煙道部付近，両袖部，火床部が残存しているが，天井部は一部を除き崩落しており，第１～13層が相当する。規模は焚口部から煙道部まで140cm，燃焼部幅50cm，壁外への掘り込みは60cmである。火床部は床面を６cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。また，火床部分を20cmほど掘り込み，褐色土を入れて深さを調節し，竈の作り替えを行ったと考えられる。煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1	にぶい褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
2	にぶい褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量
3	にぶい褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，粘土小ブロック微量
4	にぶい褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
5	にぶい褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・粘土小ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
6	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
7	にぶい褐色	ローム粒子・粘土小ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化物微量
8	にぶい褐色	ローム粒子・粘土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
9	にぶい褐色	ローム粒子・粘土小ブロック・砂粒少量
10	灰　褐　色	焼土小ブロック多量，粘土小ブロック・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
11	黒　褐　色	焼土小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量
12	にぶい赤褐色	焼土中ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
13	にぶい褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，砂粒微量
14	にぶい褐色	ローム大ブロック少量，焼土粒子微量
15	灰　褐　色	ローム小ブロック少量
16	にぶい褐色	焼土粒子・砂粒少量
17	灰　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
18	灰　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
19	褐　　色	ローム粒子少量
20	褐　　色	ローム粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
21	にぶい褐色	ローム小ブロック・粘土中ブロック少量
22	にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
23	にぶい褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量
24	にぶい赤褐色	焼土小ブロック中量，ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
25	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量
26	にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
27	暗赤褐色	灰中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
28	暗　褐　色	ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
29	暗　褐　色	ローム粒子中量，灰少量，焼土粒子・炭化物微量

竈袖部土層解説

1	にぶい黄褐色	粘土中ブロック中量，ローム粒子・砂粒少量
2	黄　褐　色	ローム粒子・粘土中ブロック中量，砂粒少量
3	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子微量
4	にぶい黄褐色	砂粒多量，粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
5	褐　　色	砂粒中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
6	にぶい褐色	粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
7	灰　褐　色	ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
8	灰　褐　色	焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４で，深さは59～73cmである。Ｐ５は深さ45cmで，南東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。

Ｐ１土層解説

1	灰　褐　色	ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
2	暗　褐　色	ローム粒子少量，柱の抜き取り痕
3	褐　　色	ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
4	褐　　色	ローム粒子少量

Ｐ２土層解説

1	褐　　色	ローム大ブロック少量
2	暗　褐　色	ローム粒子少量，柱の抜き取り痕
3	褐　　色	ローム小ブロック少量

Ｐ３土層解説

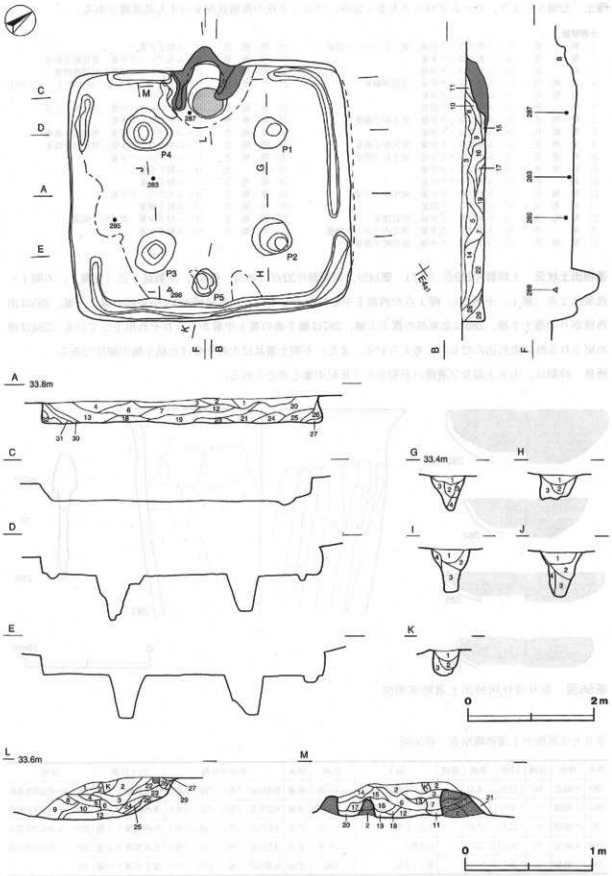
1	暗　褐　色	ローム大ブロック少量，焼土小ブロック微量
2	褐　　色	ローム中ブロック中量
3	暗　褐　色	ローム小ブロック少量，柱の抜き取り痕
4	褐　　色	ローム中ブロック少量

Ｐ４土層解説

1	暗　褐　色	ローム大ブロック少量，焼土粒子・砂粒微量
2	暗　褐　色	ローム大ブロック少量
3	暗　褐　色	ローム小ブロック少量，柱の抜き取り痕
4	褐　　色	ローム小ブロック少量

Ｐ５土層解説

1	褐　　色	ローム小ブロック少量
2	暗　褐　色	ローム粒子少量，柱の抜き取り痕
3	褐　　色	ローム中ブロック少量



第55図　第９号住居跡実測図

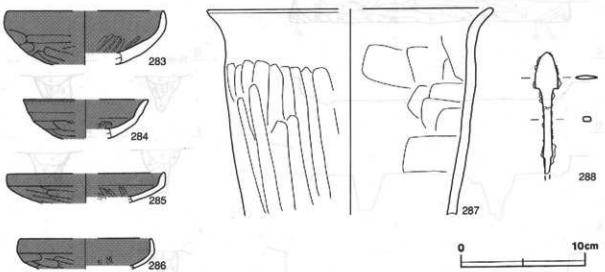
覆土　32層からなり，ロームブロックを多く含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1　褐　色　ローム中ブロック中量，焼土小ブロック微量
2　褐　色　ローム大ブロック多量
3　褐　色　ローム大ブロック中量
4　暗　褐　色　ローム中ブロック中量，炭化物微量
5　暗　褐　色　ローム中ブロック中量
6　褐　色　ローム中ブロック微量
7　暗　褐　色　ローム大ブロック少量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ローム中ブロック少量
9　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
11　灰　褐　色　ローム小ブロック少量
12　褐　色　ローム中ブロック中量
13　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
14　暗　褐　色　ローム中ブロック微量
15　暗　褐　色　ローム大ブロック少量，砂粒微量
16　褐　色　ローム中ブロック中量，焼土小ブロック微量
17　暗　褐　色　ローム中ブロック中量，炭化粒子微量
18　暗　褐　色　ローム粒子少量
19　暗　褐　色　ローム大ブロック中量，炭化粒子微量
20　暗　褐　色　ローム大ブロック中量，炭化物微量
21　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
22　暗　褐　色　ローム大ブロック中量，炭化粒子少量
23　暗　褐　色　ローム中ブロック多量
24　暗　褐　色　ローム大ブロック少量，焼土粒子微量
25　暗　褐　色　ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
26　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
27　褐　色　ローム粒子少量
28　暗　褐　色　ローム粒子中量
29　暗　褐　色　ローム大ブロック少量
30　暗　褐　色　ローム粒子微量
31　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
32　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片219点（坏74，甕145），須恵器片32点（坏24，甕8），土製品2点（支脚1，不明1），鉄製品2点（鎌1，不明1），礫1点が西部を中心に出土している。第56図283は中央部の覆土下層，285は南西壁寄りの覆土下層，286は北東部の覆土上層，287は竈手前の覆土中層からそれぞれ出土している。284は埋め戻される時に流れ込んだものと考えられる。また，不明土製品は火熱を受けた粘土塊の細片である。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から7世紀中葉と考えられる。



第56図　第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表（第56図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
283	土師器	坏	[12.9]	(4.3)	—	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	中央部覆土下層	20%　内・外面黒色処理
284	土師器	坏	[9.9]	(3.2)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南西部覆土上層	25%　内・外面黒色処理
285	土師器	坏	[12.4]	(2.4)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南西壁覆土下層	20%　内・外面黒色処理
286	土師器	坏	[10.5]	(2.5)	—	白色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	北東部覆土上層	20%　内・外面黒色処理
287	土師器	甑	[22.7]	(16.7)	—	長石・石英	赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	竈手前覆土中層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
288	鏃	(9.8)	1.8	0.4	(9.9)	鉄	鏃身頭部断面三角形，有茎	南東壁寄り覆土上層	

第14号住居跡（第57図）

位置　調査Ⅱ区北部のＤ４ｊ1区に位置し，舌状台地東部の緩やかな傾斜地に立地している。

重複関係　南コーナー付近を除いて，第４Ａ号溝に掘り込まれ，調査区域外へと延びる。

規模と形状　長軸1.80m，短軸1.55mほどが確認され，平面形は方形または長方形と推定される。主軸方向はＮ－27°－Ｗである。壁高は18cmほどで，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈　確認されていない。

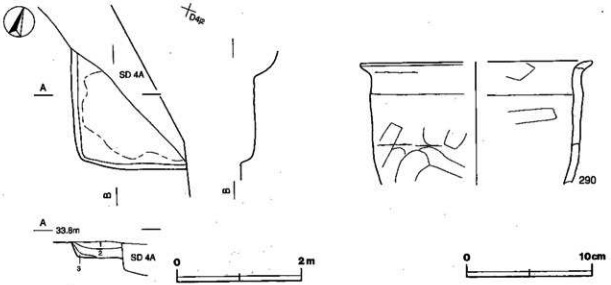
ピット　確認されていない。

覆土　３層からなり，レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム中ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム中ブロック少量

遺物出土状況　土師器片20点（甕19，甑１）が出土している。第57図290は東部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から６世紀中葉と考えられる。



第57図　第14号住居跡・出土遺跡実測図

第14号住居跡出土遺物観察表（第57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
290	土師器	甑	[18.4]	(9.9)	－	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	東部覆土	5%　輪積み痕

第15号住居跡（第58図）

位置　調査Ⅱ区北部のＤ３ｉ9区に位置し，舌状台地東部の緩やかな傾斜地に立地している。

重複関係　東壁から北壁にかけては第４Ｂ号溝，北西コーナー部付近は段切遺構，南東コーナー部付近は第32号土坑にそれぞれ掘り込まれている。また，東壁に撹乱を受けている。

規模と形状　長軸5.70m，短軸3.70mほどが確認され，平面形は方形または長方形と推定される。主軸方向はN－11°－Wである。壁高は5～10cmほどで，壁はほぼ外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

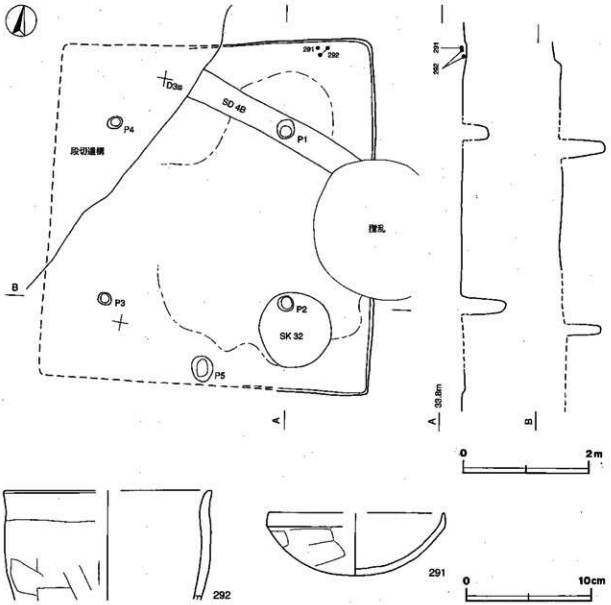
竈　確認されていない。

ピット　5か所。主柱穴はP1～P4で，深さは40～70cmである。P5は深さ8cmで南壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。

覆土　褐色土の単一層で，ロームブロック・焼土粒子を含む。堆積状況を確認できないことから，不明である。

遺物出土状況　土師器片28点（坏6，甕22）が出土している。第58図291・292は北東コーナー部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から6世紀中葉と考えられる。



第58図　第15号住居跡・出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表（第58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
291	土師器	坏	[14.0]	5.0	－	石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	北東コーナー部覆土	40%
292	土師器	甕	[16.4]	(8.7)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	北東コーナー部覆土	5%

第18号住居跡（第59・60図）

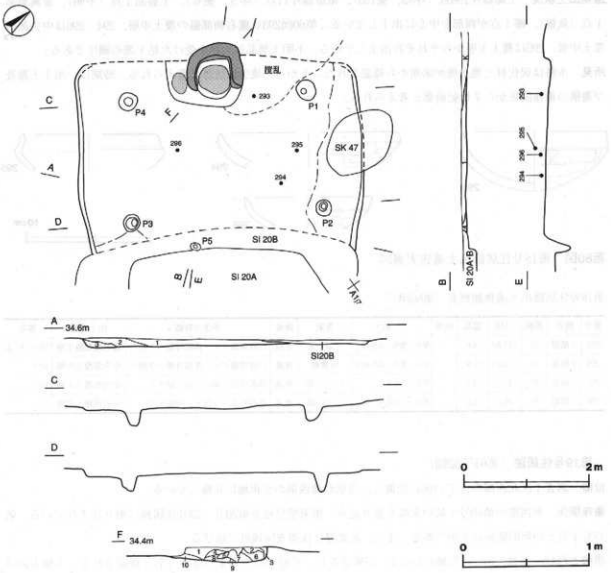
位置　調査Ⅰ区北西部のＡ１ｊ6区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　北西壁が第17号住居跡の北東部，北東壁が第49号土坑の西部をそれぞれ掘り込み，南東壁を第20Ａ・20Ｂ号住居跡に掘り込まれている。第47号土坑との新旧関係は不明で，竈の北側付近は撹乱を受けている。

規模と形状　長軸4.56m，短軸3.03mほどが確認され，平面形は方形または長方形と推定される。壁高は5～14cmほどで，各壁とも外傾して立ち上がる。北西壁は竈と床面を残し，ほとんど残っていない。

床　ほぼ平坦で，北東壁を除いて踏み固められている。

竈　北西壁の中央部に付設されており，凝灰岩の切片によって「コ」の字状に構築され，煙道部は確認できな



第59図　第18号住居跡実測図

い。両袖部と火床部が残存しているが，天井部は崩落しており，第２・３層が相当する。規模は焚口部から火床部まで70cm，袖部最大幅90cm，壁外への掘り込みは20cmである。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。また，火床部奥は垂直に立ち上がる。左袖脇に炭化材と焼土塊が確認されており，火災に遭遇したものと考えられる。

竈土層解説

1	褐　　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	6	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2	暗 褐 色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量	7	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3	褐　　色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量	8	暗赤褐色	焼土粒子多量
4	暗 褐 色	焼土粒子少量，炭化粒子微量	9	にぶい赤褐色	焼土粒子少量，ローム粒子微量
5	極暗褐色	焼土粒子少量	10	にぶい赤褐色	焼土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４で，深さは24～29cmである。Ｐ５は深さ38cmで，性格は不明である。

覆土　４層からなる。褐灰色を基調として，ローム小ブロックを含み，レンズ状の堆積状況を示す自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	3	暗 褐 色	ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2	暗 褐 色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片196点（坏43，甕153），須恵器片11点（坏５，甕６），土製品１点（不明），金属製品１点（鉄鏃），礫１点が西部を中心に出土している。第60図293は竈右袖部脇の覆土中層，294・296は中央部の覆土中層，295は覆土上層からそれぞれ出土している。不明土製品は火熱を受けた粘土塊の細片である。

所見　本跡は炭化材と焼土塊が床面から確認されたことから，焼失住居跡と考えられる。時期は，出土土器及び遺構の重複関係から７世紀前葉と考えられる。

第60図　第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表（第60図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
293	土師器	坏	[11.6]	4.8	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り	竈右袖部脇中層	75%　PL40
294	土師器	坏	[14.2]	(2.9)	－	長石・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り	中央部覆土中層	10%
295	土師器	坏	[10.5]	(3.0)	－	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り後ナデ	中央部覆土上層	10%
296	土師器	坏	[10.0]	(2.6)	－	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	中央部覆土中層	5%

第19号住居跡（第61・62図）

位置　調査Ｉ区北西部のＡ１$_{j7}$区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

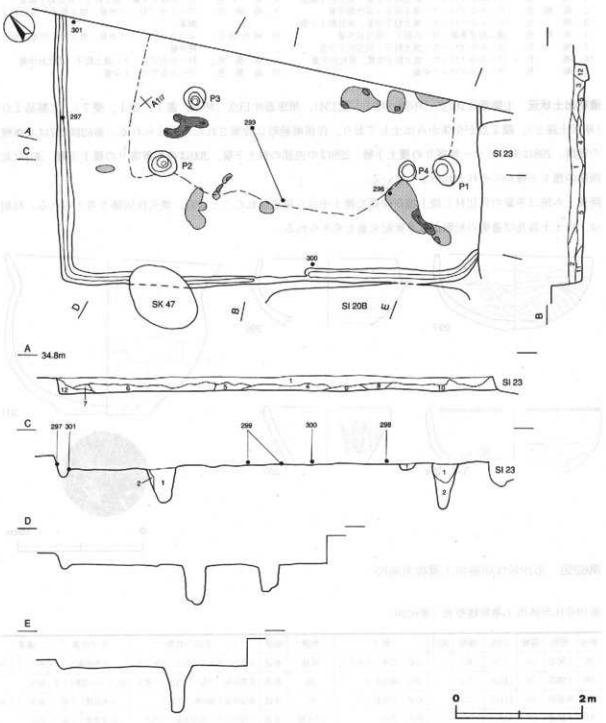
重複関係　南西壁が第49号土坑の東部を掘り込み，南東壁付近を第20Ｂ・23号住居跡に掘り込まれている。第47号土坑との新旧関係は不明である。また，北東部分は調査区域外に延びる。

規模と形状　長軸6.70m，短軸4.20mほどが確認され，平面形は方形または長方形と推定される。主軸方向はＮ－51°－Ｗである。壁高は15～24cmほどで，各壁とも外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で中央部がよく踏み固められており，壁溝が周回している。また，南コーナー部と西コーナー部付近から多量の炭化材と焼土塊が確認された。

炉　確認されていない。

ピット　4か所。主柱穴はＰ１・Ｐ２で，深さは63～73cmである。Ｐ１の第２層，Ｐ２の第１層は柱の抜き取り痕である。Ｐ３・Ｐ４は深さ10～43cmで，性格は不明である。



第61図　第19号住居跡実測図

P1土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

P2土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム小ブロック多量

P4土層解説

1　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量

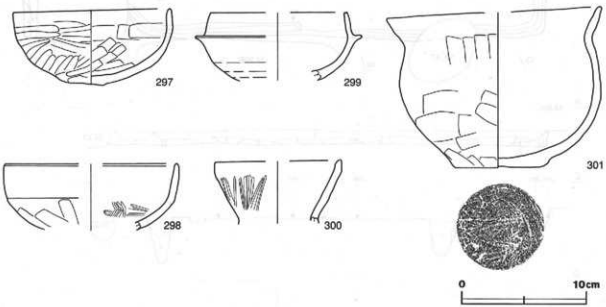
覆土　12層からなる。焼土粒子・炭化粒子を多量に含み，第4層と5層の層位の逆転がみられることから，人為堆積で，住居跡の廃絶時に埋め戻されたと考えられる。

土層解説

1　褐　　色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物中量
3　褐　　色　ローム小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
4　赤　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化材少量
5　褐　　色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6　褐　　色　ローム小ブロック・焼土粒子中量，炭化材少量
7　褐　　色　ローム小ブロック中量
8　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗赤褐色　ローム小ブロック多量，焼土粒子中量，炭化物少量
11　暗　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材少量
12　暗　褐　色　ローム小ブロック少量

遺物出土状況　土師器片167点（坏32，坩1，甕134），須恵器片13点（坏4，蓋1，壺1，甕7），土製品2点（球状土錘2），礫2点が全体から出土しており，住居廃絶時に投棄されたと考えられる。第62図297は北西壁の壁溝，298は南コーナー部寄りの覆土下層，299は中央部の覆土下層，300は南西壁寄りの覆土下層，301は北西壁の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡は多量の炭化材と焼土塊が床面や覆土中から確認されたことから，焼失住居跡と考えられる。時期は，出土土器及び遺構の形態から5世紀末葉と考えられる。



第62図　第19号住居跡出土遺物実測図

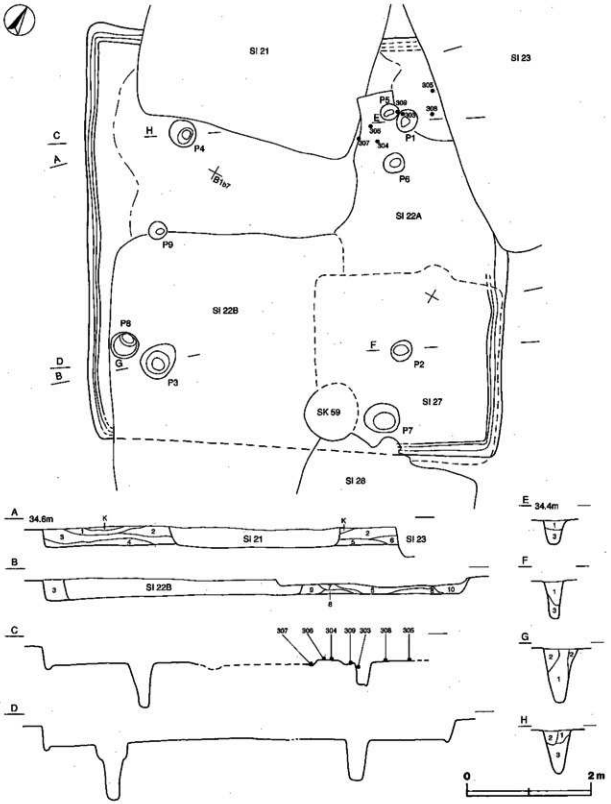
第19号住居跡出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
297	土師器	坏	12.6	6.1	－	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	体部内・外面ヘラ削り，内面ナデ	北西壁溝内	95%　PL40
298	土師器	坏	[13.8]	(5.4)	－	長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南コーナー部覆土下層	40%
299	須恵器	坏	[11.0]	(5.5)	－	石英・白色粒子	灰	普通	体部外面下端回転ヘラ削り	中央部覆土下層	30%　PL40
300	土師器	坩	[10.0]	(5.0)	－	長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部ナデ，体部外面ヘラ磨き	南西壁覆土下層	20%
301	土師器	甕	17.1	13.1	6.9	石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後，ナデ	北西壁部覆土下層	60%　PL43

第22C号住居跡（第63～65図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ１ｂ7区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　北東壁が第60号土坑の西部を掘り込み，北西壁を第21号住居跡，北コーナー部を第23号住居跡，中



第63図　第22C号住居跡実測図

央部から南東部にかけて第22A・22B・27・28号住居跡と第59号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.65m，短軸6.60mほどが確認され，平面形は方形と推定される。主軸方向はN－28°－Wである。壁高は30～32cmで，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で中央部がよく踏み固められており，壁溝が周回している。

竈　確認されていない。

ピット　9か所。主柱穴はP1～P4で，深さは36～90cmである。P5～P9は深さ24～64cmで，主柱穴付近に位置しているが，性格は不明である。

P1～P4土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム小ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム小ブロック少量

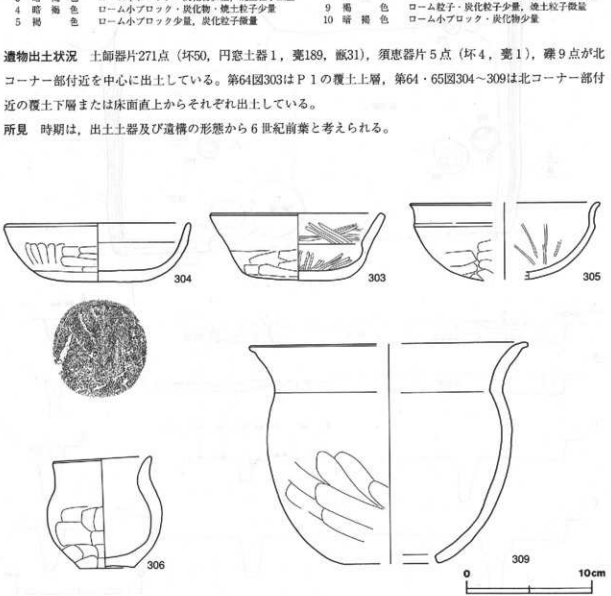
覆土　10層からなる。焼土粒子・炭化粒子を多量に含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説

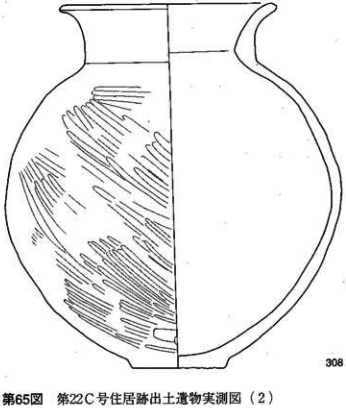
1　褐　　色　ローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム中ブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム小ブロック・炭化物・焼土粒子少量
5　褐　　色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化物少量
7　褐　　色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
10　暗　褐　色　ローム小ブロック・炭化物少量

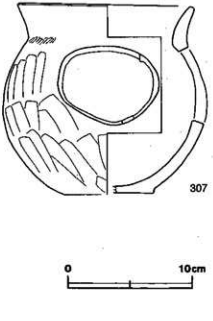
遺物出土状況　土師器片271点（坏50，円窓土器1，甕189，甑31），須恵器片5点（坏4，甕1），礫9点が北コーナー部付近を中心に出土している。第64図303はP1の覆土上層，第64・65図304～309は北コーナー部付近の覆土下層または床面直上からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から6世紀前葉と考えられる。



第64図　第22C号住居跡出土遺物実測図（1）





第65図　第22C号住居跡出土遺物実測図（2）

第22C号住居跡出土遺物観察表（第64・65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
303	土師器	坏	13.5	5.4	8.0	雲母・長石	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面暗文	P1覆土上層	95%　PL40
304	土師器	坏	14.5	4.8	7.0	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り	北コーナー部床面直上	80%　底部木葉痕　PL40
305	土師器	坏	[15.1]	(6.2)	—	雲母	赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	北コーナー部覆土下層	20%
306	土師器	甕	7.7	8.9	4.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り	北コーナー部床面直上	100%　PL43
307	土師器	円窓土器	13.7	15.5	7.2	長石・石英・小礫・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面頸部ヘラ磨き，体部ヘラ削り	北コーナー部床面直上	90%　体部外面黒斑　PL43
308	土師器	甕	16.8	29.6	7.6	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き	北コーナー部床面直上	90%　PL43
309	土師器	甑	[22.0]	17.6	[7.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り	北コーナー部床面直上	40%

第23号住居跡（第66・67図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＡ１ｊ8区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　北東壁が第19号住居跡の南コーナー部，南西壁が第22C号住居跡の北コーナー部を，南コーナー部が第60号土坑の北部をそれぞれ掘り込み，南東壁を第24号住居跡に掘り込まれ，北東壁は調査区域外に延びる。

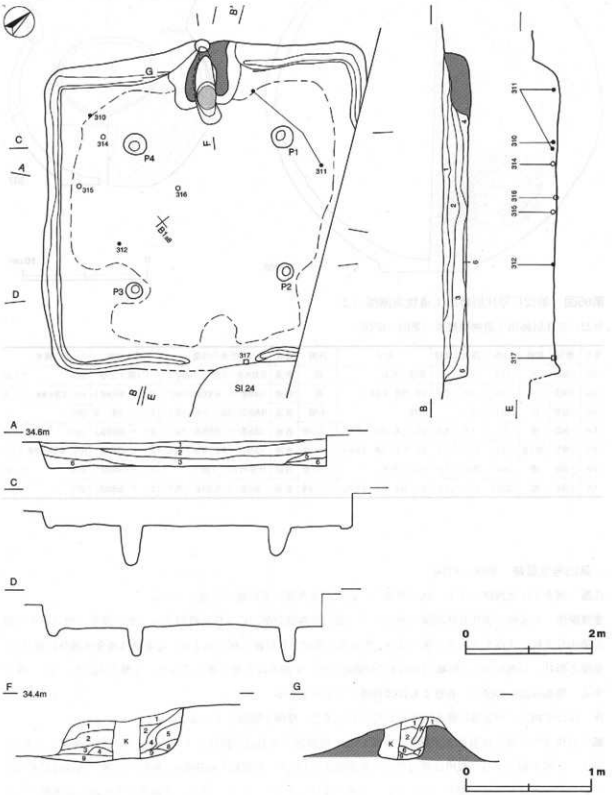
規模と形状　長軸5.25m，短軸5.15mほどが確認され，平面形は方形と推定される。主軸方向はＮ－53°－Ｗである。壁高は22～40cmで，各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部は踏み固められている。また，壁溝が周回している。

竈　北西壁中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部と煙道部が残存しているが，天井部は崩落しており，第１～５層が相当する。規模は焚口部から煙道部まで138cm，袖部最大幅106cm，壁外への掘り込みは認められない。火床部は８cmほど掘りくぼめられ，火熱を受けて赤変している。また，煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1 暗 褐 色　粘土ブロック多量，焼土粒子微量
2 暗 褐 色　粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色　粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐 色　粘土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
5 褐　　色　粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗 赤 褐 色　焼土粒子・粘土粒子少量
7 暗 赤 褐 色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
8 暗 褐 色　ローム粒子・粘土粒子少量
9 暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，粘土粒子少量



第66図　第23号住居跡実測図

ピット　4か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４で，深さは45～65cmである。

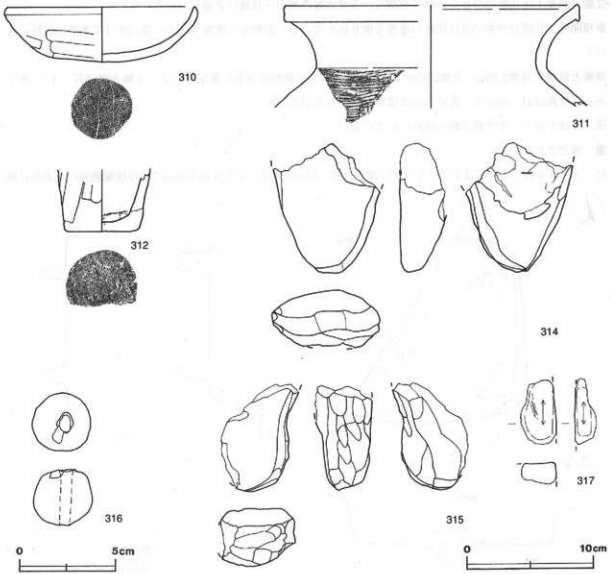
覆土　6層からなり，レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム小ブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片595点（坏76，甕516，甑２，手捏土器１），須恵器片30点（坏８，甕22），土製品７点（球状土錘３，突起支脚２，不明２），石器１点（砥石），軽石４点，礫２点が西部の覆土上層から覆土下層を中心に出土している。第67図310は西コーナー部の覆土下層，311は北コーナー部付近の覆土下層，312は中央部南寄りの床面直上，316は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。また，314と315は同一固体の可能性がある。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から７世紀後葉と考えられる。



第67図　第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表（第67図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
310	土師器	坏	14.8	4.4	5.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り	西コーナー部覆土下層	75% PL40
311	須恵器	甕	[22.9]	(8.1)	—	長石	灰	普通	体部外面平行叩き	北コーナー部覆土下層	5%
312	土師器	手捏土器	—	(5.0)	6.0	雲母・長石	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ，内面ナデ	中央部床面直上	60% 輪積み痕 PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
314	突起支脚	(10.3)	(8.6)	(4.6)	(270.0)	土製	脚部外面ヘラナデ	西コーナー部覆土下層	一部器面剥離
315	突起支脚	(8.4)	(5.9)	(4.6)	(166.1)	土製	脚部外面ヘラナデ	西コーナー部覆土下層	一部器面剥離
317	砥石	(5.2)	(2.8)	(1.7)	(25.5)	凝灰岩	二面使用	南東壁床面直上	

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
316	球状土錘	3.10	3.09	0.83	28.8	土製	ナデ	中央部床面直上	

第26号住居跡（第68・69図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ１ｂｇ区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

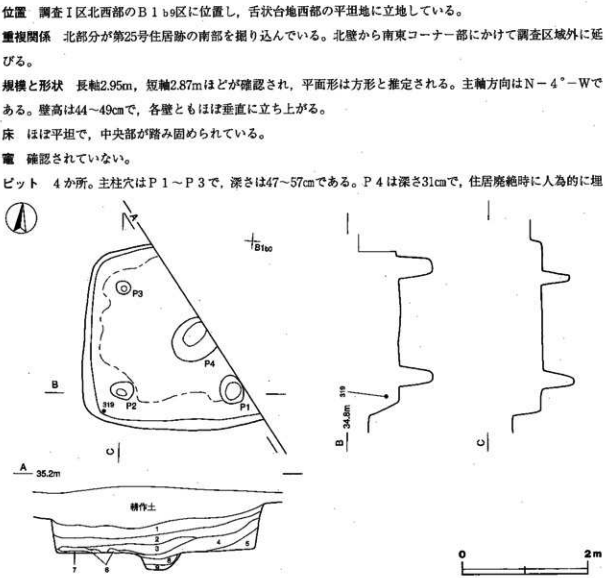
重複関係　北部分が第25号住居跡の南部を掘り込んでいる。北壁から南東コーナー部にかけて調査区域外に延びる。

規模と形状　長軸2.95m，短軸2.87mほどが確認され，平面形は方形と推定される。主軸方向はＮ－４°－Ｗである。壁高は44～49cmで，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　確認されていない。

ピット　４か所。主柱穴はＰ１～Ｐ３で，深さは47～57cmである。Ｐ４は深さ31cmで，住居廃絶時に人為的に埋



第68図　第26号住居跡実測図

め戻されており，住居内土坑と考えられ，性格は不明である。

覆土　9層からなり，粘土粒子や灰を多量に含んだ，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積で，住居廃絶時に人為的に埋め戻されたと考えられる。なお，第8・9層は住居内土坑（P4）の覆土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量，炭化物・焼土粒子微量	6	暗褐色	粘土粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量	7	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子微量
3	極暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	8	褐色	ローム小ブロック多量，貼床の様に硬い
4	暗褐色	ローム小ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量	9	黒色	灰多量
5	極暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況　土師器片132点（坏30，甕102），須恵器片44点（坏33，蓋4，甕7），礫3点が，南壁寄りの覆土上層から下層を中心に出土している。第69図319は南西コーナー部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から6世紀中葉と考えられる。

第69図　第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
318	土師器	坏	[13.0]	(3.0)	－	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	覆土	5%　内・外面黒色処理
319	土師器	甕	[12.5]	(5.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐・黒褐	普通	体部外面ナデ，内面ヘラナデ	南西コーナー部覆土中層	5%

第29号住居跡（第70図）

位置　調査Ⅰ区北西部のB1a5区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　中央部から南東壁にかけて第30・31号住居跡に掘り込まれている。また，北東壁から南東壁にかけて攪乱を受けている。

規模と形状　長軸4.73m，短軸4.60mの方形と推定され，主軸方向はN－34°－Wである。壁高は3～8cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部を踏み固められている。

炉　中央部より北西壁際に炉跡と考えられる焼土範囲を確認した。覆土がほとんど残存していないが，炉跡と考えられ，規模は長径50cm，短径40cmの不整楕円形である。炉床部はほとんど掘りくぼめられず，火熱による赤変はみられるが，硬化していない。

ピット　1か所。主柱穴は確認されていない。P1の深さは42cmで，性格は不明である。

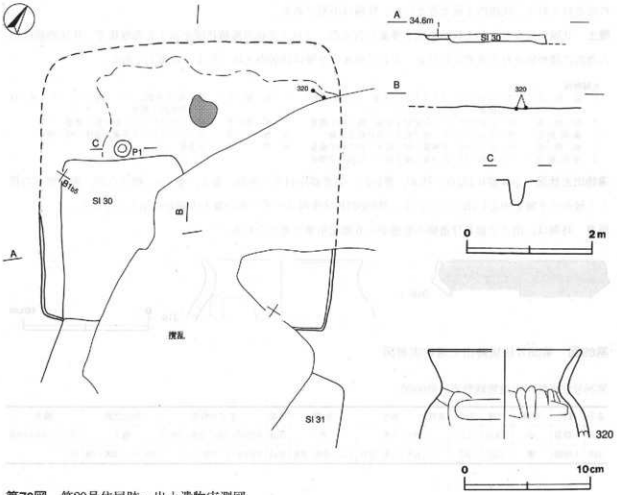
覆土　単一層で堆積状況は不明である。

土層解説

1　暗褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片107点（坏17，甕90），須恵器片6点（坏4，蓋1，甕1）が出土している。第70図320は北コーナー部寄りの床面直上から出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から5世紀末葉と考えられる。



第70図　第29号住居跡・出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
320	土師器	甕	[12.2]	(7.0)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ナデ	北コーナー部床面直上	10%

第32号住居跡（第71図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ１ｃ5区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　北東壁が第81号土坑の西側を掘り込み，北西壁から南東壁にかけて攪乱を受け，そのほとんどは調査区域外に延びる。

規模と形状　長軸6.21m，短軸2.38mほどが確認され，平面形は方形または長方形と推定される。主軸方向はＮ－34°－Ｗである。壁高は18～31cmで，各壁とも外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，Ｐ１・Ｐ２付近を中心に踏み固められている。また，壁溝が周回している。

炉　確認されていない。

ピット　２か所。Ｐ１は主柱穴で，深さ76cmである。Ｐ２はＰ１と規模が異なり，性格は不明である。

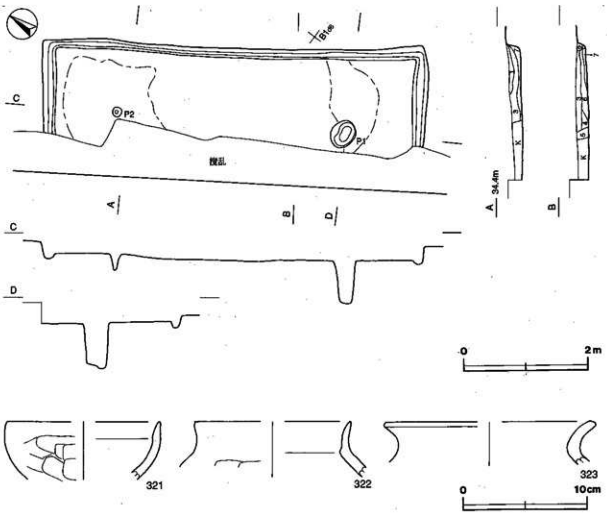
覆土　７層からなり，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

4　暗　褐　色　ローム粒子・炭化物中量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片70点（坏5，甕65），須恵器片1点（坏）が出土している。第71図321・322は南西部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から5世紀末葉と考えられる。



第71図　第32号住居跡・出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
321	土師器	坏	[12.2]	(4.7)	－	長石・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り	南西部覆土	5%
322	土師器	甕	[11.5]	(4.5)	－	長石・石英	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り	南西部覆土	5%
323	土師器	甕	[16.3]	(3.6)	－	雲母・長石	橙	普通	口縁部横ナデ	覆土	5%　内面剥離

第33号住居跡（第72図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ１ｂ4区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

規模と形状　北東壁と東コーナー部付近を除いて調査区域外に延び，長軸3.80m，短軸1.50mほどが確認されて

いる。平面形は方形または長方形と推定され，主軸方向はN－37°－Wである。壁高は36cmほどで，各壁とも垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，北東壁と東コーナー部付近に8～10cmほどの落ち込みが認められる。踏み固められた部分は明確ではない。

炉　確認されていない。

ピット　1か所。P1は主柱穴で，深さ76cmである。

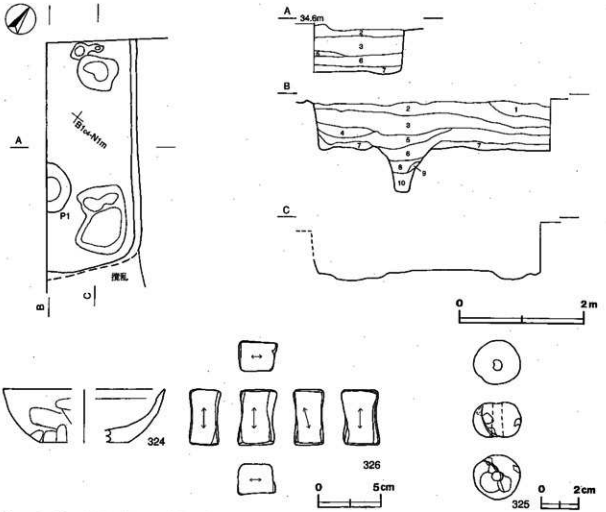
覆土　10層からなり，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積で，住居廃絶時に埋め戻されたと考えられる。なお，第8～10層はP1の覆土である。

土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量		6	褐色	ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	
2	暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量		7	褐色	ローム小ブロック多量	
3	暗褐色	ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物微量		8	極暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子微量	
4	暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量		9	褐色	ローム小ブロック中量	
5	暗褐色	ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量		10	褐色	ローム中ブロック中量	

遺物出土状況　土師器片408点（坏42，甕366），須恵器片15点（坏6，蓋2，甕7），土製品1点（球状土錘），石器1点（砥石），鉄製品1点（不明），礫5点が出土している。第72図324は南東部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から5世紀後葉と考えられる。



第72図　第33号住居跡・出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
324	土師器	坏	[13.0]	(4.3)	[7.2]	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り	南東部覆土中層	20%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
325	球状土錘	2.4	2.5	0.6	9.8	土製	ナデ	南東部覆土中層	一部剥離

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
326	砥石	4.5	3.1	2.5	58.9	砂岩	全面使用	南東部覆土中層	

第35号住居跡（第73・74図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ１e7区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　北西壁が第34号住居跡の南部を掘り込み，北部を第36・37号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.36m，短軸3.63mほどが確認され，平面形は長方形と推定される。主軸方向はＮ－117°－Ｗである。壁高は７～15cmで，各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，踏み固められた部分は重複のため明確ではない。

竈　南西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが，天井部は崩落しており，第１～３層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで122cm，袖部最大幅112cm，壁外への掘り込みは６cmである。火床部は８cmほど掘りくぼめられ，火熱を受けているが，赤変硬化していない。また，煙道部は火床部から緩やかに立ち上がったあと，ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土層解説

1	褐　色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・砂粒中量，炭化粒子・粘土小ブロック少量	5	褐　色	ハードロームブロック
2	明赤褐色	砂粒多量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・粘土小ブロック中量，炭化粒子少量	6	赤褐色	焼土ブロック
3	にぶい褐色	粘土小ブロック・砂粒多量，ローム中ブロック・焼土小ブロック中量，炭化粒子少量	7	赤褐色	焼土中ブロック多量，炭化粒子少量
4	褐　色	ソフトロームブロック	8	にぶい赤褐色	焼土中ブロック多量，炭化粒子少量
			9	暗褐色	焼土小ブロック中量，ローム小ブロック少量
			10	暗褐色	ローム中ブロック中量

ピット　２か所。主柱穴はＰ１・Ｐ２で，深さは22～42cmであり，他は重複のため検出されていない。

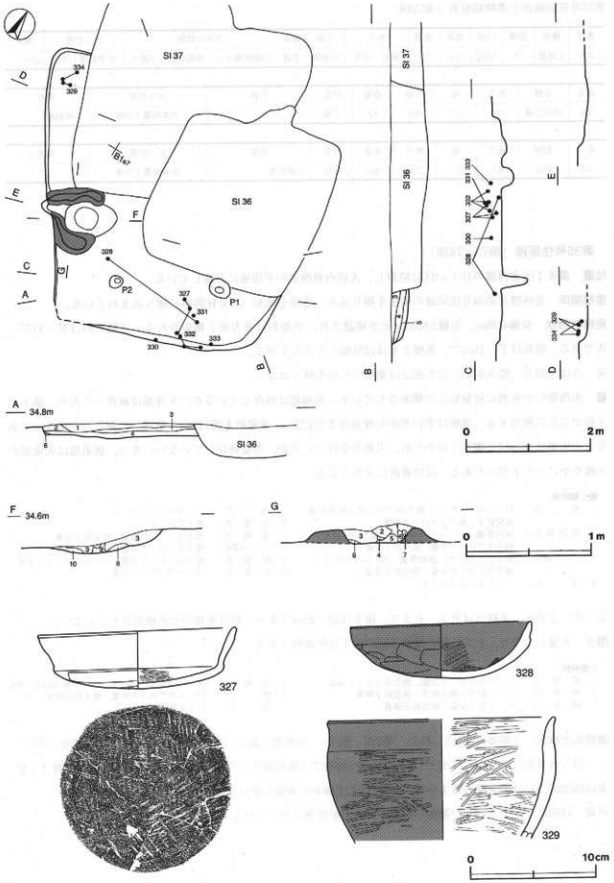
覆土　６層からなり，レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

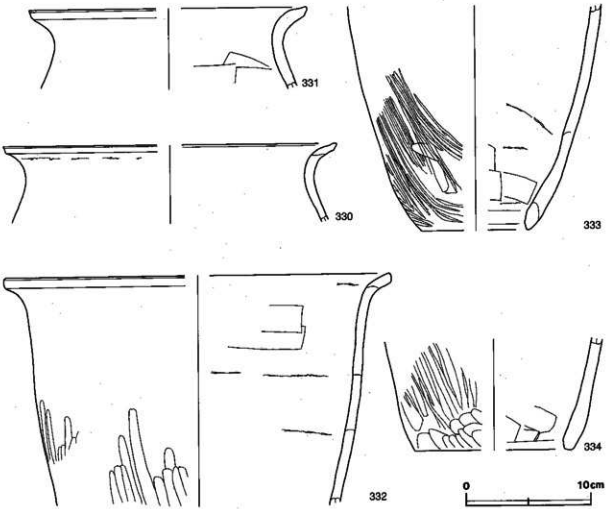
1	暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
5	褐　色	ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
6	褐　色	ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片255点（坏35，甕216，甑４），須恵器片24点（坏15，蓋４，甕５），碟２点が，西コーナー部と南東壁付近を中心に出土している。第73図327は南東壁寄りの覆土上層から下層，328は南部覆土下層，第74図330・333は南東壁の覆土中層，332は覆土上層から中層にかけてそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から６世紀後葉と考えられる。



第73図　第35号住居跡・出土遺物実測図



第74図　第35号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表（第73・74図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
327	土師器	坏	15.8	4.8	—	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南東壁上層～中層	95%　二次焼成　PL40
328	土師器	坏	14.4	4.5	—	長石・石英・雲母	灰オリーブ	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南部覆土下層	60%　内・外面黒色処理　PL40
329	土師器	鉢	[18.4]	(9.8)	—	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ，体部内・外面ヘラ磨き	西コーナー部覆土上層	15%　外面黒色処理
330	土師器	甕	[26.7]	(6.3)	—	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ	南壁覆土中層	5%　輪積み痕
331	土師器	甕	[22.1]	(6.5)	—	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部内面ヘラナデ	南東部覆土上層	5%
332	土師器	甑	[30.7]	[18.5]	—	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	南東壁上層～中層	15%　輪積み痕
333	土師器	甑	—	[18.2]	[8.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	南東壁覆土中層	10%　輪積み痕
334	土師器	甑	—	(8.9)	[12.6]	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き・ヘラ削り，内面ヘラナデ	西コーナー部覆土上層	5%

第39号住居跡（第75・76図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ１ε_8区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　北東壁が第62号土坑を掘り込み，北コーナー部付近を第40号住居跡，中央部から西コーナー部にかけて第41号住居跡と第63号土坑にそれぞれ掘り込まれている。第61号土坑と第５号溝との新旧関係は不明であ

る。また，中央部より南側は攪乱を受けている。

規模と形状　長軸6.60m，短軸5.03mほどが確認され，平面形は方形または長方形と推定される。主軸方向はN－31°－Wである。壁高は18cmで，各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，P１からP２にかけての中央部が踏み固められている。

竈　確認されていない。

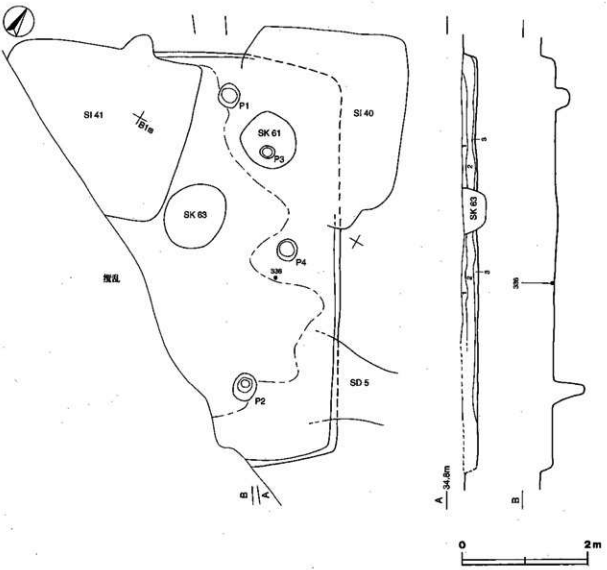
ピット　４か所。主柱穴はP１・P２で，深さは24～48cmである。P３・P４は性格は不明である。

覆土　３層からなり，レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

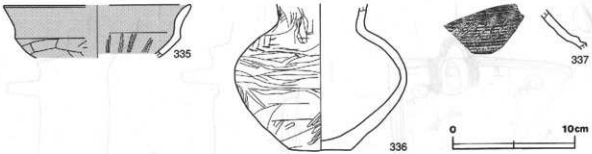
土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片212点（坏42，甕170），須恵器片29点（坏24，甕４，壺１），礫２点が出土している。第76図336は東部の覆土下層，337は南西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の重複関係から６世紀前葉と考えられる。



第75図　第39号住居跡実測図



第76図　第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表（第76図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
335	土師器	坏	[15.2]	(4.3)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	覆土	5%　内・外面赤彩
336	土師器	壺	－	(12.1)	5.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き	東部覆土下層	80%　ＰＬ42
337	須恵器	甕	－	(3.2)	－	長石・石英	灰	普通	櫛描き波状文	南西部覆土上層	5%

第41号住居跡（第77図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ１$_{e7}$区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　第39号住居跡の西部分を掘り込み，西コーナー部から南部にかけて撹乱を受けている。

規模と形状　長軸2.74m，短軸2.65mほどが確認され，平面形は方形と推定される。主軸方向はＮ－15°－Ｗである。壁高は30cmほどで，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，竈手前から南東壁にかけた中央部が踏み固められている。また，壁溝が周回している。

竈　北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが，天井部は崩落しており，第１～３・13層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで88cm，袖部最大幅78cm，壁外への掘り込みは24cmである。火床部は３cmほど掘りくぼめられ，火熱を受けて赤変している。また，煙道部は火床部から階段状に外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量	
2	暗褐色	粘土粒子中量，炭化粒子微量	
3	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子多量	
4	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量	
5	にぶい赤褐色	焼土粒子・灰中量	
6	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子微量	
7	褐色	焼土粒子微量	
8	にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・灰少量	
9	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量	
10	暗赤褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量	
11	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量	
12	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
13	褐色	粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量	
14	暗褐色	炭化物・粘土粒子少量，焼土粒子微量	
15	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	

ピット　３か所。主柱穴はＰ１～Ｐ３で，深さは46～58cmである。

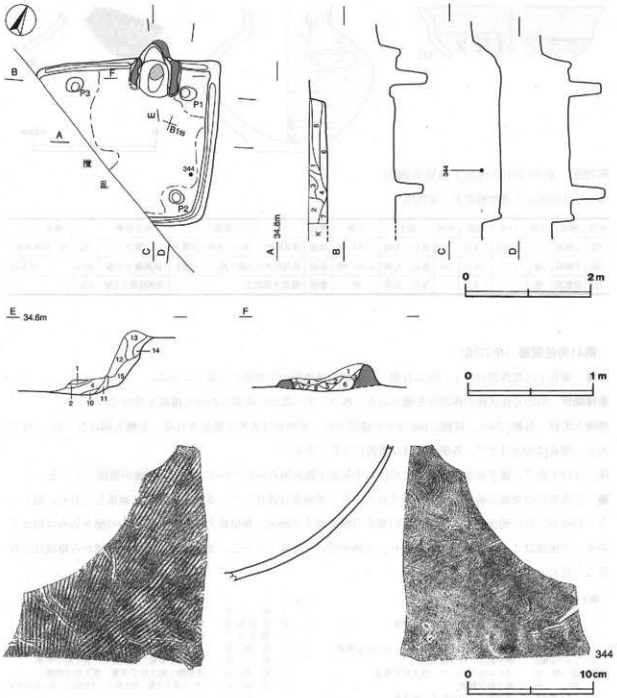
覆土　７層からなり，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
2	暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
3	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
4	暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量	
5	黒褐色	ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
6	極暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量	
7	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	

遺物出土状況　土師器片216点（坏31，甕185），須恵器片11点（坏５，甕６），礫１点が出土している。第77図344は南東壁寄りの覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から７世紀前葉と考えられる。



第77図　第41号住居跡・出土遺物実測図

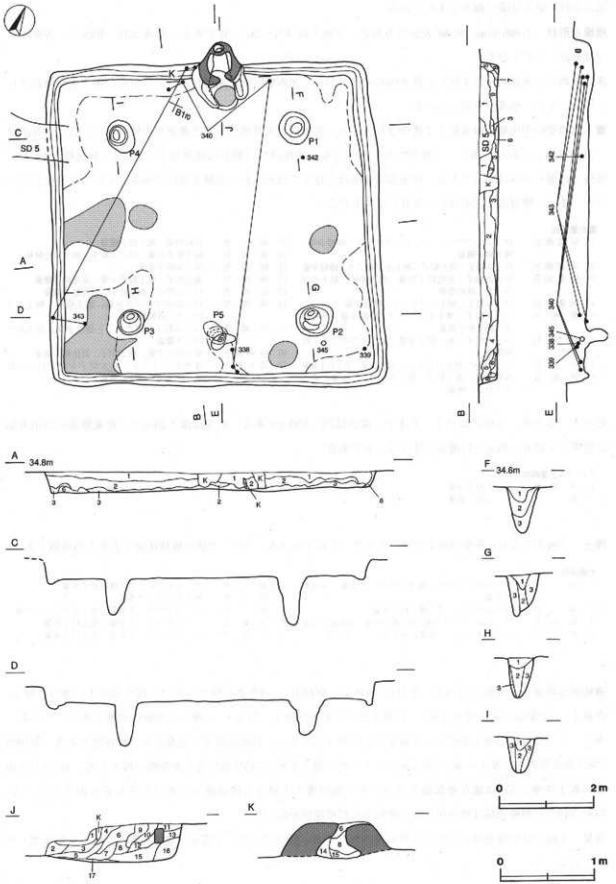
第41号住居跡出土遺物観察表（第77図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
344	須恵器	甕	－	(10.8)	－	砂粒	灰	普通	外面格子叩き，内面同心円状叩き	南東壁覆土中層	5%

第44号住居跡（第78・79図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ１ｆ0区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　竈が第42号住居跡の南東部，南西壁が第52号土坑の東部を掘り込んでいる。また，北西壁から中央



第78図　第44号住居跡実測図

部にかけて第５号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.97m，短軸6.82mの方形で，主軸方向はＮ－26°－Ｗである。壁高は34～40cmで，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，各壁際付近を除いて踏み固められており，南西壁付近と東壁付近，Ｐ５付近に焼土塊が確認されている。また，壁溝が全周している。

竈　北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部と天井部の一部と煙道部が残存している。天井部は一部が崩落しており，第１～４層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで110cm，袖部最大幅82cm，壁外への掘り込みは36cmである。火床部は４cmほど掘りくぼめられ，火熱を受けて赤変しているが硬化していない。また，煙道部は火床部から垂直に立ち上がる。

竈土層解説

1	灰黄褐色	ローム小ブロック・粘土小ブロック・砂粒少量，焼土粒子微量
2	灰黄褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒少量
3	灰黄褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒微量
4	灰黄褐色	ローム粒子・粘土小ブロック・砂粒少量
5	暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量，炭化粒子・粘土粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量，粘土小ブロック・砂粒微量
7	灰褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量，粘土粒子微量
8	灰褐色	砂粒中量，焼土粒子・粘土小ブロック少量，焼土小ブロック微量
9	褐色	砂粒中量，焼土粒子微量
10	黒褐色	粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
11	暗褐色	ローム粒子少量
12	暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
13	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
14	灰褐色	ローム中ブロック少量，焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒微量
15	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，粘土小ブロック微量
16	暗赤褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
17	暗赤褐色	焼土小ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４で，深さは76～100cmである。Ｐ５は深さ49cmで，南東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。

Ｐ1～Ｐ4土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量
2	褐色	ローム粒子微量
3	褐色	ローム小ブロック少量

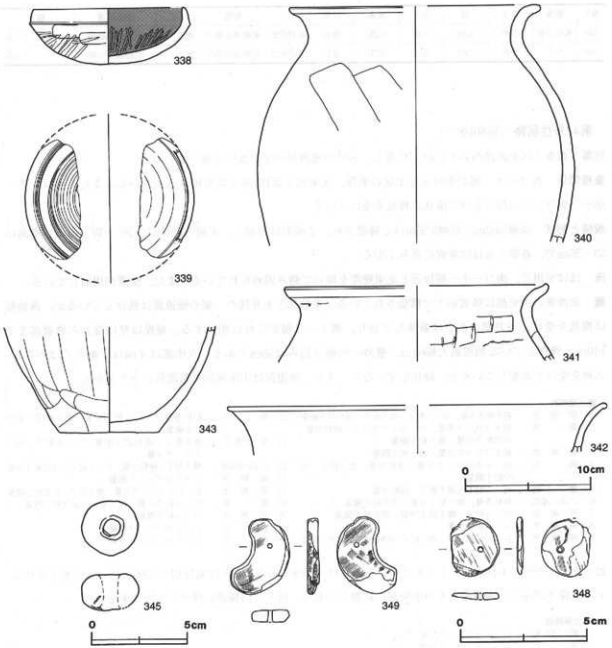
覆土　９層からなり，多量の焼土ブロックとローム粒子を含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック多量，炭化粒子少量
2	褐色	ローム中ブロック・焼土粒子多量
3	暗褐色	ローム小ブロック多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量
4	褐色	ローム中ブロック多量，焼土小ブロック中量
5	褐色	ローム大ブロック・焼土粒子中量
6	褐色	焼土大ブロック多量
7	褐色	ローム中ブロック多量，焼土小ブロック少量
8	明褐色	ローム中ブロック多量，焼土粒子少量
9	明褐色	ローム大ブロック中量，焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片1719点（坏314，高坏１，甕1404），須恵器片46点（坏12，高台付坏１，甕31，鉢１，提瓶１），土製品１点（球状土錘），石製品２点（双孔円板１，勾玉１），礫５点が竈の東側と東コーナー部・南コーナー部付近の覆土中層から下層を中心に出土しており，住居廃絶時に投棄された可能性がある。第79図338は南東壁寄りの覆土中層，339は東コーナー部の覆土中層，340は竈付近と南壁際の覆土下層，342はＰ１南側の覆土中層，343は竈左袖部脇と南コーナー部の覆土上層から床面直上にかけてそれぞれ出土している。348・349の石製模造品は埋め戻し時に流れ込んだ可能性が高い。

所見　本跡は住居廃絶時に人為的に埋め戻されている。時期は，出土土器及び遺構の形態から６世紀後葉と考えられる。



第79図　第44号住居跡出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表（第79図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
338	土師器	坏	11.8	4.5	—	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き	南東隅寄り覆土中層	100%　内面黒色処理　P L 40
339	須恵器	提瓶	—	(9.5)	—	長石・石英・小礫	黄灰	普通	体部外面カキ目	東コーナー部覆土中層	5%
340	土師器	甕	[19.9]	(19.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐灰	普通	体部外面ヘラ削り	竈脇・南壁下層	20%
341	土師器	甕	[20.7]	(6.1)	—	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ヘラナデ	覆土	5%　輪積み痕
342	土師器	甕	[30.2]	(3.9)	—	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ	P 1南側覆土中層	5%
343	土師器	甕	—	(8.5)	7.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り	竈袖脇・南コーナー上層～床直	10%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
345	球状土錘	2.96	2.94	0.90	(15.4)	土製	ナデ	P 2東側覆土下層	一部欠損

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
348	双孔円板	2.30	(1.92)	0.34	(2.26)	滑石	孔径0.20	周縁部面取り，磨き	北東部確認面	半分欠損　ＰＬ66
349	勾玉	3.00	2.80	0.51	5.70	滑石	孔径0.21	周縁部面取り，磨き	北部覆土中層	ＰＬ66

第47号住居跡（第80図）

位置　調査Ｉ区北西部のＢ１ｈｏ区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　西コーナー部が第64Ａ号土坑の東部，北東部が第182号土坑を掘り込んでいる。また，西コーナー部から東コーナー部にかけて溝状に攪乱を受けている。

規模と形状　長軸5.62m，短軸5.55mほど確認され，平面形は方形で，主軸方向はＮ－26°－Ｗである。壁高は33～35cmで，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，南コーナー部付近と北東壁際を除いて踏み固められている。また，壁溝が周回している。

竈　北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。東袖部と天井部の一部や煙道部は残存しているが，西袖部は攪乱を受け，天井部の前方は崩落しており，第１～３層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで140cm，残存している袖部最大幅64cm，壁外への掘り込みは50cmである。火床部は４cmほど掘りくぼめられ，火熱を受けて赤変しているが，硬化していない。また，煙道部は火床部から階段状に立ち上がる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　粘土ブロック多量，ローム小ブロック・砂粒中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　粘土ブロック中量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム小ブロック中量，砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
6　にぶい褐色　砂粒多量，焼土粒子中量，炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量
9　暗　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
10　褐　　色　砂粒多量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土ブロック少量
12　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子少量
13　暗　褐　色　ローム小ブロック微量
14　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
15　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
16　暗　褐　色　ローム粒子微量
17　褐　　色　ローム小ブロック微量
18　褐　　色　ローム小ブロック少量

ピット　４か所。主柱穴はＰ１・Ｐ２で，深さは44・75cmである。Ｐ３は間仕切りに伴うピットと考えられる。Ｐ４は深さ27cmで，南東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。

Ｐ4土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
2　褐　　色　ローム小ブロック少量

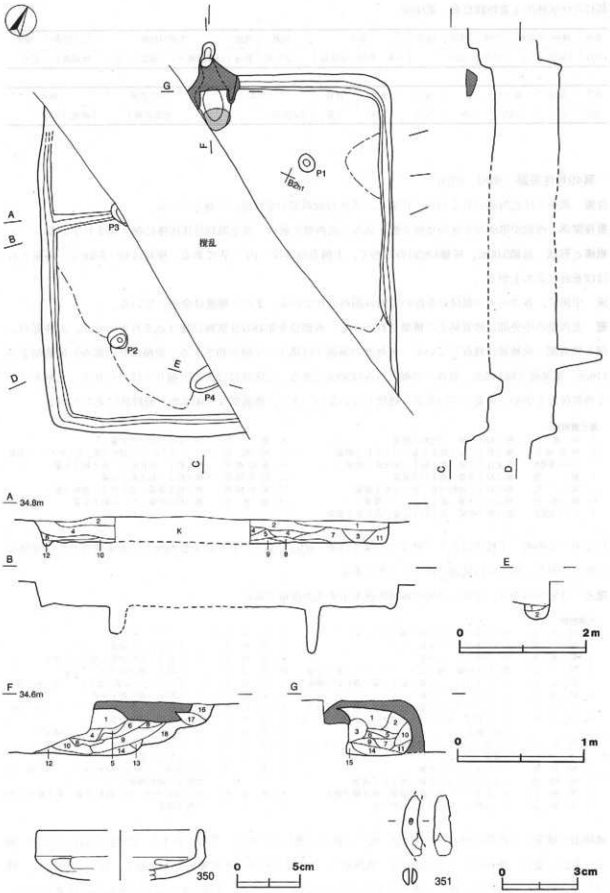
覆土　12層からなり，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。また，第12層は壁溝の土層である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム中ブロック中量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック中量
4　暗　褐　色　ローム中ブロック少量
5　暗　褐　色　ローム大ブロック少量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　灰　褐　色　ローム中ブロック少量
8　褐　　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
9　暗　褐　色　ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
11　黒　褐　色　ローム大ブロック少量
12　褐　　色　ローム小ブロック少量

遺物出土状況　土師器片323点（坏72，甕250，甑１），須恵器片15点（坏10，甕５），土製品１点（勾玉），礫１点が出土している。第80図350は東部の覆土中，351は南西部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から６世紀前葉と考えられる。



第80図　第47号住居跡・出土遺物実測図

第47号住居跡出土遺物観察表（第80図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
350	土師器	坏	[13.0]	(4.0)	－	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部ヘラ削り	東部覆土	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
351	勾玉	(2.42)	0.78	0.75	(1.14)	土製	孔径0.30	南西部覆土	両端部欠損

第49号住居跡（第81～83図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ２ｈ2区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　西部が第86号土坑の東部を掘り込み，北西壁と竈の一部を第48号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.00m，短軸4.82mの方形で，主軸方向はＮ－15°－Ｗである。壁高は40～52cmで，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，各コーナー部付近を除いて踏み固められている。また，壁溝は全周している。

竈　北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。西部分を第48号住居跡に掘り込まれているが，天井部の一部と煙道部・両袖部は残存している。天井部の崩落土は第１～７層が相当する。規模は焚口部から煙道部まで116cm，袖部最大幅142cm，壁外への掘り込みは30cmである。火床部はほとんど掘りくぼめられず，火熱を受けて西袖付近を中心に赤変しているが，硬化していない。また，煙道部は火床部から階段状に立ち上がる。

竈土層解説

1	暗　褐　色	粘土粒子中量，炭化粒子微量
2	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
3	にぶい黄褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐　　色	粘土粒子多量，焼土粒子微量
5	褐　　色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子微量
6	暗　褐　色	粘土粒子中量，焼土小ブロック微量
7	にぶい赤褐色	粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
8	褐　　色	ローム中ブロック少量
9	暗　褐　色	ローム中ブロック・砂粒少量，粘土中ブロック微量
10	極暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
11	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量
12	暗赤褐色	焼土粒子多量，粘土粒子・砂粒少量
13	暗　褐　色	焼土粒子中量，ローム粒子少量

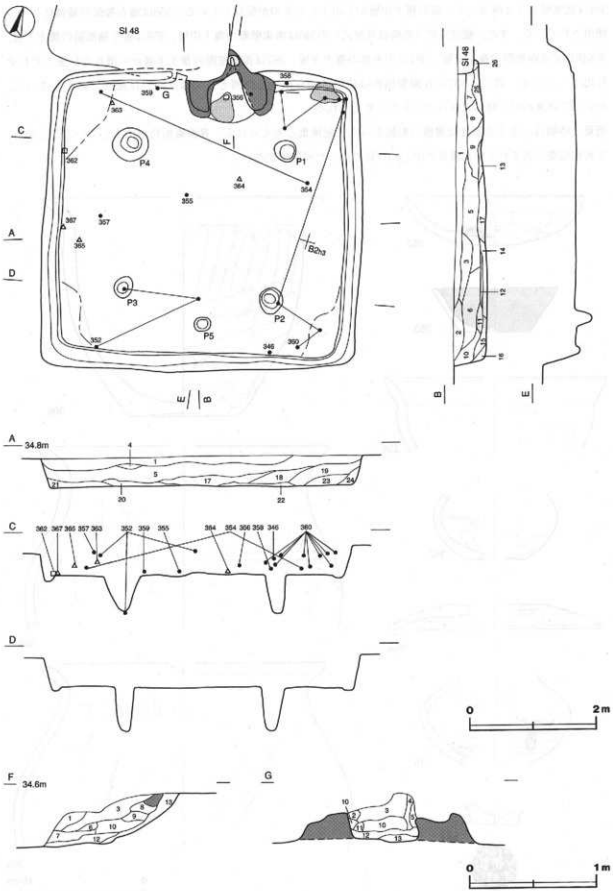
ピット　５か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４で，深さは55～69cmである。Ｐ５は深さ29cmで，南東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。

覆土　26層からなり，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	暗　褐　色	ローム中ブロック中量，焼土粒子少量
2	褐　　色	ローム中ブロック少量
3	暗　褐　色	ローム中ブロック少量
4	褐　　色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量
5	暗　褐　色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
6	暗　褐　色	ローム中ブロック中量
7	暗　褐　色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・粘土粒子微量
8	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，粘土粒子微量
9	暗　褐　色	ローム小ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10	暗　褐　色	ローム小ブロック少量
11	暗　褐　色	ローム大ブロック少量，焼土粒子微量
12	黒　褐　色	ローム小ブロック・砂粒少量，焼土粒子微量
13	灰　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
14	灰　褐　色	ローム中ブロック少量
15	暗　褐　色	ローム小ブロック微量
16	暗　褐　色	ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
17	灰　褐　色	ローム粒子・焼土中ブロック少量
18	暗　褐　色	ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
19	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子少量
20	暗　褐　色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量
21	暗　褐　色	ローム粒子・砂粒少量
22	暗　褐　色	ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
23	暗　褐　色	ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
24	暗　褐　色	ローム粒子少量
25	褐　　色	ローム中ブロック・焼土小ブロック少量，炭化粒子・砂粒微量
26	暗　褐　色	ローム小ブロック・砂粒少量，焼土粒子・粘土粒子微量

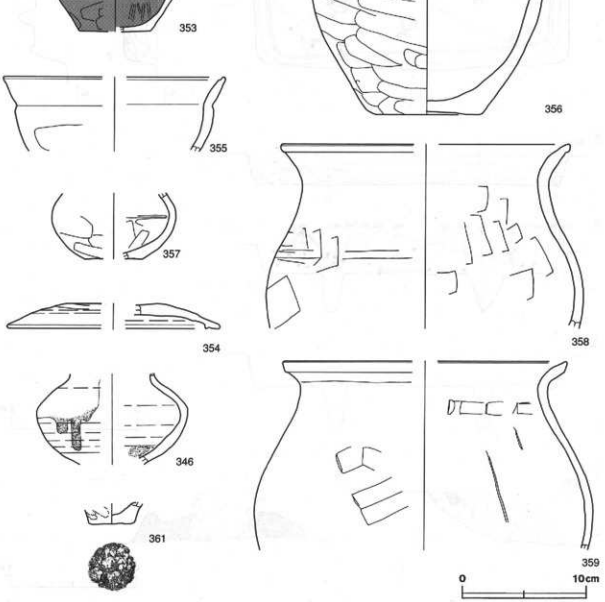
遺物出土状況　土師器片1597点（坏239，椀１，鉢２，甕1352，甑２，手捏土器１），須恵器片64点（坏23，椀２，壷23，甕15，直口壺１），石器１点（紡錘車），金属製品９点（青銅製柄杓１，鏃１，釘１，不明６），礫９点が北西壁から中央部の覆土上層から下層を中心に出土している。遺物の多くは住居廃絶時に投棄された可能性が高い。第82図352は南壁寄りの覆土上層とＰ３の覆土下層，353は北東部の覆土中と南東部の覆土下層，



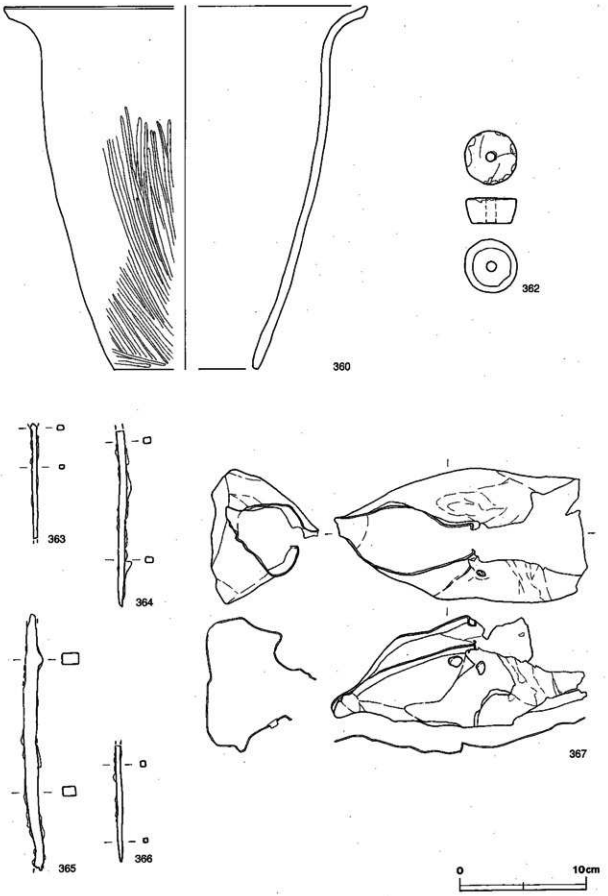
第81図　第49号住居跡実測図

354は北東壁寄りと西コーナー部の覆土中層から出土したものが接合している。356は竈右袖部の補強材として使用されている。また，猿投窯産（岩崎41号窯式）の346は南東壁際の覆土中層，359は竈左袖部脇の覆土下層，第83図362は西壁際の覆土下層，364は中央部の覆土下層，367は南西壁際の覆土下層から潰れた状態でそれぞれ出土している。特に，367の青銅製柄杓は住居跡から出土した例としては県内では最初である。さらに，355・357は埋め戻し時に流れ込んだものと考えられる。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から７世紀後葉と考えられる。青銅製柄杓が出土していることから，７世紀後葉に営まれていた集落の中心的住居であった可能性が高い。



第82図　第49号住居跡出土遺物実測図（１）



第83図　第49号住居跡出土遺物実測図（2）

第49号住居跡出土遺物観察表（第82・83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
352	土師器	坏	14.2	4.0	—	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南部上層・P3下層	75% P L40
353	土師器	坏	[10.1]	3.5	[5.8]	石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	北東部覆土・南東部下層	40% 内・外面黒色処理 P L40
354	須恵器	壺	[17.1]	(2.0)	—	石英	黄灰	普通	体部外面回転ヘラ削り	北東壁・西コーナー中層	25%
355	土師器	椀	[17.8]	(6.0)	—	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り	中央部覆土下層	5%
356	土師器	鉢	[22.4]	17.8	8.2	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り	竈右袖部内	70% P L42
357	土師器	甕	—	(5.4)	[4.4]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部ヘラ削り	南西壁際覆土上層	30%
358	土師器	甕	[23.2]	(15.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ，体部ヘラナデ	竈右袖部脇覆土中層	10%
359	土師器	甕	[22.7]	(15.2)	—	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	竈左袖部脇覆土下層	10%
346	須恵器	直口壺	—	(7.4)	—	長石	灰黄褐	良好	体部外面下端回転ヘラ削り	南壁覆土中層	40% 内・外面自然釉 墨跡痕 (閉塞用)
360	土師器	甑	[28.8]	28.9	[11.4]	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き	東部覆土上層～中層	15%
361	土師器	手捏土器	—	(1.7)	3.7	雲母	橙	普通	体部外面ナデ，指頭痕	南西壁覆土	30%

番号	器種	上面径	下面径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
362	紡錘車	4.3	3.1	2.0	0.8	50.8	粘板岩	ナデ	南西壁覆土下層	95% 上部周縁一部欠損 P L68

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
363	鎌	(9.1)	(0.7)	0.4	(5.4)	鉄	茎部断面長方形	西コーナー部覆土中層	
364	釘	(14.0)	0.6	0.5	(21.5)	鉄	頭部欠損，断面長方形	中央部覆土下層	P L69
365	不明製品	(20.5)	1.4	0.9	(84.8)	鉄	頭部欠損，断面長方形	南西壁覆土中層	P L69
366	不明製品	(9.2)	0.5	0.5	(6.7)	鉄	頭部欠損，断面方形	P4覆土	
367	帷子	(20.5)	12.2	9.1	(148.1)	青銅	柄部欠損	南西壁際覆土下層	P L69

第52号住居跡（第84・85図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ２ｊ4区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

規模と形状　北西コーナー部から南東コーナー部にかけての中央部に攪乱を受けている。平面形は長軸6.14m，短軸6.08mの方形で，主軸方向はＮ－10°－Ｗである。壁高は30～40cmで，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，北東コーナー部と南壁際の一部を除いて，踏み固められている。また，壁溝が周回している。

竈　北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。天井部の一部と煙道部・両袖部は残存し，天井部の崩落土は第５～９層が相当する。規模は焚口部から煙道部まで100cm，袖部最大幅76cm，壁外への掘り込みは22cmである。火床部は２cmほど掘りくぼめられ，火熱を受けて赤変しているが硬化していない。また，煙道部は火床部から垂直に立ち上がる。

竈土層解説

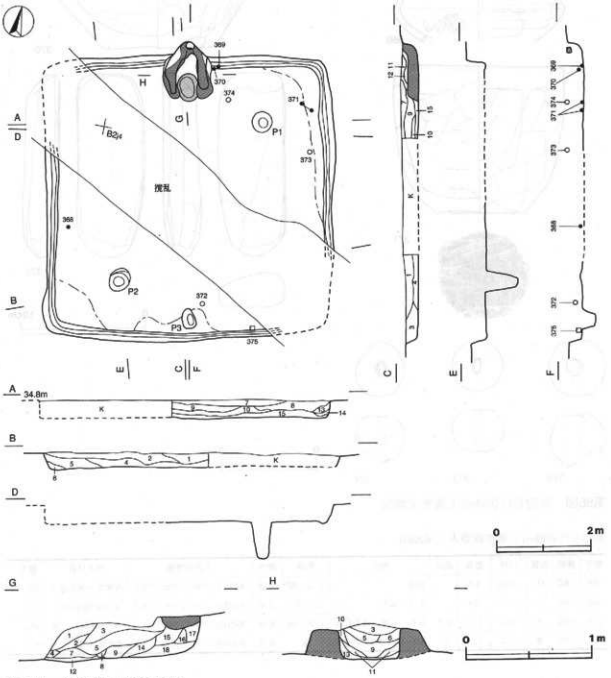
1　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，砂粒微量
2　灰　褐　色　ローム粒子・砂粒少量
3　灰　褐　色　ローム小ブロック・砂粒少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・砂粒微量
5　にぶい褐色　ローム中ブロック・砂粒少量，粘土小ブロック微量
6　灰　褐　色　粘土小ブロック中量，ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土中ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量，粘土小ブロック微量
8　にぶい黄褐色　粘土大ブロック中量，ローム粒子少量
9　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒少量
10　にぶい褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
11　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
12　明赤褐色　焼土中ブロック多量，炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子・粘土粒子少量
13　にぶい褐色　砂粒中量，ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
14　暗赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
15　暗　褐　色　ローム粒子・粘土大ブロック少量
16　暗　褐　色　粘土粒子少量
17　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
18　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量

ピット　3か所。主柱穴はＰ１・Ｐ２で，深さは50・58cmである。Ｐ３は深さ24cmで，南壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。

覆土　15層からなり，ロームブロックを含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

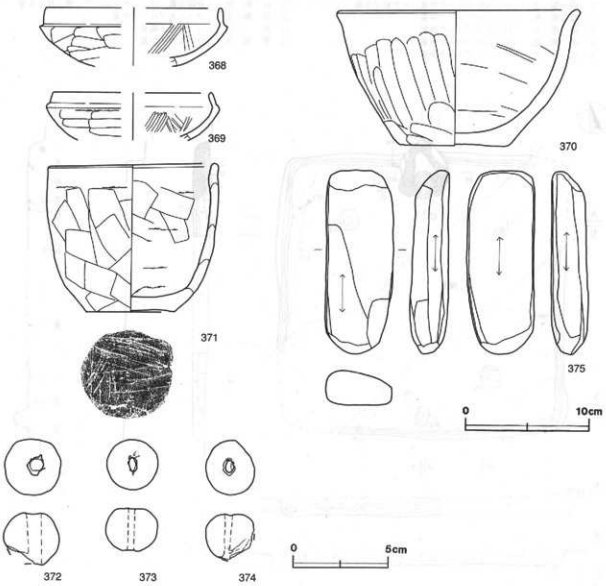
1	褐	色	ローム中ブロック少量
2	褐	色	ローム小ブロック中量
3	暗 褐	色	ローム大ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗 褐	色	ローム中ブロック中量，炭化粒子少量
5	暗 褐	色	ローム小ブロック少量
6	暗 褐	色	ローム小ブロック微量
7	暗 褐	色	ローム中ブロック少量
8	褐	色	ローム大ブロック少量
9	暗 褐	色	ローム大ブロック少量，焼土粒子微量
10	褐	色	ローム大ブロック微量
11	暗 褐	色	ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
12	灰 褐	色	砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
13	暗 褐	色	ローム大ブロック少量
14	褐	色	ローム粒子微量
15	黒 褐	色	ローム粒子少量



第84図　第52号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片625点（坏104，鉢16，甕505），須恵器片45点（坏18，甕27），土製品３点（球状土錘３），石器１点（砥石），礫８点が出土している。第85図368は西壁寄りの床面直上，369は竈右袖部脇の床面直上，370は覆土下層，371は東壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。これらの遺物は住居廃絶時に投棄された可能性が高い。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から６世紀中葉と考えられる。



第85図　第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
368	土師器	坏	[14.0]	(4.6)	—	雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	西壁寄り床面直上	30%
369	土師器	坏	[12.6]	(3.8)	—	雲母・長石	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	竈右袖部脇床面直上	45%
370	土師器	鉢	19.1	11.0	8.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	竈右袖部脇覆土下層	70%
371	土師器	甕	13.2	12.0	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	東壁寄り覆土下層	60%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
372	球状土錘	3.08	2.97	1.03	(23.1)	土製	ナデ	P3脇覆土中層	一部欠損
373	球状土錘	2.71	2.76	0.75	(15.5)	土製	ナデ	東壁寄り覆土上層	一部摩滅
374	球状土錘	2.95	(2.53)	0.70	(14.7)	土製	ナデ	竈右側覆土上層	一部欠損

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
375	砥石	14.7	5.4	3.1	400.0	砂岩	四面使用	南壁覆土下層	PL68

第57号住居跡（第86・87図）

位置　調査Ⅰ区北西部のB1ｈ9区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　東壁が第64B号土坑の西部を掘り込んでいる。また，北西部を第55号住居跡に，南東部を第58号住居跡と第58号土坑にそれぞれ掘り込まれている。第84号土坑との新旧関係については不明で，南西部は調査区域外に延びる。

規模と形状　長軸6.65m，短軸6.20mほどが確認され，平面形は方形または長方形と推定される。主軸方向はN－13°－Wである。壁高は32～38cmで，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部分を踏み固められている。また，壁溝が周回し，P4に間仕切り溝が確認された。

炉　北壁寄りの中央部に付設されている。長径80cm，短径40cmのほぼ楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床および炉壁は，火熱を受けて硬化している。

炉土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック中量，炭化粒子少量

ピット　8か所。主柱穴はP1～P3で，深さは40～44cmである。P4～P6は深さ35～55cmで，主柱穴の北側と南側に規則的に配列されていることから補助的な柱穴と考えられるが，明確ではない。P7・P8は性格不明である。

P1土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子微量

P2土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック少量

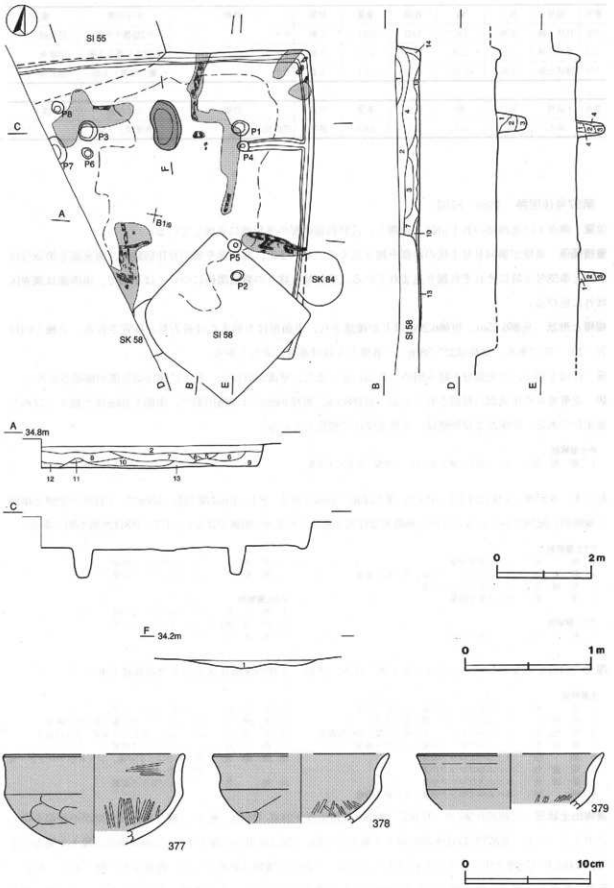
P3土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック中量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

覆土　14層からなり，ロームブロックを多く含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

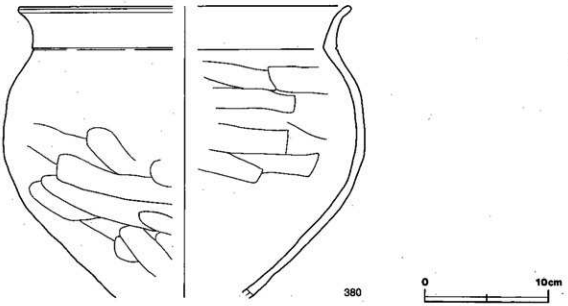
土層解説
1　褐　色　ローム中ブロック中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム中ブロック・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
4　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5　褐　色　ローム中ブロック多量
6　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
7　暗　褐　色　ローム大ブロック中量
8　褐　色　ローム中ブロック中量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ローム中ブロック少量
10　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，炭化材微量
12　褐　色　ローム大ブロック中量
13　暗　褐　色　焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・炭化物少量
14　褐　色　ローム大ブロック少量

遺物出土状況　土師器片567点（坏147，甕420），須恵器片24点（坏19，甕5），礫2点，炭化材が中央部を中心に出土している。第87図377は南部の覆土上層から中層，378は南東部の覆土上層，379は東部の覆土上層から中層，380はP3の覆土中からそれぞれ出土している。これらの遺物は埋め戻し時に投棄された物と考えられる。

所見　多量の土器片と焼土塊・炭化材が検出された焼失住居であり，人為堆積であることから，火災時に埋め戻されたものと考えられる。時期は，出土土器及び遺構の形態から5世紀末葉と考えられる。



第86図　第57号住居跡・出土遺物実測図



第87図　第57号住居跡出土遺物実測図

第57号住居跡出土遺物観察表（第86・87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
377	土師器	坏	[14.0]	(7.2)	－	砂粒	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南部上層～中層	20%　内・外面赤彩
378	土師器	坏	[14.0]	(5.6)	－	石英	浅黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南東部覆土上層	10%　内・外面赤彩
379	土師器	坏	[14.8]	(4.5)	－	石英	浅黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	東部上層～中層	15%　内・外面赤彩
380	土師器	甕	[26.6]	(23.5)	－	長石・石英・雲母・小礫	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	P3覆土	35%

第61号住居跡（第88～90図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ２ｊ2区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　北西部が第59Ａ号住居跡の南東部を，南西部が第63号住居跡の北東部をそれぞれ掘り込んでいる。また，西コーナー部を第59Ｂ・60号住居跡に，南コーナー部を第62号住居跡に掘り込まれている。さらに，北コーナー部付近は攪乱を受けている。

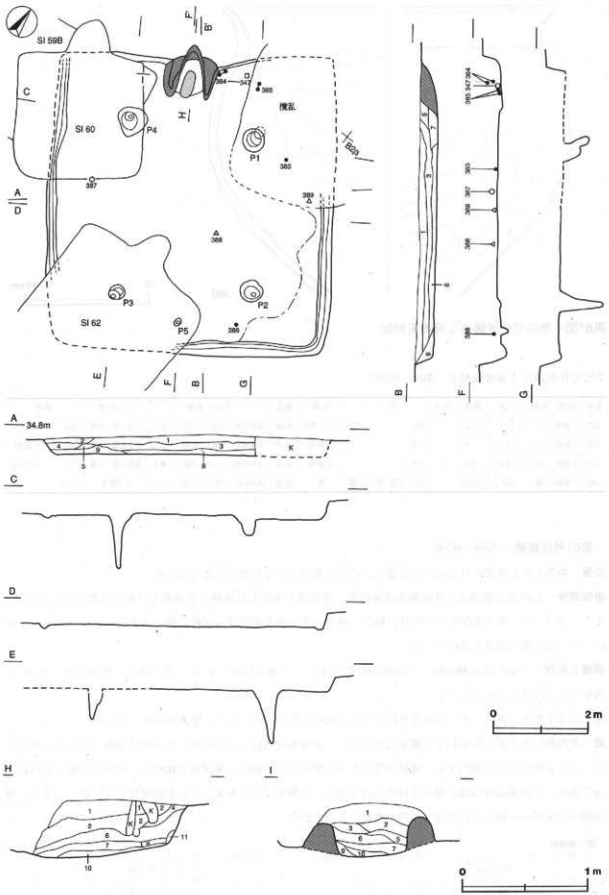
規模と形状　平面形は長軸6.30m，短軸6.16mの方形で，主軸方向はＮ－34°－Ｗである。壁高は34～42cmで，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，東コーナー部付近を除いて踏み固められている。また，壁溝が周回している。

竈　北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが，天井部は崩落しており，第２・３・５・６層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで86cm，袖部最大幅82cm，壁外への掘り込みは30cmである。火床部は６cmほど掘りくぼめられており，火熱を受けて赤変しているが硬化していない。また，煙道部は火床部から緩やかに外傾し，のち垂直に立ち上がる。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
2　暗褐色　砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3　褐　色　砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・炭化粒子中量，ローム小ブロック・砂粒少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・砂粒中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
6　暗褐色　粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量



第88図　第61号住居跡実測図

7	極暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量	10	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
8	暗褐色	焼土小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量	11	褐色	ローム粒子多量
9	暗褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量			

ピット　5か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４で，深さは50～113cmである。Ｐ５は深さ24cmで，南東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。

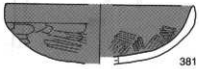
覆土　9層からなり，多量のロームブロックと焼土ブロックを含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

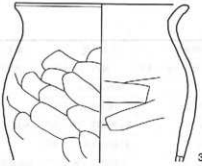
1	褐色	ローム大ブロック多量，焼土小ブロック・炭化物少量	5	暗褐色	ローム中ブロック多量，焼土小ブロック・炭化物中量
2	褐色	ローム大ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量	6	褐色	ローム中ブロック・粘土粒子・砂粒多量
3	暗褐色	ローム大ブロック多量，焼土小ブロック微量	7	褐色	ローム大ブロック多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック少量
4	暗褐色	ローム大ブロック・炭化材多量，焼土中ブロック少量	8	暗褐色	ローム小ブロック多量，炭化物少量
			9	暗褐色	ローム中ブロック多量，焼土粒子少量

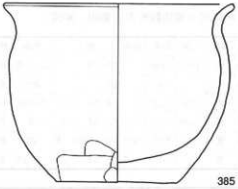
遺物出土状況　土師器片1178点（坏174，甕1004），須恵器片36点（坏26，甕９，長頸瓶１），土製品１点（突起支脚），石製品１点（臼玉），鉄製品２点（刀子１，鈷１），礫９点が竈右側と中央部付近の覆土中層から下層を中心に出土している。これらの遺物は住居廃絶時に投棄された可能性が高い。第89図381は竈内，383はＰ１脇の床面直上，385は竈右袖部脇の床面直上，第90図384は竈右袖部脇の覆土中層，386は南東壁寄りの覆土下層，347は竈右側の覆土下層，388は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から６世紀中葉と考えられる。


381

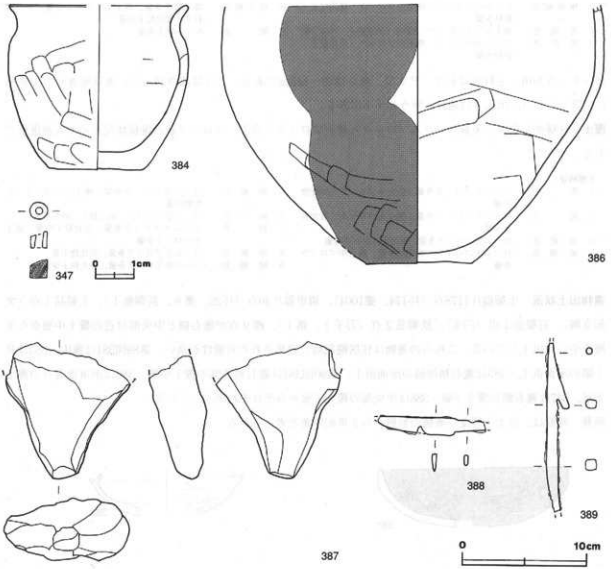
382


383


385

0　10cm

第89図　第61号住居跡出土遺物実測図（１）



第90図　第61号住居跡出土遺物実測図（2）

第61号住居跡出土遺物観察表（第89・90図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
381	土師器	坏	[15.1]	(4.9)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き	竈内	40%　内・外面黑色処理
382	須恵器	坏	—	(3.5)	—	長石	黄灰	普通	体部外面ヘラ削り	南西部覆土	30%
383	土師器	甕	13.9	(12.8)	—	石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	P1脇床面直上	60%
384	土師器	甕	[14.0]	13.3	7.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	竈右袖部脇覆土中層	30%　輪積み痕
385	土師器	甕	19.4	14.7	10.0	長石・石英・雲母・小礫	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	竈右袖部脇床面直上	80%　P L.44
386	土師器	甕	—	(20.8)	8.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	南東壁覆土下層	45%　器面剥離　黑斑

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
387	突起支脚	(11.0)	(10.0)	(4.8)	(310.0)	土製	脚部外面ヘラナデ	南西壁寄り覆土中層	一部器面剥離
347	臼玉	0.47	0.48	0.41	0.14	滑石	孔径0.18，磨き	竈右側覆土下層	P L.66
388	刀子	(8.7)	1.5	0.4	(11.0)	鉄	刀身部断面三角形，茎部断面長方形	中央部覆土下層	
389	鉸	(14.0)	0.9	0.85	(46.5)	鉄	先端部欠損，断面長方形	北東壁床面直上	P L.69

第63号住居跡（第91・92図）

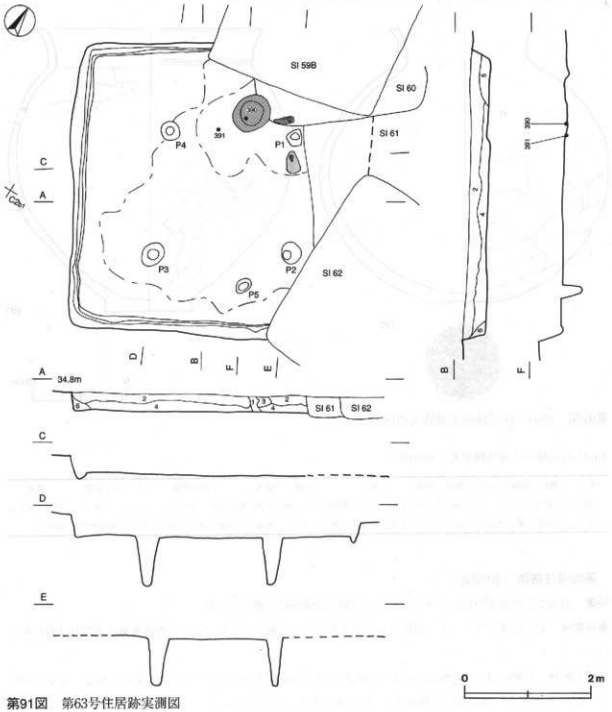
位置　調査Ⅰ区中央部のＣ２a1区に位置し，舌状台地西部の平坦地に立地している。

重複関係　北コーナー部から東コーナー部にかけて，第59Ｂ～62号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.75m，短軸4.63mほどが確認され，平面形は方形または長方形と推定される。主軸方向はＮ－28°－Ｗである。壁高は22～35cmで，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。また，壁溝が周回している。

炉　北西壁寄りの中央部に付設されている。長径62cm，短径32cmのほぼ楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床および炉壁は，火熱を受けて赤変しているが，硬化していない。



第91図　第63号住居跡実測図

ピット　5か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４で，深さは75～77cmである。Ｐ5は深さ34cmで，南東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。

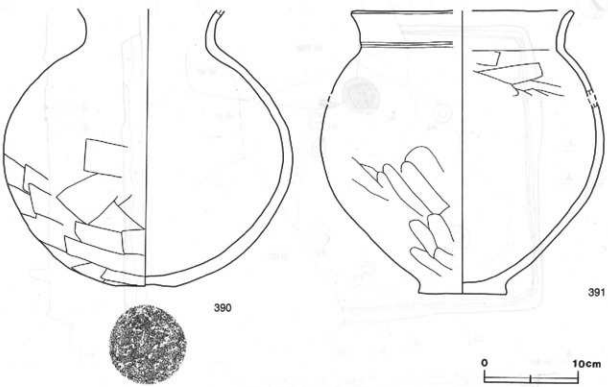
覆土　6層からなり，ロームブロックを多量に含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	褐	色	ローム中ブロック多量，炭化物少量
2	褐	色	ローム大ブロック多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
3	褐	色	ローム小ブロック多量
4	暗褐	色	ローム大ブロック多量，炭化材中量，焼土中ブロック少量
5	褐	色	ローム中ブロック多量
6	暗褐	色	ローム中ブロック多量，焼土小ブロック・炭化物中量

遺物出土状況　土師器片160点（坏９，甕１，甕150），須恵器片10点（坏10），礫２点が中央部の炉付近を中心に出土している。第92図390は炉内，391は炉南側の床面直上からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から５世紀後葉と考えられる。



第92図　第63号住居跡出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表（第92図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
390	土師器	甕	－	(29.5)	6.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り	炉内	75%　ＰＬ44
391	土師器	甕	[22.8]	[30.0]	9.0	長石・石英・小礫	橙	普通	体部外面ヘラ削ヵ，内面ヘラナデ	炉南側床面直上	30%

第68号住居跡（第93図）

位置　調査Ｉ区中央部のＣ２ｃ3区に位置し，台地の中央部に立地している。

重複関係　第７号溝に西コーナー部付近から中央部にかけて掘り込まれており，本跡東側の大部分は撹乱をうけている。

規模と形状　長軸3.83m，短軸1.22mほどが確認され，平面形は方形または長方形と推定される。主軸方向はＮ－27°－Ｗである。壁高は16～30cm程で，壁はほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められており，壁溝が周回している。

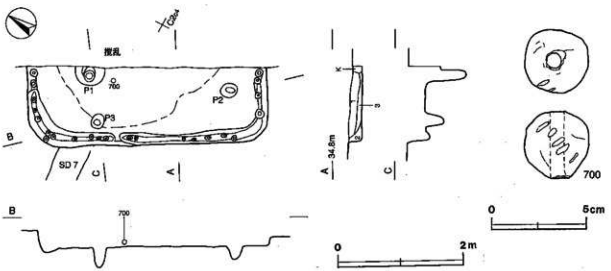
ピット　26か所。主柱穴はＰ１が相当し，深さは66cmである。Ｐ２・Ｐ３は性格不明である。その他のピットは壁溝内から確認されていることから壁柱穴と考えられる。

覆土　３層からなり，ロームブロックを多量に含むことから人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　　ロームブロック多量，炭化物中量，焼土ブロック少量
2　暗　褐　色　　ロームブロック多量
3　暗　褐　色　　ロームブロック中量・焼土粒子・炭化物少量

遺物出土状況　土師器片72点（坏９，甕63），土製品１点（球状土錘）が出土しており，ほとんどが細片であるため図示できたものは第93図700のみであり，Ｐ１南側のは覆土中層から出土している。

所見　本跡は推積状況から廃絶後人為的に埋め戻されたもので，出土土器から時期は６世紀代と考えられる。



第93図　第68号住居跡・出土遺物実測図

第68号住居跡出土遺物観察表（第93図）

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
700	球状土錘	3.6	3.4	0.8	39.8	土製	ナデ	P1南側覆土中層	

第69号住居跡（第94図）

位置　調査Ｉ区中央部のＣ２ｃ2区に位置し，舌状台地中央部の平坦地に立地している。

重複関係　北コーナー部付近で第７号溝と重複しているが新旧関係は不明である。また，南西部は調査区域外に延びる。

規模と形状　長軸8.04m，短軸3.96mほどが確認され，平面形は方形または長方形と推定される。主軸方向はＮ－33°－Ｗである。壁高は22～28cmで，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，踏み固められた部分は明確でなく，壁溝が周回しており，北西壁と北東壁側には間仕切り溝が確認された。また，全面にわたって多量の焼土塊と炭化材が出土している。

炉　確認されていない。

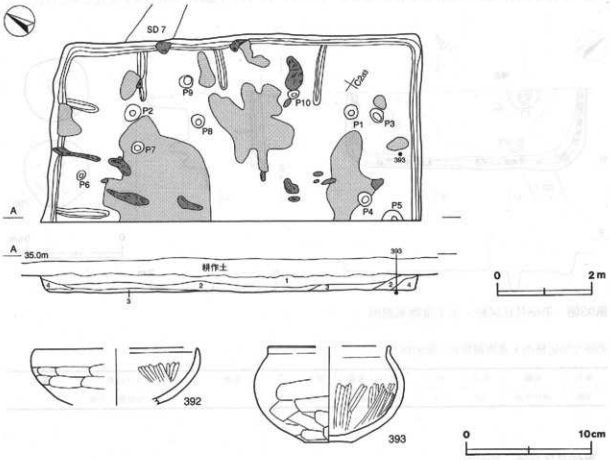
ピット　10か所。主柱穴はＰ１・Ｐ２で，深さは56・69cmである。Ｐ３～Ｐ10は深さ６～45cmで，性格は不明である。

覆土　4層からなり，ロームブロックと焼土ブロックを多量に含み，層位の逆転がみられる人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム中ブロック中量，焼土小ブロック・炭化物少量
2　暗　褐　色　ローム中ブロック多量，焼土中ブロック少量，炭化物微量
3　暗　褐　色　ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化物中量
4　黒　褐　色　ローム中ブロック中量

遺物出土状況　土師器片221点（坏38，高台付坏1，椀1，甕181），礫5点が出土している。第94図393は南東壁寄りの床面直上から出土している。392は埋め戻し時に流れ込んだものと考えられる。

所見　多量の焼土と炭化材が確認された焼失家屋であり，人為的に埋め戻されている。時期は，出土土器及び遺構の形態から5世紀末葉と考えられる。



第94図　第69号住居跡・出土遺物実測図

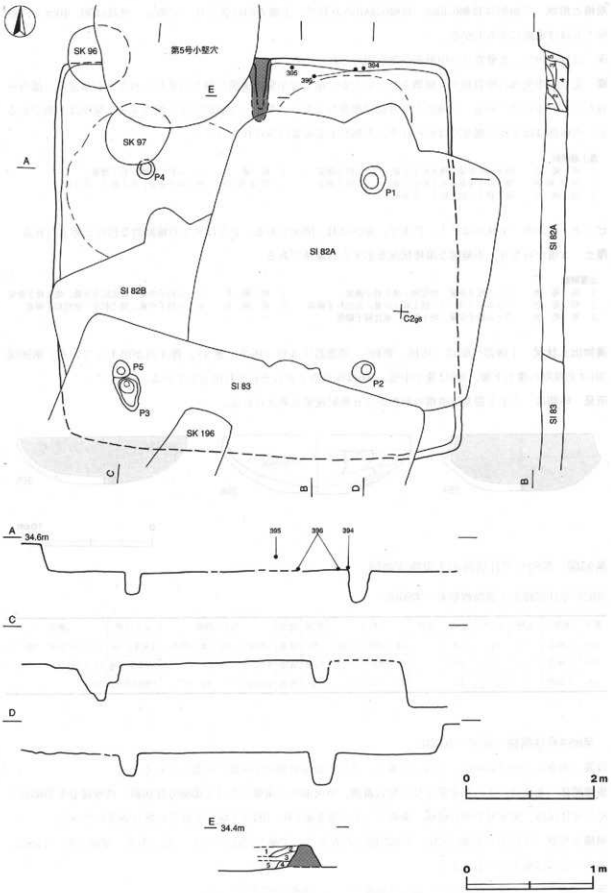
第69号住居跡出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
392	土師器	坏	[13.0]	(4.5)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	北東部覆土	20%	二次焼成
393	土師器	椀	[9.7]	7.7	3.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南東壁床面直上	70%	二次焼成

第82C号住居跡（第95・96図）

位置　調査Ⅰ区中央部のＣ２ｆ5区に位置し，舌状台地中央部の平坦地に立地している。

重複関係　北壁部分を第５号小竪穴遺構，中央部から南壁にかけて第82Ａ・82Ｂ・83号住居跡，第196号土坑にそれぞれ掘り込まれている。また，第96・97号土坑との新旧関係は不明である。



第95図　第82C号住居跡実測図

規模と形状　平面形は長軸6.35m，短軸6.30mの方形で，主軸方向はN－0°である。壁高は30～40cmで，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，北壁寄りの中央部が踏み固められている。

竈　北壁の中央部に砂質粘土で構築されていたが，第５号小竪穴遺構に掘り込まれており，右袖部の一部のみ残存しているだけである。左袖部と天井部は崩落しており，第１～３層がこれに相当する。規模は不明であるが，火床部はほとんど掘りくぼめられず，火熱による赤変はみられない。

竈土層解説

1	暗　褐　色	粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量	4	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量
2	暗 赤 褐 色	焼土粒子多量，粘土粒子少量，ローム粒子微量	5	暗 赤 褐 色	焼土粒子多量，粘土粒子・灰少量
3	暗　褐　色	焼土粒子・粘土粒子・灰少量			

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４で，深さは34～59cmである。Ｐ５はＰ３の補助的な柱穴と考えられる。

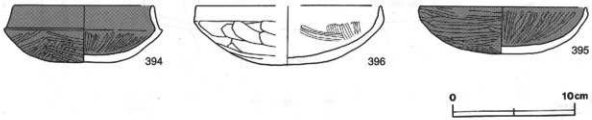
覆土　５層からなり，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量	4	暗　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2	暗　褐　色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量	5	暗　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況　土師器片65点（坏16，甕49），須恵器片６点（坏３，甕３），礫１点が出土している。第96図394は北壁際の覆土下層，395は覆土中層，396は床面直上からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から６世紀後葉と考えられる。



第96図　第82Ｃ号住居跡出土遺物実測図

第82Ｃ号住居跡出土遺物観察表（第96図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
394	土師器	坏	11.3	4.8	－	石英・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ，体部ヘラ磨き，内面暗文	北壁覆土下層	80% 内・外面黒色処理　二次焼成　PL40
395	土師器	坏	13.5	4.0	－	長石・雲母	灰褐	普通	体部ヘラ磨き，内面暗文	北壁際覆土中層	75% 内・外面黒色処理　PL40
396	土師器	坏	[15.2]	4.9	－	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	北壁際床面直上	50%

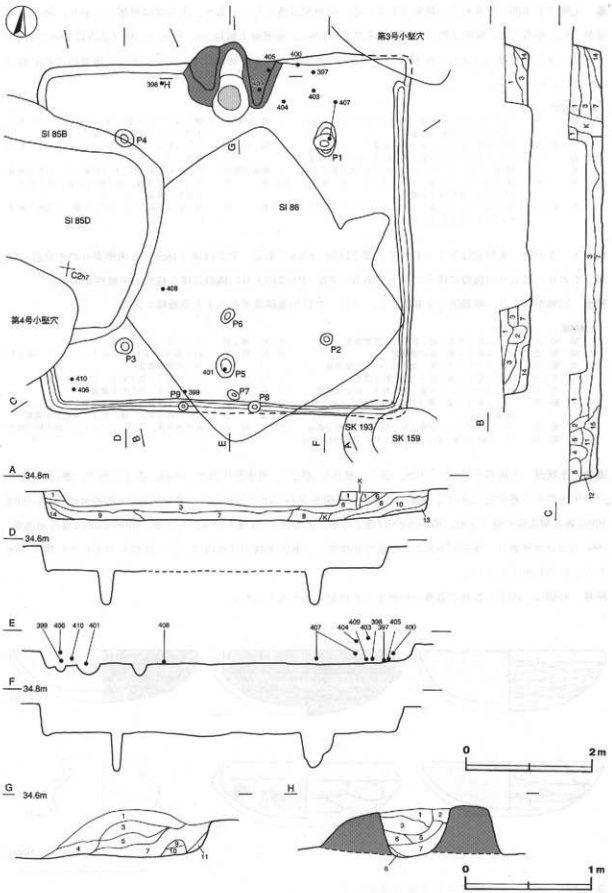
第85A号住居跡（第97～100図）

位置　調査Ｉ区中央部のＣ２ｇ7区に位置し，舌状台地中央部の平坦地に立地している。

重複関係　北東コーナー部を第３号小竪穴遺構，中央部から南壁にかけて第86号住居跡，西壁部分を第85Ｂ・85Ｄ号住居跡，第４号小竪穴遺構，南東コーナー部を第159・193号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　平面形は長軸5.92m，短軸5.68mの方形で，主軸方向はＮ－11°－Ｗである。壁高は32～44cmで，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，踏み固められた部分は明確でなく，壁溝が周回している。



第97図　第85A号住居跡実測図

竈　北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが，天井部は崩落しており，第1～6層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで128cm，袖部最大幅142cm，壁外への掘り込みは20cmである。火床部ははとんど掘りくぼめられず，火熱を受けて赤変しているが硬化していない。また，煙道部は火床部から垂直に立ち上がる。

竈土層解説

1	褐色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・粘土小ブロック・炭化粒子少量	
2	黒褐色	ローム小ブロック・粘土粒子少量	
3	褐色	ローム小ブロック中量，焼土粒子・粘土粒子少量	
4	褐色	粘土中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量	
5	褐色	粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量	
6	暗褐色	粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量	
7	暗赤褐色	焼土ブロック中量，ローム小ブロック・粘土小ブロック・炭化粒子少量	
8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	
9	極暗赤褐色	炭化粒子多量，焼土粒子中量，ローム粒子微量	
10	褐色	ローム粒子多量，粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	
11	褐色	粘土粒子多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量	

ピット　9か所。主柱穴はP1～P4で，深さは54～62cmである。P5は深さ18cmで，南壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。P6～P9は出入り口施設に伴う柱穴の可能性がある。

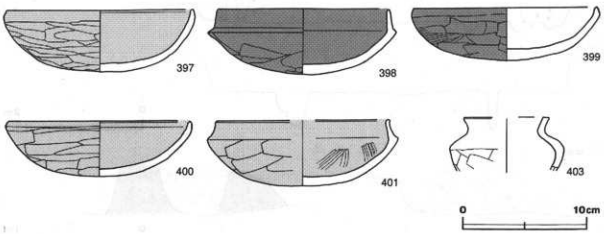
覆土　15層からなり，暗褐色土を基調とし，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

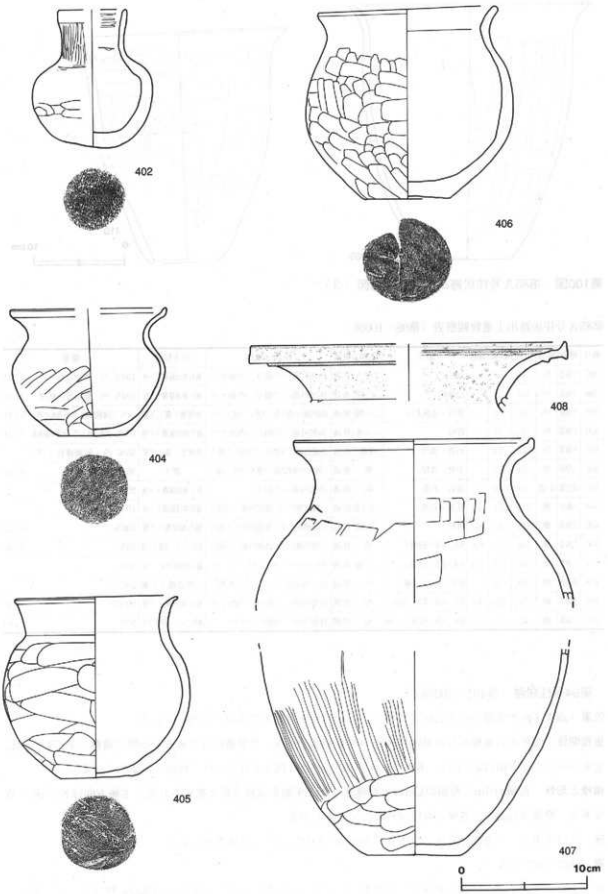
1	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
2	暗褐色	ローム粒子少量，炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
6	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム小ブロック少量
10	暗褐色	粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
11	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
12	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
13	暗褐色	粘土粒子多量，焼土粒子微量
14	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
15	暗褐色	炭化物少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片214点（坏28，壺1，甕183，甑2），須恵器片29点（坏14，蓋1，壺1，甕13），礫5点が中央部から竈付近にかけての覆土上層から下層を中心に出土している。第98図397・第99図405・第100図409は竈右袖部脇の覆土下層，第98図400は覆土中層，第99図407は覆土中層から下層，第98図398は竈左袖部脇，399・401は南壁寄り，第99図408は中央部の南西寄り，第100図410は南西コーナー部寄りのそれぞれ覆土下層からそれぞれ出土している。

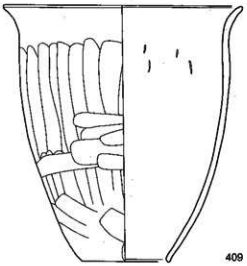
所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から6世紀中葉と考えられる。

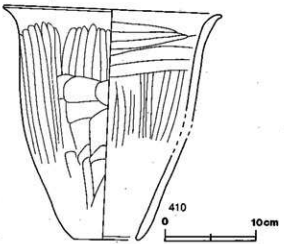


第98図　第85A号住居跡出土遺物実測図（1）



第99図　第85A号住居出土遺物実測図（2）





第100図　第85A号住居跡出土遺物実測図（3）

第85A号住居跡出土遺物観察表（第98～100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
397	土師器	坏	15.0	5.0	—	砂粒	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	竈右袖部脇覆土下層	100% 内・外面漆仕上げ	PL41
398	土師器	坏	13.8	5.3	—	白色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	竈左袖部脇覆土下層	100% 内・外面黒色処理	PL41
399	土師器	坏	14.8	4.2	—	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ	南壁寄り覆土下層	100% 口縁部摩滅　外面黒色処理	PL41
400	土師器	坏	14.6	4.5	—	砂粒	にぶい黄	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	竈右袖部脇覆土中層	75%内・外面漆仕上げ　底部外面調整	PL41
401	土師器	坏	(13.8)	5.3	—	石英・雲母	浅黄	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南壁寄り覆土下層	45%　内・外面漆仕上げ	
402	土師器	壺	[5.4]	11.0	—	石英・雲母	黒	普通	口縁部から体部外面ヘラ磨き，中位ヘラ削り	覆土	95%　輪積み痕	PL42
403	須恵器	小壺	[6.8]	(4.3)	—	長石・石英	灰	普通	体部外縁ヘラ削り	竈右袖部脇覆土上層	20%	
404	土師器	甕	[22.2]	10.1	5.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り	竈右袖部脇覆土上層	70%	
405	土師器	甕	12.8	14.5	6.0	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り	竈右袖部覆土下層	100%	PL43
406	土師器	甕	13.8	15.4	6.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り	南西コーナー部覆土下層	95%	PL43
407	土師器	甕	18.9	(29.4)	7.6	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部上位ヘラナデ，中位ヘラ磨き，下位ヘラ削り	竈左袖部脇中層～下層	35%	
408	須恵器	甕	[34.8]	(4.6)	—	石英・赤色粒子・小礫	灰	普通	内・外裏面にオリーブの自然釉	中央部覆土下層	5%	
409	土師器	甑	25.8	28.0	9.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	竈右袖部覆土下層	90%	PL44
410	土師器	甑	23.5	25.2	7.0	長石・石英・赤色粒子・小礫	橙	普通	体部外面・内面ヘラナデ	南西コーナー部覆土下層	80%	PL44

第94号住居跡（第101・102図）

位置　調査Ⅰ区中央部のＣ２g9区に位置し，舌状台地中央部の平坦地に立地している。

重複関係　北壁から東壁部分が第96住居跡の西側を掘り込み，北壁竈付近を第６号小竪穴遺構・第174号土坑，北東コーナー部を第173号土坑，南西コーナー部付近を第176号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.04m，短軸4.02mほどが確認され，平面形は長方形と推定される。主軸方向はＮ－16°－Ｗである。壁高は12cmで，各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部付近は，厚さ６～８cmほどのローム土で，貼床されている。

竈　確認されていない。

ピット　１か所。Ｐ１は深さ26cmで，南壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。

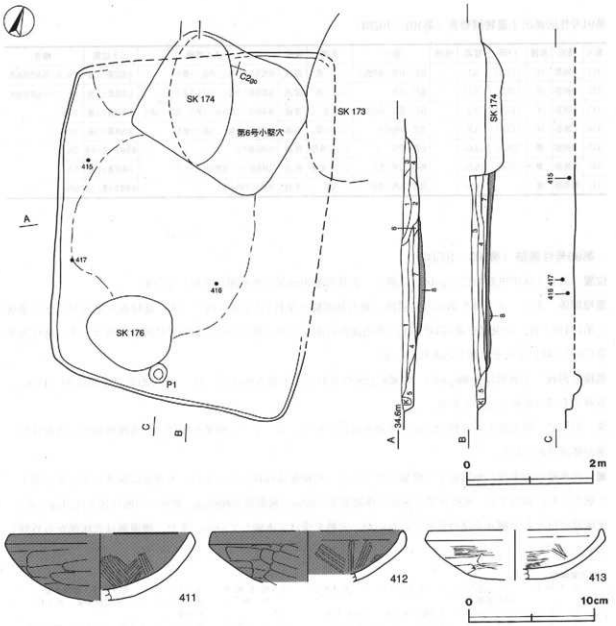
覆土　8層からなり，ロームブロックを多量に含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

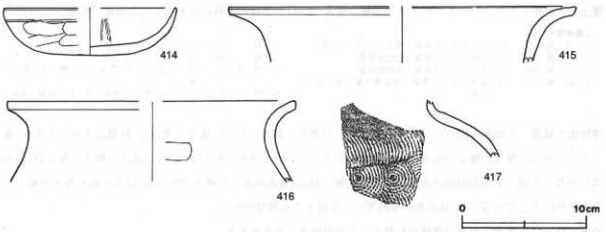
1	暗褐色	ローム大ブロック多量，焼土大ブロック少量	5	褐色	ローム大ブロック多量
2	暗褐色	ローム中ブロック多量，炭化物中量	6	褐色	ローム中ブロック多量
3	暗褐色	ローム小ブロック多量，炭化物中量	7	黒褐色	ローム小ブロック多量，炭化物・焼土粒子少量
4	暗褐色	ローム大ブロック多量，炭化物中量，焼土大ブロック少量	8	褐色	ローム大ブロック多量，焼土粒子少量，貼床

遺物出土状況　土師器片391点（坏118，甕273），須恵器片46点（坏32，蓋3，甕11），鉄製品1点（不明），礫1点が中央部の覆土中層から床面直上を中心に出土している。第101図411・413は北東部の覆土上層，412は北西部の覆土上層，第102図414は南西部の覆土上層，415は南西隅寄りの覆土中層，416は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。417は後世の攪乱等による混入の可能性が高い。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から7世紀後葉と考えられる。



第101図　第94号住居跡・出土遺物実測図



第102図　第94号住居跡出土遺物実測図

第94号住居跡出土遺物観察表（第101・102図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
411	土師器	坏	[14.2]	5.4	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ撫り，内面ヘラ磨き	北東部覆土上層	25% 内・外面黑色処理
412	土師器	坏	[15.2]	(4.1)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	北西部覆土上層	15% 内・外面黑色処理
413	土師器	坏	[13.8]	3.9	－	長石・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き	北東部覆土上層	10%
414	土師器	坏	[13.8]	3.8	－	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南西部覆土上層	10%
415	土師器	甕	[28.0]	(4.6)	－	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ	南西壁寄り覆土中層	5%
416	土師器	甕	[23.0]	(6.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ，体部内面ヘラナデ	中央部覆土中層	5%
417	須恵器	甕	－	(4.3)	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外面列点円状の押き	南西壁寄り覆土上層	5%

第96号住居跡（第103～105図）

位置　調査Ⅰ区中央部のＣ２ｇ0区に位置し，舌状台地中央部の平坦地に立地している。

重複関係　北コーナー部を第93号住居跡，竈右袖部脇を第175号土坑，西コーナー部付近を第６号小竪穴遺構と第174号土坑，中央部を第173号土坑，中央部から南コーナー部にかけて第94号住居跡，南コーナー部付近を第176号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

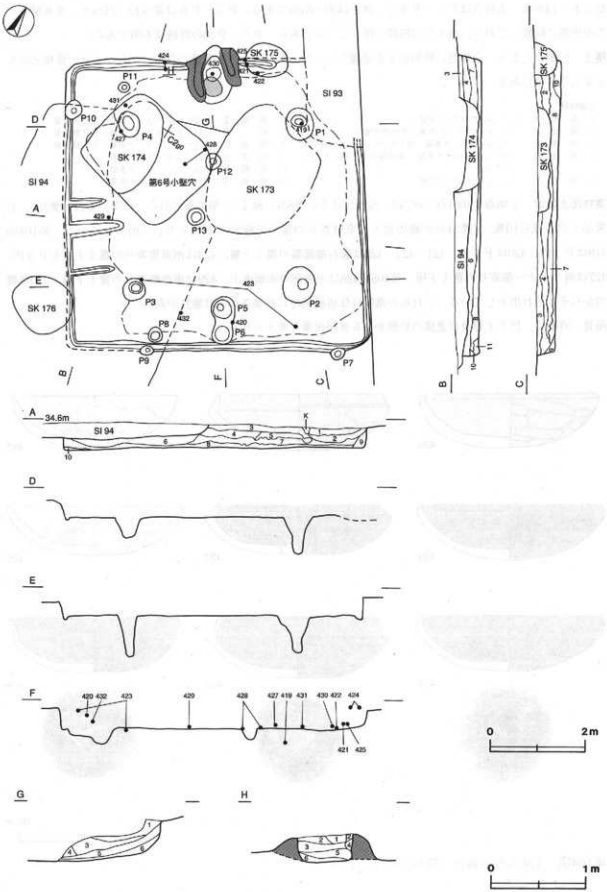
規模と形状　平面形は長軸6.40m，短軸6.22mの方形で，主軸方向はＮ－31°－Ｗである。壁高は30～41cmで，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，中央部から各柱穴にかけて踏み固められている。また，壁溝が周回し，南西壁側からは間仕切り溝が確認されている。

竈　北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが，天井部は崩落しており，第１～５層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで92cm，袖部最大幅84cm，壁外への掘り込みは24cmである。火床部はほとんど掘りくぼめられていないが，火熱を受けて赤変している。また，煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒多量
2　灰　褐　色　ローム小ブロック多量，粘土粒子・砂粒中量
3　暗赤褐色　焼土小ブロック多量，粘土粒子・砂粒中量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒多量
5　黒　褐　色　焼土小ブロック・炭化物多量，粘土粒子・砂粒中量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック多量，粘土粒子・砂粒少量



第103図　第96号住居跡実測図

ピット　13か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４で，深さは30～64㎝である。Ｐ５・Ｐ６は深さ12・24㎝で，南東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。Ｐ７～Ｐ13の性格は不明である。

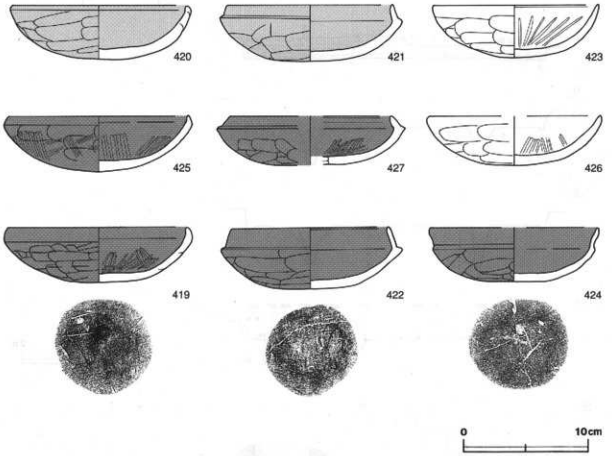
覆土　11層からなり，全体的に暗褐色土を基調とし，ロームブロックを多量に含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

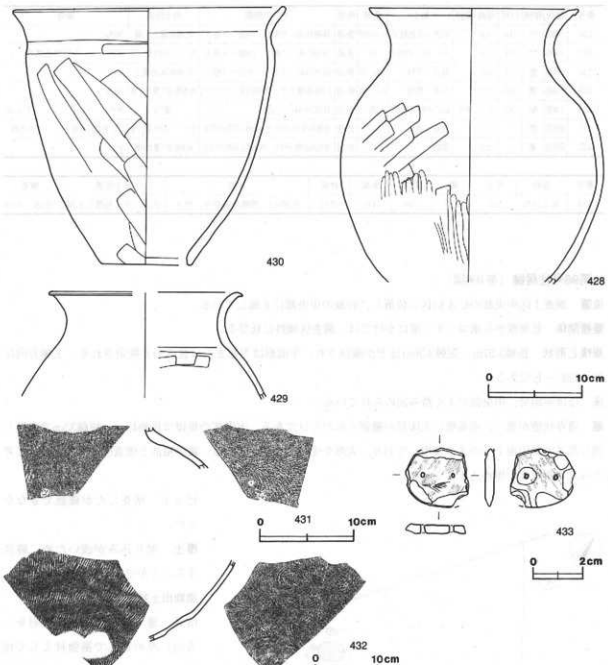
1	暗褐色	ローム中ブロック多量	6	黒褐色	ローム中ブロック多量，炭化物少量
2	暗褐色	ローム中ブロック多量，炭化物少量	7	褐色	ローム大ブロック中量，炭化物少量
3	暗褐色	ローム中ブロック多量，焼土中ブロック・炭化物中量	8	黒褐色	ローム中ブロック中量，炭化物少量
4	暗褐色	ローム中ブロック多量，炭化物中量，焼土小ブロック少量	9	暗褐色	ローム大ブロック多量
			10	黒褐色	ローム中ブロック多量
5	暗褐色	ローム大ブロック中量	11	黒褐色	ローム大ブロック中量

遺物出土状況　土師器片1084点（坏243，高台付坏３，甕837，甑１），須恵器片91点（坏30，蓋21，甕40），石製品１点（双孔円板），礫24点が竈周辺と南東壁寄りの覆土中層から下層を中心に出土している。第104図419はＰ１内，420はＰ６内，421・422・425は竈右袖部脇の覆土下層，423は南東壁寄りの覆土上層とＰ３内，427は西コーナー部寄りの覆土下層，第105図428は中央部の床面直上，429は南西壁寄りの覆土下層，430は竈内からそれぞれ出土している。これらの遺物は住居廃絶時に投棄された可能性が高い。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から６世紀後葉と考えられる。



第104図　第96号住居跡出土遺物実測図（１）



第105図　第96号住居跡出土遺物実測図（2）

第96号住居跡出土遺物観察表（第104・105図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
419	土師器	坏	14.4	4.4	－	雲母・長石	にぶい橙色	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	P1覆土下層	95%　内・外面黒色処理　PL41
420	土師器	坏	14.2	4.3	－	雲母・長石	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	P6覆土上層	90%　内・外面漆仕上げ　PL41
421	土師器	坏	13.4	4.5	－	石英，雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	竈右袖部脇覆土下層	95%　内・外面漆仕上げ　PL41
422	土師器	坏	12.6	4.8	－	長石・雲母	灰白	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	竈右袖部脇覆土下層	95%　内・外面黒色処理　PL41
423	土師器	坏	13.3	4.2	－	雲母・長石	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面暗文	南東壁・P3上層	85%　PL41
424	土師器	坏	[13.5]	4.4	－	雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	竈左袖部脇覆土上層	80%　内・外面黒色処理　PL41
425	土師器	坏	14.4	4.5	－	長石・石英	にぶい黄	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き	竈右袖部脇覆土下層	70%　内・外面黒色処理

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
426	土師器	坏	[14.0]	4.0	—	石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	北西部覆土上層	50%
427	土師器	坏	[13.0]	3.9	—	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	第コーナー部第1層土下層	30% 内・外面黒色処理
428	土師器	甕	21.8	(26.0)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，中位ヘラ磨き	中央部床面直上	40%
429	土師器	甕	[20.0]	(11.4)	—	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ，体部内面ヘラナデ	南西壁寄り覆土下層	10%
430	土師器	鍋	28.5	27.7	9.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り	竈内	90% PL45
431	須恵器	甕	—	(4.3)	—	長石・雲母	灰	普通	体部外面平行叩き，内面同心円状の当て	第コーナー部第1層土下層	5% 体部外面要オリーブの自然釉
432	須恵器	甕	—	(12.5)	—	雲母	灰	普通	体部外面格子叩き，内面同心円状の当て	南東壁寄り覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
433	双孔円板	(2.4)	(2.6)	0.39	(4.0)	滑石	孔径0.2，周縁部面取り，磨き	北コーナー部覆土上層	一部欠損 PL46

第98号住居跡（第106図）

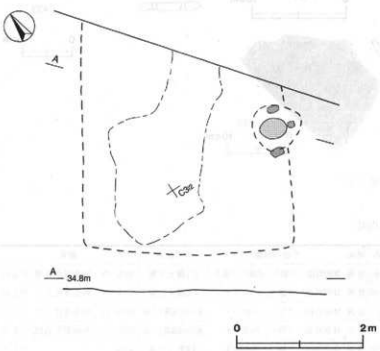
位置　調査Ⅰ区中央部のＣ３h2区に位置し，台地の中央部に立地している。

重複関係　北東壁から東コーナー部にかけては，調査区域外に延びる。

規模と形状　長軸3.57m，短軸3.36mほどが確認され，平面形は方形または長方形と推定される。主軸方向はＮ－124°－Ｅである。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　遺存状態が悪く，南東壁に火床部が確認されただけである。火床部の規模は長軸45cm，短軸32cmで床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており，火熱を受けて赤変している。竈の袖部と煙道部に竈の補強材と考えられる疑灰岩が埋め込まれている。



第106図　第98号住居跡実測図

ピット　精査したが確認できなかった。

覆土　掘り込みが浅いため，確認することができなかった。

遺物出土状況　出土していない。

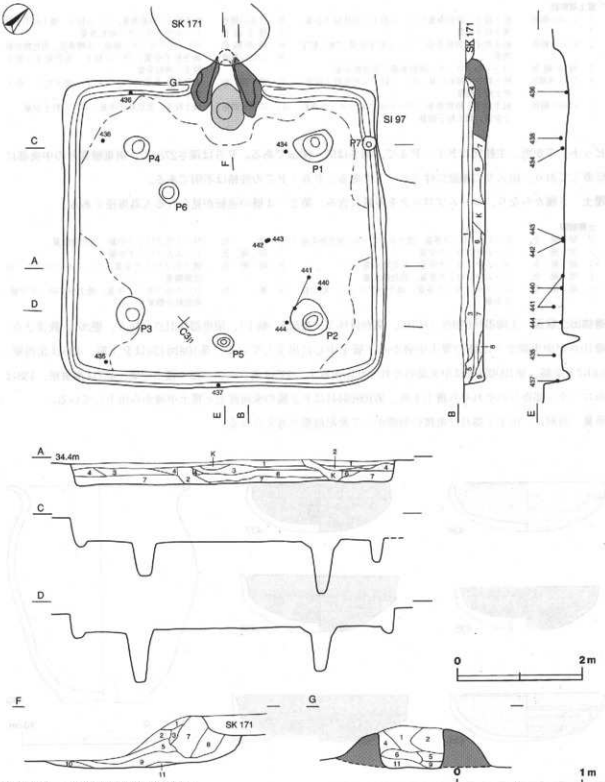
所見　竈の構築方法は疑灰岩を三方向に埋め込んで補強材として使用しており，古墳時代の第18号住居跡の構築方法と類似することから６世紀と推定される。

第103号住居跡（第107～109図）

位置　調査Ⅰ区中央部のＣ２ｉｏ区に位置し，舌状台地中央部の平坦地に立地している。

重複関係　竈煙道部を第171号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　平面形は長軸5.18m，短軸4.92mの方形で，主軸方向はＮ－47°－Ｗである。壁高は29～35cmで，各壁とも垂直に立ち上がる。



第107図　第103号住居跡実測図

床　平坦で，竈手前と各コーナー部付近を除いて踏み固められている。また，壁溝が全周している。

竈　北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが，天井部は崩落しており，第１・２・４～６層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで132㎝，袖部最大幅114㎝，壁外への掘り込みは48㎝である。火床部は６㎝ほど掘りくぼめられ，火熱を受けて赤変しているが硬化していない。また，煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1	にぶい褐色	粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量	6	にぶい褐色	粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子少量
2	にぶい褐色	粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量	7	暗赤褐色	ローム中ブロック・砂粒多量
3	暗赤褐色	ローム小ブロック・砂粒多量，炭化物少量	8	暗赤褐色	ローム小ブロック・砂粒・小礫多量，炭化物中量
4	にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量	9	にぶい褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
5	にぶい褐色	粘土粒子・砂粒多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量	10	黒褐色	炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
			11	にぶい褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量

ピット　７か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４で，深さは57～80㎝である。Ｐ５は深さ27㎝で，南東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。Ｐ６・Ｐ７の性格は不明である。

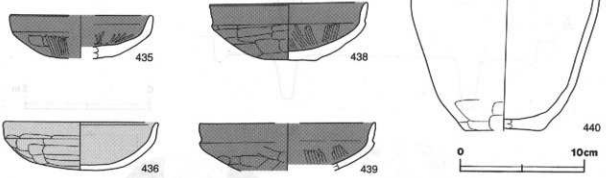
覆土　９層からなり，ロームブロックを多量に含み，第２～４層の逆転が見られる人為堆積である。

土層解説

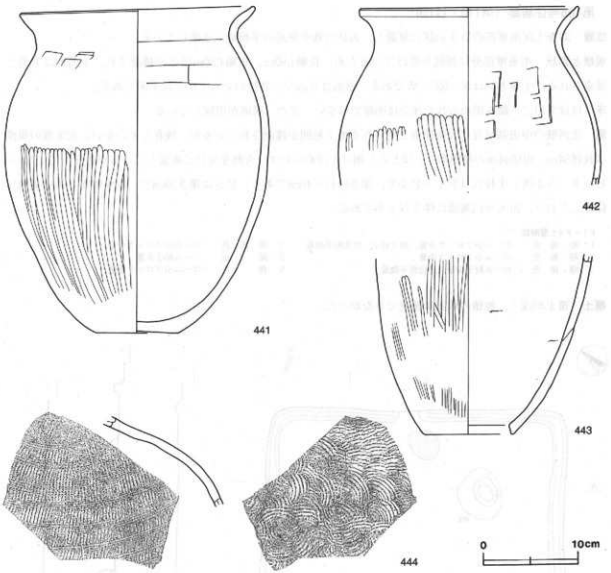
1	暗褐色	ローム小ブロック多量，焼土小ブロック・炭化物少量	6	褐色	ローム大ブロック中量，炭化物微量
2	黒褐色	ローム中ブロック中量	7	暗褐色	ローム大ブロック中量
3	暗褐色	ローム中ブロック多量，炭化物少量	8	暗褐色	焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・炭化物微量
4	黒褐色	ローム中ブロック多量，炭化物少量			
5	暗褐色	ローム中ブロック多量，焼土小ブロック・粘土粒子少量	9	褐色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片619点（坏100，高台付坏３，甕515，甑１），須恵器片31点（坏５，甕26），鉄滓２点，礫10点が中央部から北側の覆土中層から下層を中心に出土している。第108図434はＰ１脇，436は北西壁，440はＰ２脇，第109図442は中央部のそれぞれ床面直上，435は南コーナー部の覆土中層，437は南東壁，438は西コーナー部寄りのそれぞれ覆土下層，第109図441はＰ２脇の床面直上と覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から７世紀前葉と考えられる。



第108図　第103号住居跡出土遺物実測図（１）



第109図　第103号住居跡出土遺物実測図（2）

第103号住居跡出土遺物観察表（第108・109図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
434	土師器	坏	12.1	4.0	－	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	P1脇床面直上	95%　内面漆仕上げ　PL43
435	土師器	坏	[11.4]	(3.4)	－	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き	南コーナー覆土中層	95%　内・外面黒色処理
436	土師器	坏	12.3	3.9	－	雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	北西壁床面直上	90%　内・外面漆仕上げ　PL42
437	土師器	坏	11.2	4.0	－	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面暗文	南東壁覆土下層	65%　内・外面黒色処理
438	土師器	坏	12.6	4.8	4.1	石英・赤色皮子・白色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	西コーナー覆土下層	100%　内・外面黒色処理　PL42
439	土師器	坏	[14.0]	(4.8)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	竈袖部内	10%　内・外面黒色処理
440	土師器	甕	14.5	17.5	[6.2]	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り	P2脇床面直上	50%
441	土師器	甕	24.7	34.8	8.8	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面上位ナデ，下位ヘラ磨き，内面ナデ	P2脇床直・覆土中層	75%　PL44
442	土師器	甕	23.2	(18.1)	－	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	中央部床面直上	25%
443	土師器	甑	－	(19.2)	9.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き	中央部床面直上	60%　輪積み痕
444	須恵器	甕	－	(9.4)	－	長石・石英	灰白	普通	体部外面平行叩き，内面同心円状の当て具	P2脇床面直上	5%　内・外面灰白の自然釉

第105号住居跡（第110・111図）

位置　調査Ⅰ区南東部のＤ３ａ2区に位置し，舌状台地中央部の平坦地に立地している。

規模と形状　南東壁部分に撹乱を受けているため，長軸4.93m，短軸4.80mほどが確認され，平面形は方形と推定される。主軸方向はＮ－52°－Ｗである。壁高は５cmで，各壁の立ち上がりは不明である。

床　ほぼ平坦で，踏み固められた部分は明確ではない。また，盛溝が周回している。

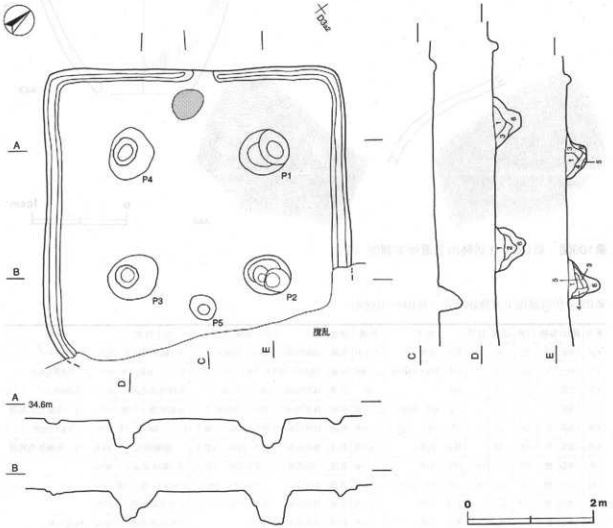
竈　北西壁の中央部付近に火床部痕と見られる焼土範囲が確認されているが，残存していない。火床部の規模は長径54cm，短径44cmの楕円形で，ほとんど掘りくぼめられず，火熱を受けて赤変しているが硬化していない。

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４で，深さは42～49cmである。Ｐ５は深さ39cmで，南東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。

Ｐ1～Ｐ4土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量		4	暗褐色	ローム小ブロック少量	
2	暗褐色	ローム小ブロック中量		5	褐色	ローム粒子中量	
3	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量		6	褐色	ローム小ブロック多量	

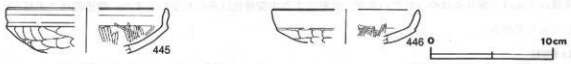
覆土　覆土が浅く，堆積の状況は確認できなかった。



第110図　第105号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片56点（坏10，甕46），須恵器片１点（坏），礫４点が出土している。第111図445はＰ４内，446はＰ1内からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から７世紀中葉と考えられる。



第111図　第105号住居跡出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表（第111図）

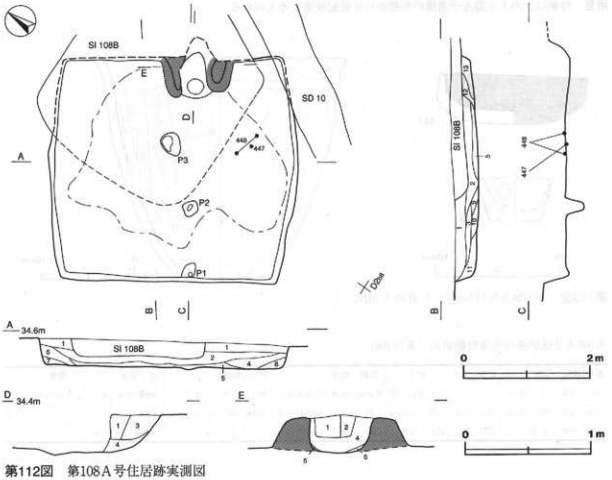
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
445	土師器	坏	[12.8]	(4.0)	－	雲母	灰黄褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	P4覆土	35%
446	土師器	坏	[11.8]	(3.0)	－	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	P1覆土	10%

第108A号住居跡（第112・113図）

位置　調査Ｉ区南東部のＤ２$_{a7}$区に位置し，舌状台地中央部の平坦地に立地している。

重複関係　中央部から北東壁にかけて第108Ｂ号住居跡，東コーナー部を第10号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　平面形は長軸3.80m，短軸3.60mの方形で，主軸方向はＮ－57°－Ｅである。壁高は22～25cmで，各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。



第112図　第108Ａ号住居跡実測図

床　ほぼ平坦で，中央部付近が踏み固められている。

竈　南東壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが，天井部は崩落しており，第1層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで98cm，袖部最大幅108cm，壁外への掘り込みは26cmである。火床部は7cmほど掘りくぼめられているが，火熱による赤変硬化はみられない。また，煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	にぶい褐色	粘土粒子・砂粒多量
2	暗赤褐色	砂粒多量
3	褐　　色	ローム粒子多量
4	にぶい褐色	ローム中ブロック・砂粒少量
5	暗赤褐色	砂粒少量

ピット　3か所。P1～P3の性格は不明である。

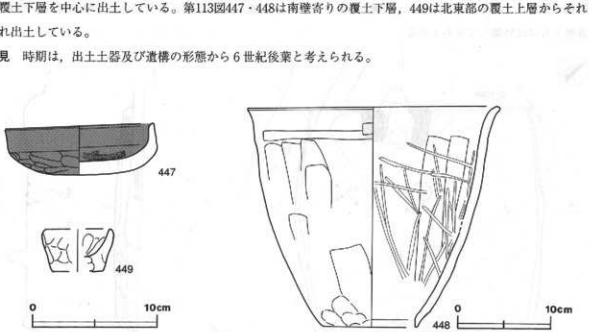
覆土　13層からなり，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	褐　　色	ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
2	褐　　色	ローム小ブロック少量
3	褐　　色	ローム粒子中量
4	褐　　色	ローム中ブロック少量
5	暗褐色	ローム小ブロック少量
6	暗褐色	ローム中ブロック中量
7	暗褐色	ローム小ブロック少量，砂粒微量
8	暗褐色	ローム粒子少量
9	暗褐色	ローム小ブロック・砂粒少量
10	暗褐色	ローム大ブロック少量
11	褐　　色	ローム小ブロック中量
12	褐　　色	ローム中ブロック多量
13	にぶい赤褐色	ローム中ブロック・焼土大ブロック・炭化物中量

遺物出土状況　土師器片351点（坏136，甕209，甑4，手捏土器2），土製品1点（支脚），礫5点が南壁寄りの覆土下層を中心に出土している。第113図447・448は南壁寄りの覆土下層，449は北東部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から6世紀後葉と考えられる。



第113図　第108A号住居跡出土遺物実測図

第108A号住居跡出土遺物観察表（第113図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
447	土師器	坏	11.8	4.2	－	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南壁覆土下層	80%　内・外面黒色処理　PL42
448	土師器	甑	26.8	23.8	9.4	石英・白色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り・指圧痕，内面ヘラ削り後ヘラ磨き	南壁覆土下層	95%　PL45
449	土師器	手捏土器	[5.3]	3.5	[4.2]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ナデ，内面ナデ	北東部覆土上層	25%

(2) 土坑

検出した土坑は4基で，調査Ⅰ区の北西部から中央部にかけて3基，Ⅱ区中央部に1基が確認されている。時期は古墳時代後期に属している。

以下，遺構と主な出土遺物について記述する。

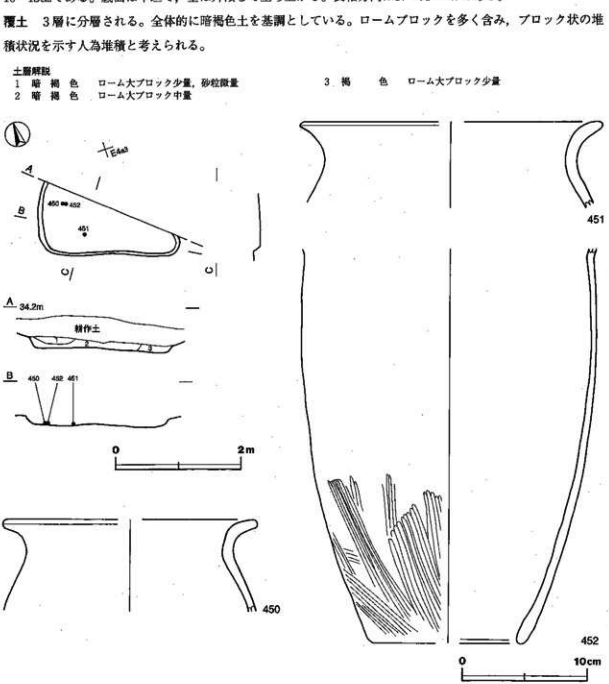
第36号土坑（第114図）

位置　調査Ⅱ区中央部のＥ４ａ2区に位置し，舌状台地の縁辺部の緩やかな斜面に立地している。

規模と形状　北東部が調査区域外であり，平面形は長軸2.25m，短軸1.10mほどの長方形と推定され，深さは10～13cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。長軸方向はＮ－78°－Ｗである。

覆土　3層に分層される。全体的に暗褐色土を基調としている。ロームブロックを多く含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム大ブロック少量，砂粒微量
2　暗　褐　色　ローム大ブロック中量
3　褐　　色　ローム大ブロック少量



第114図　第36号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片78点（坏6，甕72）が出土している。450・452は西壁寄り，451は南壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は出土遺物から7世紀前葉と考えられる。

第36号土坑出土遺物観察表（第114図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
450	土師器	甕	[20.2]	(7.4)	—	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面剥離	西壁寄り覆土下層	5%
451	土師器	甕	[24.0]	(7.0)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	南壁寄り覆土下層	5%
452	土師器	甑	—	[31.8]	[12.8]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き	西壁寄り覆土下層	20%

第82号土坑（第115図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ１ａ0区に位置し，舌状台地の平坦部に立地している。

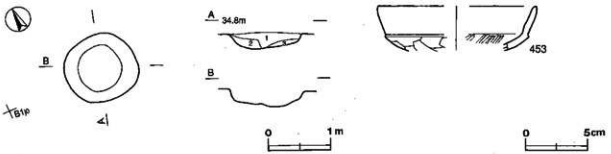
規模と形状　平面形は径1.18mの円形で，深さ22～28cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　3層に分層される。全体的に暗褐色土を基調としている。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片35点（坏6，甕29）が出土している。453は覆土中から出土している。

所見　時期は出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第115図　第82号土坑・出土遺物実測図

第82号土坑出土遺物観察表（第115図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
453	土師器	坏	[12.6]	(3.7)	—	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	覆土	5%

第129号土坑（第116図）

位置　調査Ⅰ区中央部のＣ２ａ5区に位置し，舌状台地の平坦部に立地している。

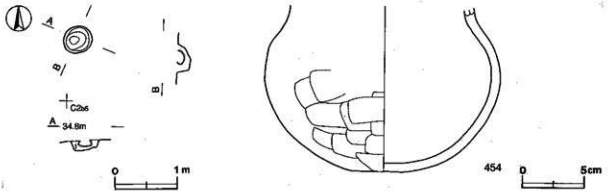
規模と形状　平面形は径0.45mの円形で，深さ20cmである。底面は凹凸が見られ，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　単一層で，土師器甕が埋設されている。

土層解説
1　褐　　色　ローム小ブロック少量

遺物出土状況　土師器片6点（甕）が出土している。454は覆土中層に埋設されている。

所見　出土した土師器甕は上部が欠落し，内部からは何も検出されなかったが，出土状況から埋設されたものである。時期は出土遺物から５世紀後葉と考えられる。



第116図　第129号土坑・出土遺物実測図

第129号土坑出土遺物観察表（第116図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
454	土師器	甕	－	(13.4)	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面・底部外面ヘラ削り	覆土中層	70%

第133号土坑（第117図）

位置　調査Ⅰ区中央部のＣ２ｆ7区に位置し，舌状台地の平坦部に立地している。

重複関係　上面を第84号住居跡に掘り込まれている。

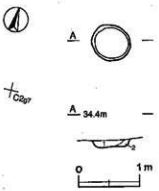
規模と形状　平面形は長径0.64ｍ，短径0.54ｍの楕円形で，深さ10cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。長径方向はＮ－52°－Ｗである。

覆土　２層に分層される。炭化物を含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，炭化物微量

遺物出土状況　土師器片７点（坏１，甕６）が出土している。

所見　時期は，遺構の重複関係と出土遺物から７世紀代と考えられる。



第117図　第133号土坑実測図

(3) 不明遺構

第１号不明遺構（第118図）

位置　調査Ⅱ区中央部のＥ４ａ1区に位置し，舌状台地東部の緩やかな傾斜地に立地している。

重複関係　東部を第11号住居跡，南コーナー部を第38号土坑にそれぞれ掘り込まれている。また，南東部は攪乱を受けている。

規模と形状　長軸4.49ｍ，短軸3.24ｍほどの隅丸長方形と推定され，主軸方向はＮ－39°－Ｗである。壁高は２～４cmで，各壁とも緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦で，踏み固められた部分は明確ではない。南コーナー付近に焼土塊が確認されており，赤変硬化していることから，炉として機能していた可能性がある。壁溝が北西壁から南西壁にかけて断続的に周回する。

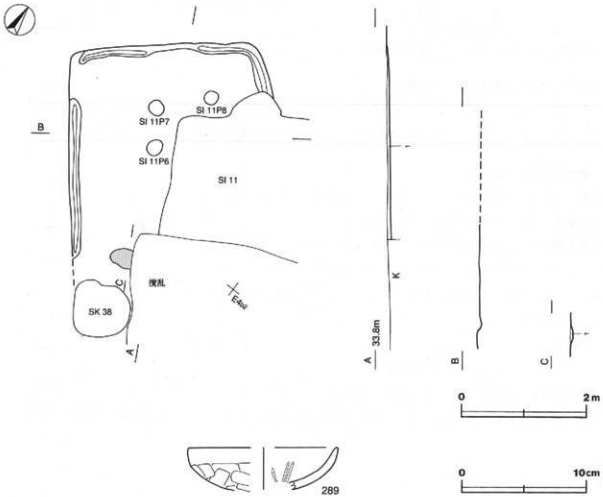
焼土土層解説
1　赤　褐　色　　焼土大ブロック多量，ローム粒子・砂粒少量，硬く締まっている

覆土　単一層であるため，堆積状況は不明である。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片25点（坏5，甕20）が出土している。第118図289は中央部の覆土中から出土している。

所見　住居跡と同じ程度の規模で壁溝を伴っているが，竈と柱穴，硬化面は検出されておらず，住居として判断するには不明な点が多い。焼土が確認されていることから，工房的な役割を持った遺構の可能性がある。時期は出土土器から6世紀後葉と考えられる。



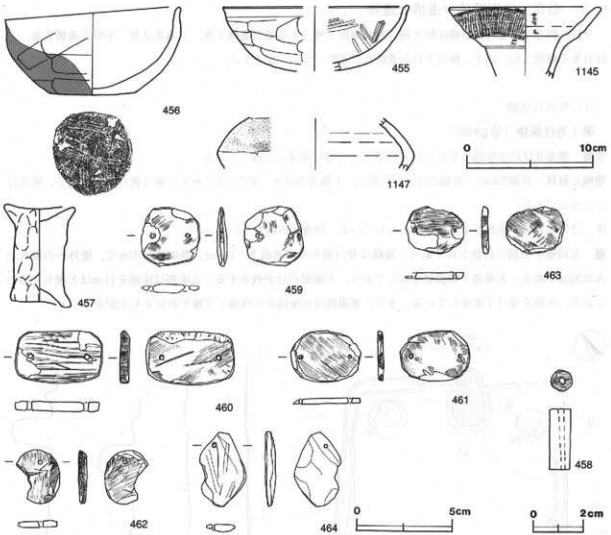
第118図　第1号不明遺構・出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表（第118図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
289	土師器	坏	[12.0]	(3.3)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	中央部覆土	15%

(4) 遺構外出土遺物

ここでは，全調査区から出土した遺構に伴わない遺物の中から，主な出土遺物（第119図）を記載する。



第119図　遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第119図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
455	土師器	坏	[14.8]	(5.1)	—	長石・雲母	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	SI 31覆土	40%
456	土師器	坏	14.0	7.0	6.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部外面ヘラ削り	調査1区表採	100%　黒斑
1145	須恵器	甕	22.0	(5.5)	—	長石	にぶい橙	普通	ロクロナデ	SI 92覆土	20%　煤付着　PL42
1147	須恵器	長頸瓶	—	(4.0)	—	長石	褐灰	良好	ロクロナデ	SI 55覆土	5%　外面自然釉　猿投窯産（若宮17号）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
457	臼形土製品	5.30	3.60	3.2	55.5	土製	ナデ，指頭痕	SI 1覆土	
459	双孔円板	3.10	3.10	0.51	7.70	滑石	孔径0.20　周縁部面取り，磨き	SI 62覆土中層	PL66
460	双孔円板	2.75	4.57	0.50	(13.6)	滑石	孔径0.25　周縁部面取り，磨き	SI 74覆土	一部剥離　PL66
461	双孔円板	2.64	3.63	0.27	5.55	滑石	孔径0.20　周縁部面取り，磨き	SI 84覆土	PL66
462	勾玉未成品	2.85	2.30	0.40	3.76	滑石	孔径0.20　周縁部面取り，磨き	SI 87覆土	PL66
463	双孔円板	2.48	3.03	0.30	(4.36)	滑石	孔径0.20　周縁部面取り，磨き	SI 84覆土中層	一部剥離　PL66
464	勾玉未成品	4.00	2.40	0.55	(6.95)	滑石	孔径0.24　周縁部面取り，磨き	SI 86覆土	一部剥離　PL66

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
458	管玉	2.45	0.85	0.85	3.42	滑石	孔径0.25　磨き	SI 8覆土	PL66

3　奈良・平安時代の遺構と遺物

今回の踏査で，竪穴住居跡60軒と掘立柱建物跡７棟，土器焼成遺構２基，土壙墓２基，小竪穴遺構６基，土坑31基を確認した。以下，検出された遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

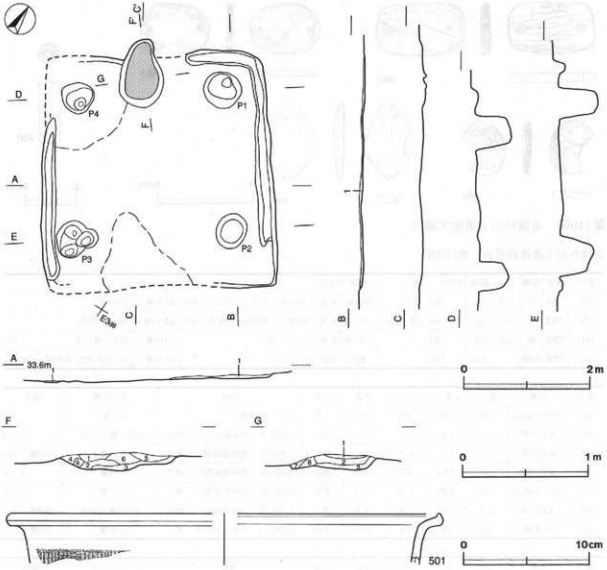
第１号住居跡（第120図）

位置　調査Ⅱ区の中央部のＥ３ｃ7区に位置し，台地の東部に立地している。

規模と形状　長軸3.83m，短軸3.71mの方形で，主軸方向はＮ－33°－Ｗである。壁は掘り込みが浅く，壁高は２～８cmである。

床　ほぼ平坦で中央部がよく踏み固められている。壁溝が周回している。

竈　北西壁中央部に付設されており，規模は焚口部から煙道部まで110cm，燃焼部幅70cmで，壁外への掘り込みは32cmである。天井部・袖部は欠失しており，火床部だけが残存する。火床部は床面を11cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。また，煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。



第120図　第１号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説

1 暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2 暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3 極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
4 暗赤褐色　粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック微量
5 暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
6 暗赤褐色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
7 暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
8 暗赤褐色　ローム粒子少量
9 明　褐　色　ロームブロック多量

ピット　4か所。主柱穴はP1～P4で，深さは50～63cmである。

覆土　単一層であるため，堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片116点（坏8，甕108），須恵器片19点（坏13，甕3，蓋2，甑1）が出土しているが，すべて細片である。

所見　本跡の時期は，出土土器及び遺構の形態から8世紀代と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表（第120図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
501	須恵器	甑	[34.2]	(4.0)	－	雲母・長石・石英	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き，内面ナデ	覆土	5%

第3号住居跡（第121図）

位置　調査Ⅱ区中央部のE3 ds区に位置し，台地の東部に立地している。

重複関係　東側部分が第4号住居跡の西側を掘り込み，南西壁から南コーナー部は調査区域外にのびる。

規模と形状　長軸4.15m，短軸4.13mの方形で，主軸方向はN－31°－Wである。壁高は10～25cmで，各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，踏み固められた部分は明確ではない。

竈　北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが，天井部は崩落しており，第3・12層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで78cm，袖部最大幅108cmで，壁外への掘り込みは12cmであり，袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部はほとんど掘りくぼめておらず，火熱による赤変がみられない。また，煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

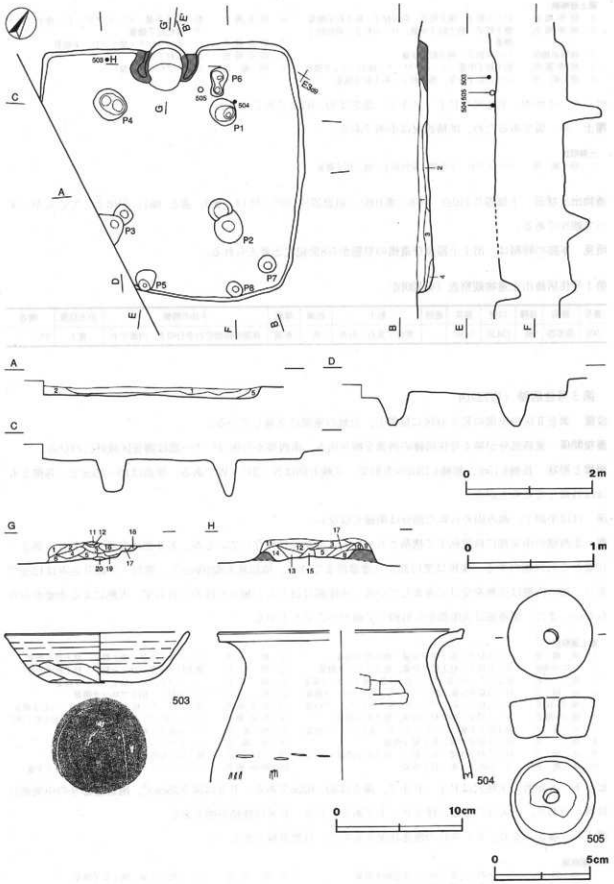
1 灰　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
2 にぶい赤褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
3 褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量
4 灰　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
5 暗赤褐色　ローム粒子・粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
6 暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子微量
7 暗　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
8 褐　色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
9 灰　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
10 灰　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量
11 褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
12 褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量
13 褐　色　ロームブロック・粘土ブロック微量
14 褐　色　ローム粒子・粘土ブロック微量
15 暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子微量
16 暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，粘土粒子微量
17 暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量
18 暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量
19 にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
20 暗赤褐色　ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量

ピット　8か所。主柱穴はP1～P4で，深さは40～62cmである。P5は深さ35cmで，南東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。P6～P8は性格不明である。

覆土　5層からなり，レンズ状の堆積状況を示した，自然堆積である。

土層解説

1 暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3 暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
5 褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量



第121図　第3号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片437点（坏57，甕380），須恵器片15点（坏13，甕２），土製品１点（紡錘車）が出土しており，これらの遺物は中央部の覆土下層から床面を中心に出土している。第121図503は竈西側の覆土上層から出土し，また504はＰ１付近の床面直上から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器及び遺構の形態から8世紀前葉と考えられる。

第３号住居跡出土遺物観察表（第121図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
503	須恵器	坏	14.6	4.0	7.7	雲母・石英・赤色粒子	灰黄	普通	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	70% ＰＬ45
504	土師器	甕	[19.6]	(11.9)	－	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ナデ，中位からヘラ磨き，内面ナデ	床直	10%

番号	器種	上面径	下面径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
505	紡錘車	4.5	3.8	2.2	0.8	55.8	土製	ナデ	床面	ＰＬ67

第７号住居跡（第122図）

位置　調査Ⅱ区中央部のＥ４42区に位置し，台地の東部に立地している。

重複関係　第６号住居跡東部，第８号住居跡の南コーナー部を掘り込んでいる。また，南東壁の中央部が根による撹乱を受けている。

規模と形状　長軸3.78m，短軸3.75mの方形で，主軸方向はＮ－41°－Ｗである。壁高は10cm程で，各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で中央部から南東壁にかけて踏み固められている。壁溝が周回している。

竈　北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。天井部は崩落しており，左袖部が欠失している。規模は焚口部から煙道部まで76cm，袖部最大幅114cmほどで，壁外への掘り込みは16cmである。火床部は，床面を8cm掘りくぼめており，火熱を受けてわずかに赤変している。また，煙道部は火床部からほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説

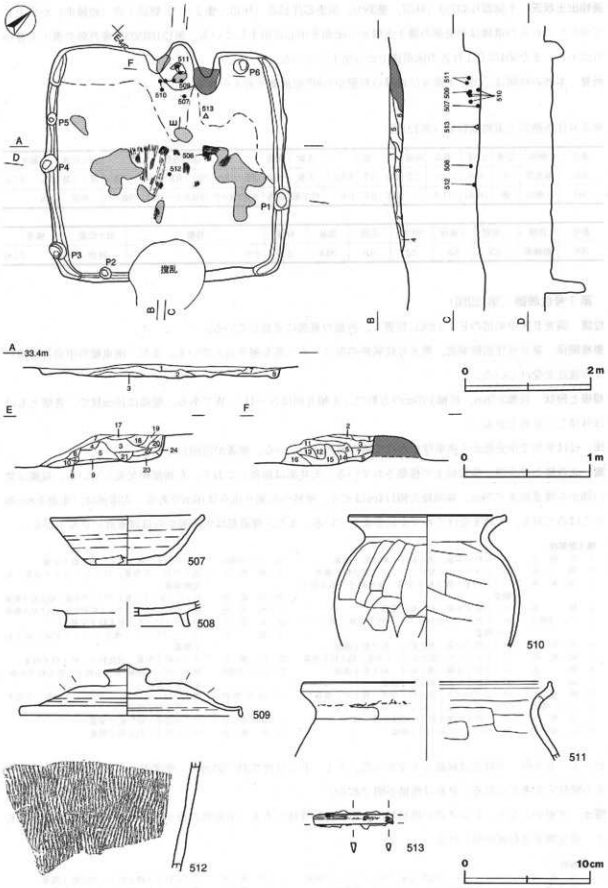
1　灰　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
2　褐　　色　ローム ブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
3　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
5　にぶい赤褐色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
7　暗　褐　色　ローム ブロック・焼土ブロック少量，粘土粒子微量
8　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
10　暗　褐　色　ローム ブロック・粘土粒子少量・焼土粒子微量
11　にぶい褐色　ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子少量
12　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
13　灰　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子微量
14　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
15　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ローム ブロック少量，炭化物微量
16　灰　褐　色　ローム ブロック・焼土ブロック少量，粘土粒子微量
17　灰　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，粘土粒子微量
18　赤　褐　色　ローム ブロック・粘土粒子少量
19　褐　　色　ローム ブロック・焼土ブロック少量，粘土粒子微量
20　灰　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
21　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
22　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
23　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量
24　灰　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量

ピット　６か所。主柱穴は確認できなかった。Ｐ１～Ｐ５は深さ33～60cmで，壁溝内から検出されていることから壁柱穴と考えられる。Ｐ６は性格不明である。

覆土　８層からなり，レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。中央部の覆土上層から下層にかけて焼土粒子・炭化物を含む層が見られる。

土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量，ローム ブロック微量
2　暗 赤 褐 色　ローム粒子中量，ローム ブロック・炭化物少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　粘土粒子少量，ローム ブロック微量
7　暗　褐　色　ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量



第122図　第７号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片263点（坏41，甕222），須恵器片47点（坏21，鉢１，甕20，壷5），鉄製品1点（刀子）が出土している。第122図507は竈の焚口部前方の床面から正位の状態で出土している。また，509・511は竈内から出土しており，509は正位の状態で出土している。

所見　本跡は，覆土上層から下層にかけて焼土粒子・炭化物を含む層が見られることや床面に焼土塊・炭化材などが検出されたことなどから住居廃絶後に焼失したものと思われる。時期は，出土土器及び遺構の形態から９世紀中葉と考えられる。

第７号住居跡出土遺物観察表（第122図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
507	須恵器	坏	12.2	4.0	6.0	長石・石英・礫・黒色粒子	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後不定方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	床直	70%　P L45
508	須恵器	高台付坏	－	(2.0)	[10.0]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土上層	10% 内面に重ね焼き痕
509	須恵器	壷	17.5	4.1	－	雲母・長石・石英赤色粒子	黄橙	普通	天井部回転ヘラ削り	竈内	80%　P L60
510	土師器	甕	12.4	(10.1)	－	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	覆土上層～下層	45% 二次焼成
511	土師器	甕	[19.8]	(6.3)	－	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	頸部ヘラナデ，輪積み痕，体部外面ナデ，内面ヘラナデ	竈内	10% 二次焼成
512	須恵器	鉢	－	(8.7)	－	雲母・長石・石英	黄灰	普通	体部外面段状の平行叩き，内面ヘラナデ	床直	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
513	刀子	(6.4)	0.8	0.4	(5.4)	鉄	刃部，木質部残存	覆土下層	

第８号住居跡（第123～125図）

位置　調査Ⅱ区中央部のＥ４ｃ2区に位置し，台地の東部に立地している。

重複関係　第７号住居跡に南コーナー部分，第40号土坑に西側部分を掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.53m，短軸4.18mの方形で，主軸方向はＮ－47°－Ｗである。壁高は38cm程で，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，竈前方から南東壁にかけて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈　北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。天井部は崩落しているが，両袖部は残存している。規模は焚口部から煙道部まで145cm，袖部最大幅約145cmで，壁外への掘り込みは45cmである。火床部は床面を8cm掘りくぼめており，火熱を受けてわずかに赤変している。また，その中央部に土製支脚が直立して据えられている。煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

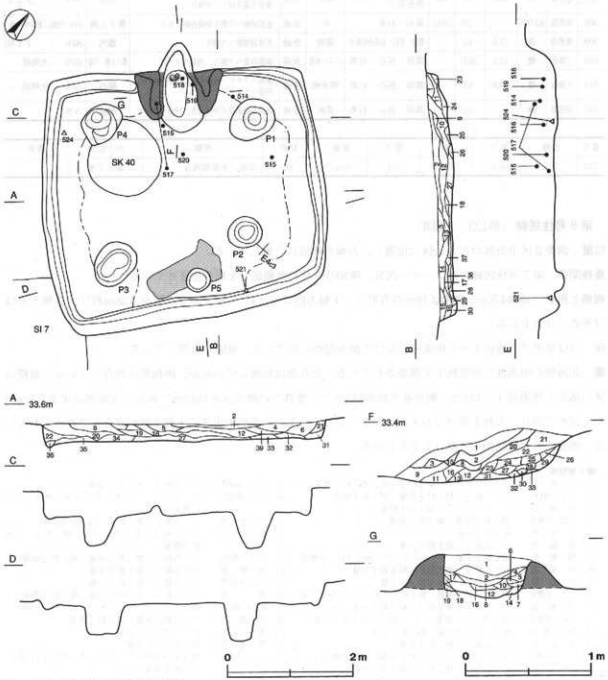
1	灰　褐　色	ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量	19	にぶい黄褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
2	にぶい褐色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量	20	にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
3	灰　褐　色	ロームブロック・粘土粒子微量	21	灰　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
4	にぶい黄褐色	粘土粒子中量，焼土粒子微量	22	灰　褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	灰　褐　色	粘土粒子中量	23	にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子微量
6	灰　褐　色	ローム粒子・焼土粒子少量	24	灰　褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量
7	黒　褐　色	粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量	25	にぶい褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
8	灰　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	26	褐　　色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
9	暗　褐　色	ローム粒子・焼土ブロック少量	27	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
10	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，粘土粒子中量，ローム粒子少量	28	黒　褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
11	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	29	褐　　色	ロームブロック少量
12	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，ローム粒子・粘土粒子少量	30	黄　褐　色	粘土ブロック少量
13	暗赤褐色	焼土ブロック中量，粘土粒子少量	31	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
14	褐　　色	ローム粒子・粘土粒子少量	32	褐　　色	ローム粒子・粘土粒子少量
15	にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量	33	褐　　色	ローム粒子少量，粘土粒子微量
16	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量			
17	にぶい黄褐色	粘土粒子中量，ローム粒子少量			
18	灰　褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量			

ピット　5か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４で，深さは49～62cmである。Ｐ５は深さ17cmで，南東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。

覆土　39層からなり，上層から下層にかけてロームブロックや焼土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1	灰黄褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量	
2	暗褐色	炭化物微量	
3	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量	
4	褐色	焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量	
5	褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量	
6	暗褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量	
7	暗褐色	ロームブロック中量，粘土粒子少量	
8	褐色	ロームブロック・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	
9	暗褐色	ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量	
10	褐色	ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量	
11	暗褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量	
12	暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量，粘土粒子微量	
13	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化物微量	
14	灰褐色	ロームブロック中量，粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	

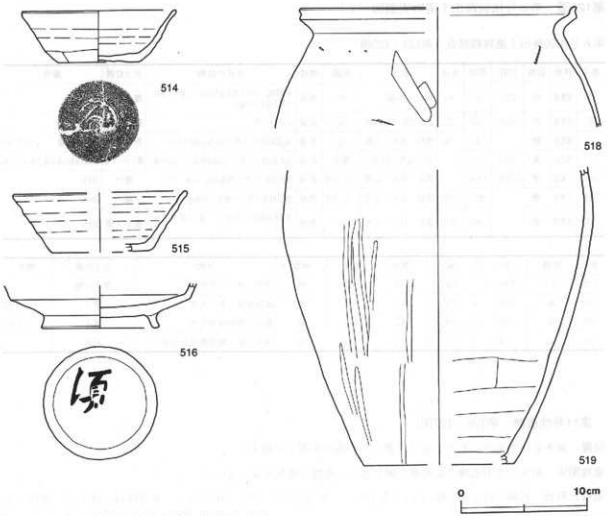


第123図　第８号住居跡実測図

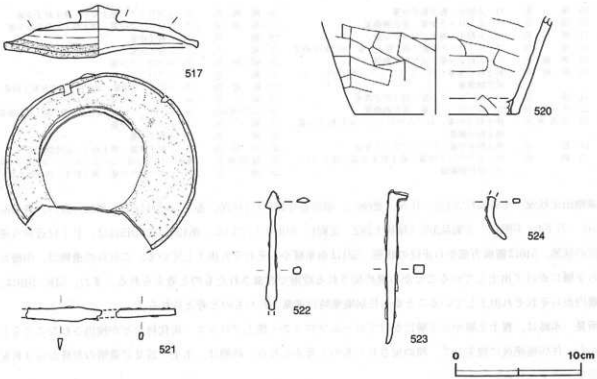
15	褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量	
16	褐　色	ロームブロック少量，炭化物微量	
17	褐　色	ローム粒子・焼土ブロック少量	
18	褐　色	ロームブロック中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量	
19	黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	
20	暗褐色	粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	
21	褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	
22	灰褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	
23	灰黄褐色	粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量	
24	褐　色	粘土粒子中量，ロームブロック少量	
25	褐　色	ロームブロック中量，粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量	
26	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子・焼土粒子少量	
27	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物少量	
28	褐　色	ローム粒子中量	
29	褐　色	ローム粒子少量	
30	暗褐色	ロームブロック少量	
31	褐　色	ロームブロック少量	
32	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	
33	褐　色	ロームブロック中量，粘土粒子少量	
34	にぶい黄褐色	ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量	
35	褐　色	ロームブロック中量	
36	褐　色	ローム粒子中量	
37	暗褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化物少量	
38	暗赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量	
39	褐　色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物少量	

遺物出土状況　土師器片761点（坏76，甕685），須恵器片135点（坏76，蓋7，高台付坏1，甕50，甑1），鉄製品5点（刀子4・不明1），土製品3点（球状土錘2，支脚1）が出土している。第124・125図514は，P 1付近から逆位の状態，516は竈前方部から正位の状態，521は南東壁からそれぞれ出土している。これらの遺物は，中層から下層にかけて出土していることから埋め戻される段階で投棄されたものと考えられる。また，518・519は，竈内からそれぞれ出土していることから住居廃棄時に遺棄されたものと考えられる。

所見　本跡は，覆土上層から下層にかけてロームブロック・焼土ブロック・炭化材などが検出されたことなどから，住居廃絶後に焼失して，埋め戻されたものと考えられる。時期は，出土土器及び遺構の形態から9世紀前葉と考えられる。



第124図　第8号住居跡出土遺物実測図（1）



第125図　第８号住居跡出土遺物実測図（２）

第８号住居跡出土遺物観察表（第124・125図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
514	須恵器	坏	12.2	4.1	6.4	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後不定方向のヘラ削り，体部下端手持ヘラ削り	覆土中層	80%
515	須恵器	坏	[13.8]	4.8	[7.6]	炭石・石英・白色砂粒	灰	普通	ロクロナデ	覆土上層	20%
516	須恵器	蓋	—	(3.5)	9.0	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り，口縁部外面・内面自然釉	覆土中層	60% 墨書　PL59
517	須恵器	壺	15.4	3.5	—	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り，口縁部外面・内面自然釉	覆土中・下層	90% 内面に重ね焼き痕　PL60
518	土師器	甕	[22.0]	(9.6)	—	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラナデ，輪積み痕，内面ヘラナデ	竈内	20%
519	土師器	甕	—	(23.7)	[12.0]	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面下位ヘラ磨き，内面ヘラナデ	竈内	20%
520	須恵器	瓶	—	(8.0)	[13.0]	雲母・長石・石英	灰	普通	体部外面縦位の平行押き，下端ヘラ削り，内面ヘラナデ	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
521	刀子	[12.0]	1.0	0.3	(9.3)	鉄	切先，茎の一部欠損	覆土下層	
522	鏃	(9.7)	1.3	0.4	12.2	鉄	鏃身頸部三角，有茎	覆土	PL69
523	釘	12.4	0.8	0.7	40.7	鉄	頭部・脚部断面方形	覆土	PL69
524	釘	(3.5)	0.5	0.3	(3.7)	鉄	頭部欠損，脚部断面長方形	床直	

第11号住居跡（第126・127図）

位置　調査Ⅱ区中央部のＥ４ａ1区に位置し，台地の東部に立地する。

重複関係　第１号不明遺構の北東壁を掘り込み，南側は撹乱を受けている。

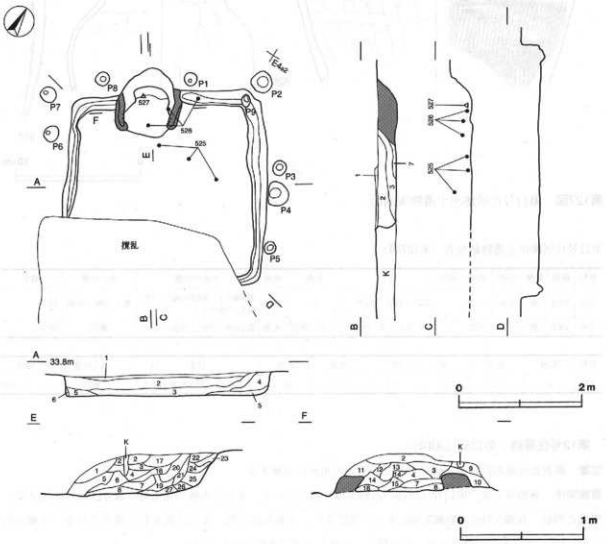
規模と形状　長軸3.30m，短軸3.20mの方形で，主軸方向はＮ－34°－Ｗである。壁高は34cmほどで，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，硬化面はみられない。壁溝が周回している。

竈　北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。天井部は崩落しており，第13層がこれに相当し，両袖部は残存している。規模は焚口部から煙道部まで113cm，袖部最大幅107cmで，壁外への掘り込みは41cmである。袖部内壁は火熱を受け赤変している。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており，火熱による赤変はみられない。煙道部は火床部からほぼ外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	
2	灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	
3	暗褐色	ローム粒子少量，粘土粒子微量	
4	暗褐色	粘土粒子・焼土粒子少量	
5	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	
6	灰褐色	ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	
7	暗褐色	ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子微量	
8	黒褐色	粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量	
9	灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
10	灰褐色	粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
11	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量	
12	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	
13	にぶい黄褐色	粘土ブロック中量	
14	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	
15	灰褐色	粘土ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量	
16	灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	
17	にぶい褐色	粘土ブロック中量，ローム粒子少量	
18	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子微量	
19	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子少量，粘土粒子微量	
20	灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量	
21	暗褐色	焼土粒子中量，ロームブロック少量，粘土粒子微量	
22	灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	
23	灰褐色	ローム粒子少量	
24	暗褐色	粘土粒子少量，ローム粒子微量	
25	暗褐色	ロームブロック少量，粘土粒子微量	
26	褐色	ロームブロック・粘土粒子微量	
27	明赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子・粘土粒子少量	



第126図　第11号住居跡実測図

ピット　9か所。P１～P８は壁外に並ぶことから壁外柱穴とも考えられるが明確ではない。これらの深さは８～46cmである。P９は北東コーナー部の壁溝内から確認されたが，他にピットが確認できないことから性格は不明である。

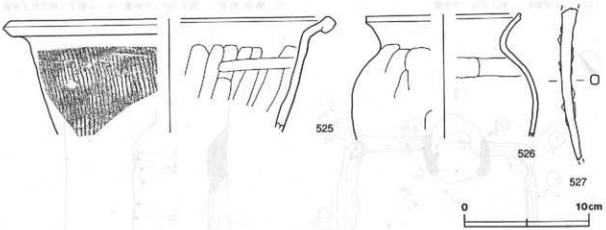
覆土　7層からなり，レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	7	にぶい黄褐色	粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量，炭化物微量			

遺物出土状況　土師器片373点（坏52，甕321），須恵器片31点（坏15，甕12，蓋２，甑１，鉢１），鉄製品２点（刀子，釘），土製品1点（球状土錘）が出土している。第127図525は中央部北側の上層から床面にかけて出土した土器片が接合したものである。また，竈内から526・527が出土し，526は竈東側の壁際から出土した土器片と接合している。

所見　本跡の時期は，出土土器及び遺構の形態から８世紀前葉と考えられる。



第127図　第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
525	須恵器	鉢	[25.4]	(7.2)	－	雲母・長石・石英	灰	普通	頸部横ナデ，体部外面稜位の平行叩き，内面ナデ	覆土上層～床面	10%
526	土師器	甕	[12.4]	(10.0)	－	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	竈内	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
527	釘	(12.2)	0.5	0.7	(27.1)	鉄	頭部欠損，脚部断面長方形	竈内	PL69

第12号住居跡（第128～130図）

位置　調査Ⅱ区東部のE４a3区に位置し，台地の東部に立地する。

重複関係　第39号土坑，第13号住居跡の西側を掘り込んでいる。また，本跡の北東側は調査区域外に延びる。

規模と形状　長軸5.34m，短軸3.30mほどが確認され，平面形は方形，または長方形と推定される。主軸方向はN－46°－Wである。壁高は24～35cm程で，各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められ，壁溝が周回している。

竈　調査区域内では確認できなかった。

ピット　3か所。主柱穴はＰ１～Ｐ２で，深さは43～75cmである。Ｐ３は深さ22cmで，南東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。また，小ピット８か所が壁溝内から検出されているが性格は不明である。

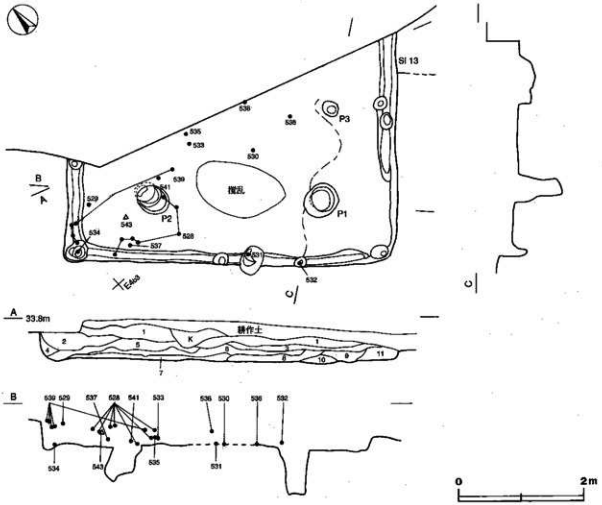
覆土　11層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説

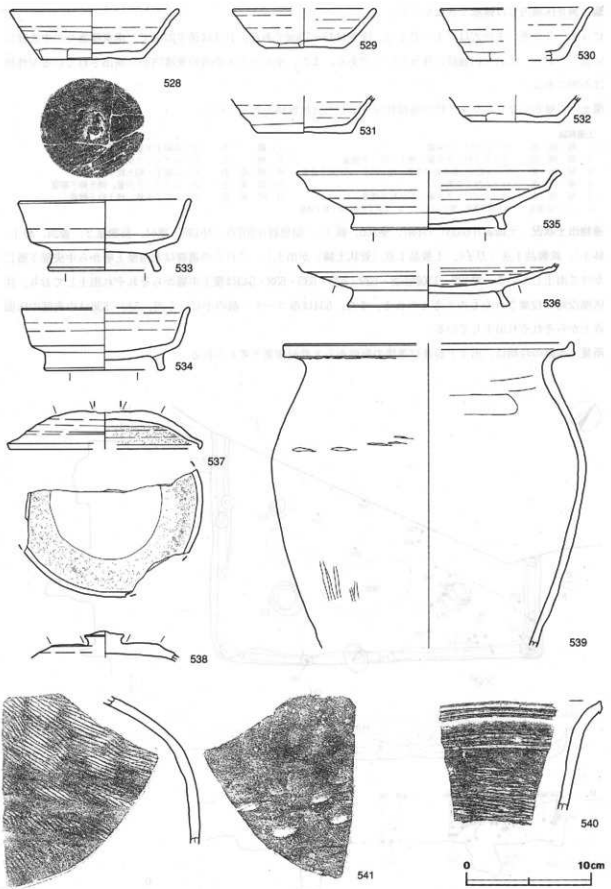
1	暗　褐　色	ロームブロック少量	7	褐　色	ローム粒子中量
2	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量	8	褐　色	ロームブロック少量
3	暗　褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗　褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量
4	暗　褐　色	ローム粒子少量	10	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
5	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	11	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
6	にぶい赤褐色	炭化粒子多量，焼土ブロック・ローム粒子中量，粘土粒子微量			

遺物出土状況　土師器片603点（坏97，甕505，甑１），須恵器片207点（坏135，甕44，長頸瓶２，蓋24，盤１，鉢１），鉄製品１点（刀子），土製品１点（管状土錘）が出土し，これらの遺物は北西壁上層から中央部下層にかけて出土している。第129・130図528・529・533・535・538・543は覆土中層からそれぞれ出土しており，住居埋没時に投棄されたものと考えられる。また，534は西コーナー部の小ピット内，530・536は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。

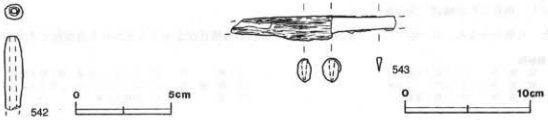
所見　本跡の時期は，出土土器及び遺構の形態から８世紀後葉と考えられる。



第128図　第12号住居跡実測図



第129図　第12号住居跡出土遺物実測図（1）



第130図　第12号住居跡出土遺物実測図（2）

第12号住居跡出土遺物観察表（第129・130図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
528	須恵器	坏	13.4	4.0	8.1	雲母・長石・石英・白色針状物	灰	普通	底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	70%	
529	須恵器	坏	[11.3]	3.2	6.3	雲母・長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	40%	
530	須恵器	坏	[12.0]	4.3	[7.1]	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	床直	20%	
531	須恵器	坏	－	(3.0)	7.6	雲母・長石・石英・黒色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	小ピット内	60%	
532	須恵器	坏	－	(2.2)	7.1	雲母・長石・石英・黒色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	小ピット内	40%	
533	須恵器	高台付坏	13.6	5.8	8.8	3～4ミリの長石・石英・黒色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中層	85% 胎土粗い	P L.59
534	須恵器	高台付坏	[13.4]	5.0	9.3	3～5ミリの長石・石英・黒色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	壁溝内	50% 胎土粗い	
535	須恵器	盤	[21.0]	4.7	12.3	長石・石英・白色針状物	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中層	60%	
536	須恵器	盤	－	(3.4)	12.8	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	床直	60% 内面に重ね焼き痕	
537	須恵器	壷	[15.3]	(3.1)	－	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り，口縁端外面・内面自然釉	覆土中層	30% 内面に重ね焼き痕	
538	須恵器	壷	－	(2.4)	－	雲母・長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	50%	
539	土師器	甕	[21.2]	(24.5)	－	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面ナデ，下位ヘラ磨き，内部にヘラあて痕，内面ヘラナデ，口縁部輪積み痕	覆土上層～中層	20%	
540	須恵器	鉢	－	(8.8)	－	雲母・長石・石英	灰黄	普通	体部外面横位の平行叩き，内面ヘラナデ	覆土	5%	P L.65
541	須恵器	甕	－	(12.0)	－	雲母・長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	体部外面斜位の平行叩き，横位の掛ナデ，内面掛ナデ，指頭痕	覆土下層	5%	

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
542	管状土錘	(4.0)	0.9	0.3	(2.8)	土製	ナデ	覆土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
543	刀子	(13.0)	[1.7]	[0.4]	(21.0)	鉄	切先，茎の一部欠損，鞘部木質付着	覆土中層	P L.69

第13号住居跡（第131図）

位置　調査Ⅱ区東部のＥ４ｂｄ区に位置し，台地の東部に立地する。

重複関係　第12号住居跡に西側を掘り込まれ，北側は調査区域外である。また，南西壁の一部は撹乱を受けている。

規模と形状　本跡の大部分が北側の調査区域外に延び，長軸2.80m，短軸1.70mほどが確認され，平面形は方形または長方形と推定される。壁高は15cmほどで，各壁とも外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，北西から南東壁にかけて踏み固められている。

竈　調査区域内では確認できなかった。

ピット　精査したが確認できなかった。

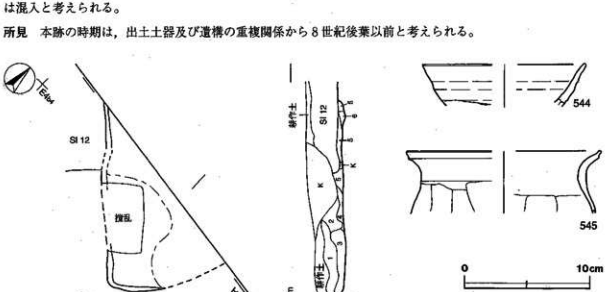
覆土　6層からなる。ロームブロックを含み，ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量
4　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・ローム粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片93点（坏12，甕80，甑1），須恵器片18点（坏11，甕5，蓋2），土製品1点（管状土錘）が出土している。出土遺物はほとんどが細片で，第131図544・545も覆土中から出土したものであり，545は混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器及び遺構の重複関係から8世紀後葉以前と考えられる。



第131図　第13号住居跡・出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表（第131図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
544	須恵器	坏	[12.9]	(3.3)	－	雲母・長石・石英・黒色粒子	灰	普通	ロクロナデ，輪積み痕	覆土	20%
545	土師器	甕	[15.4]	(5.0)	－	雲母・長石・石英	暗赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	覆土	5%

第20A号住居跡（第132・133図）

位置　調査Ⅰ区北西部のA1 j6区に位置し，台地の西部に立地している。

重複関係　第18号住居跡の南東側，第20B号住居跡の中央部，第21号住居跡の北側を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.10m，短軸3.00mの方形で，主軸方向はN－124°－Eである。壁高は15cmであり，各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

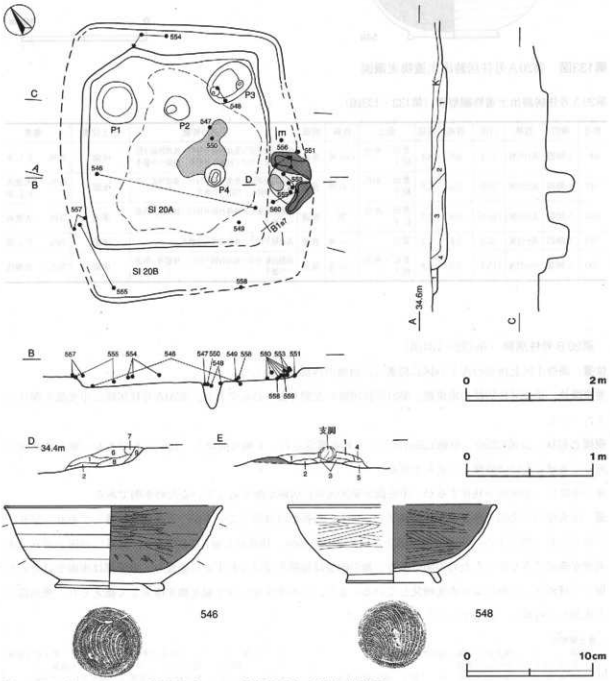
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められており，中央部東側に火熱を受けて赤変した床面が確認されている。

竈　確認できなかった。

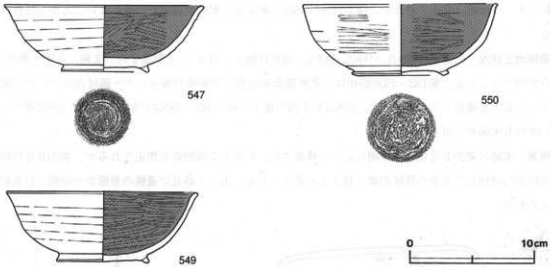
ピット　4か所。P1～P4で，深さは30～45cmであるが，配置や規模が一定しないことから性格は不明である。

遺物出土状況　土師器片399点（坏82，甕302，高台付椀9，皿6），土製品2点（支脚，不明土製品），鉄滓1点が出土している。第132・133図546は，北西壁際中央部と南東壁の南コーナー部付近のそれぞれ床面から出土したものが接合している。また，548はP3内の覆土上層，547・550は中央部の東側，549は南コーナー部のいずれも床面から出土している。

所見　本跡は第20B号住居跡を掘り込んで構築され，わずかな時期差も想定されるが，第20B号住居跡と主軸方向がほぼ同じことから住居の建て替えとも考えられる。出土土器及び遺構の形態から時期は11世紀前葉と考えられる。



第132図　第20A・20B号住居跡，20A号住居跡出土遺物実測図



第133図　第20A号住居跡出土遺物実測図

第20A号住居跡出土遺物観察表（第132・133図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
546	土師器	高台付椀	17.4	6.9	8.4	雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け，体部外面中位から下位にかけて回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	床面	90%　ＰＬ58
547	土師器	高台付椀	15.9	5.4	6.9	雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け，体部外面下位回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	床面	80%　二次焼成　ＰＬ58
548	土師器	高台付椀	[16.5]	6.3	7.3	雲母・赤色粒子	黒	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け，体部内・外面ヘラ磨き	床面	70%　二次焼成
549	土師器	高台付椀	15.2	5.8	7.2	雲母	にぶい黄	普通	高台貼り付け，体部内面ヘラ磨き	床面	70%　ＰＬ58
550	土師器	高台付椀	[15.4]	5.8	6.8	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け，体部内・外面ヘラ磨き	床面	70%　二次焼成

第20B号住居跡（第132・134図）

位置　調査Ｉ区北西部のＡ１ｊ6区に位置し，台地の西部に立地している。

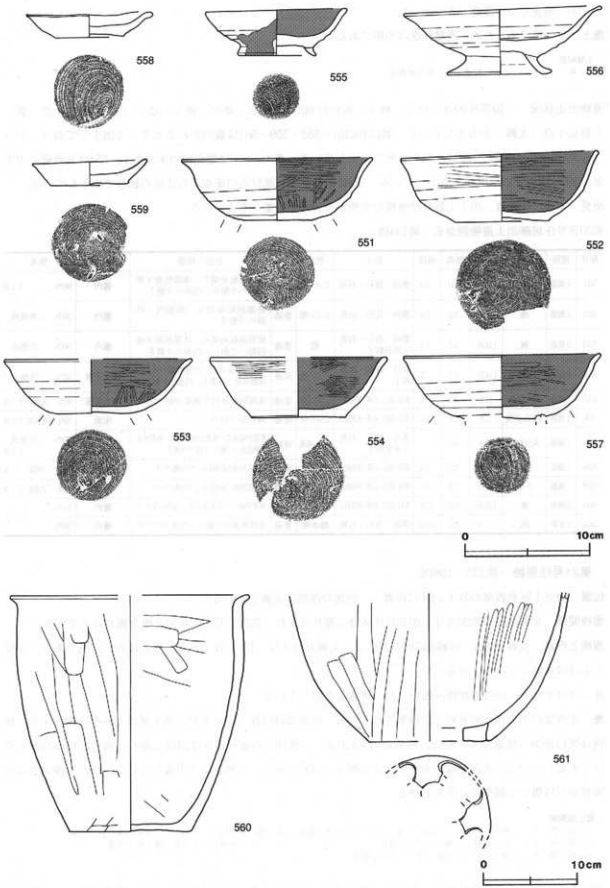
重複関係　第18号住居跡の南東側，第21号住居跡の北側を掘り込んでおり，第20A号住居跡に中央部を掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.35m，短軸3.55mほどの方形と推定され，主軸方向はＮ－126°－Ｅである。壁高は９cmであり，各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床　壁際に一部床面が残存するが，中央部を第20A号住居跡が掘り込んでいるため不明である。

竈　南東壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが，天井部は崩落しており，第６・７層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで65cm，袖部最大幅100cmであり，壁外への掘り込みは南東壁が確認できなかったため不明である。袖の内壁は加熱を受けてわずかに赤変し，火床部は床面をほとんど掘りくぼめず，火熱により赤変硬化している。また，その中央部には土製支脚が直立して据えられ，煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量
3　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　粘土ブロック少量
5　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7　にぶい黄褐色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量
8　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック少量
9　灰　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量



第134図　第20B号住居跡出土遺物実測図

ピット　精査したが確認できなかった。

覆土　単一層であるため，堆積状況は不明である。

土層解説
1　褐　　色　　ローム粒子少量，炭化物微量

遺物出土状況　土師器片29点（坏７，椀４，高台付椀５，小皿２，甕９，鉢１，甑１），須恵器片２点（甕），土製品１点（支脚）が出土している。第134図551～553・559～561は竈内からまとまって出土しており，そのうち551は逆位の状態，559は正位の状態で出土している。また，556は竈北側の床面直上，554は北東壁の中央部，555は南西壁の下層から出土している。558は南コーナー部付近の床面から正位の状態で出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器及び遺構の形態から10世紀後葉と考えられる。

第20Ｂ号住居跡出土遺物観察表（第134図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
551	土師器	椀	15.2	5.0	5.6	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り，体部外面下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	竈内	90%　P1.58
552	土師器	椀	15.8	5.6	7.4	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り，体部内・外面ヘラ磨き	竈内	50%　二次焼成
553	土師器	椀	[14.8]	4.4	5.5	雲母・長石・石英・黒色粒子	橙	普通	底部回転糸切り，体部外面下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	竈内	50%　二次焼成
554	土師器	椀	[14.6]	4.9	7.5	雲母・長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転糸切り，体部外面ナデ，口縁部外面ヘラ磨き，内面ヘラ磨き	覆土下層	45%　二次焼成
555	土師器	高台付椀	11.2	3.8	6.2	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け	覆土下層	90%　二次焼成　P1.58
556	土師器	足高高台付椀	15.8	5.4	8.2	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	高台貼り付け	床面	70%　二次焼成　P1.58
557	土師器	高台付椀	15.8	(5.2)	－	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け，体部外面下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	覆土上層	80%　二次焼成　P1.58
558	土師器	小皿	10.0	2.0	5.6	雲母・長石・石英・黒色粒子	にぶい褐	普通	底部回転糸切り，内面ナデ	床面	100%　二次焼成　P1.59
559	土師器	小皿	9.0	1.9	6.2	雲母・長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	底部回転糸切り，内面ナデ	竈内	100%　二次焼成　P1.59
560	土師器	甕	[25.0]	25.0	12.8	雲母・長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ	竈内	55%
561	土師器	甑	－	(15.7)	[13.0]	雲母・長石・石英	暗赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	竈内	30%

第21号住居跡（第135・136図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ１ａ6区に位置し，台地の西部に立地している。

重複関係　北側部分が第20Ａ号・20Ｂ号住居跡に掘り込まれ，第22Ｃ号住居跡の北壁を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.68m，短軸3.45mの方形で，主軸方向はＮ－15°－Ｗである。壁高は６～27cmであり，各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められ，壁溝が全周している。

竈　北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが，第１層が天井部に相当する。規模は焚口部から煙道部まで95cm，袖部最大幅120cmで，壁外への掘り込みは23cmであり，袖の内壁は加熱を受けて赤変している。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており，火熱により赤変している。また，煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗　褐　色　　焼土粒子少量，ローム粒子・粘土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　　ローム粒子・焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　　焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
4　暗　褐　色　　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　にぶい赤褐色　灰多量，焼土粒子少量

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４で，深さは47～51cmである。Ｐ５は深さ20cmで，南壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。

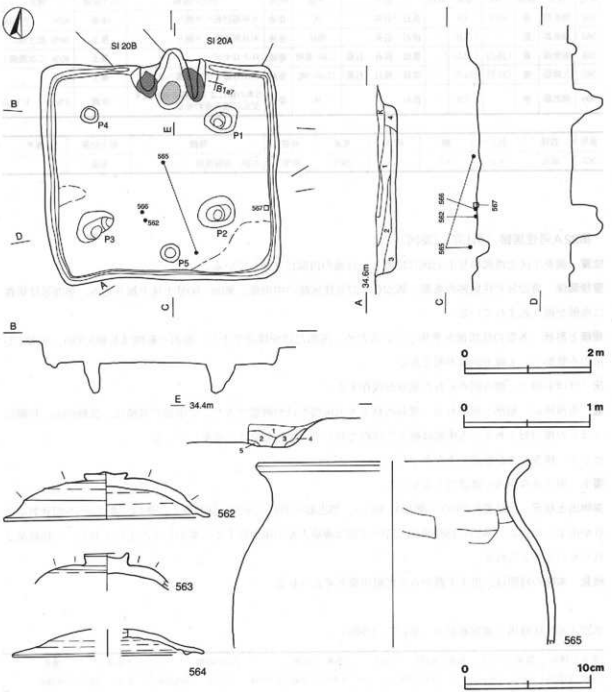
覆土　4層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

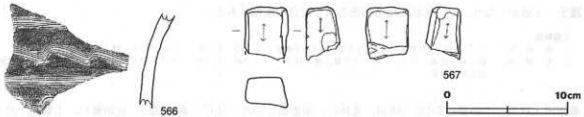
1	暗　褐　色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量	3	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗　褐　色	粘土粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗　褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片201点（坏34，甕167），須恵器片25点（坏17，蓋3，甕4，長頸瓶1），土製品1点（支脚），石器1点（砥石）が出土しており，第135・136図563～565は覆土中から出土している。また，562・566は中央部の南側の床面直上から出土し，567は東壁の壁際から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器及び遺構の形態から8世紀前葉と考えられる。



第135図　第21号住居跡・出土遺物実測図



第136図　第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表（第135・136図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
562	須恵器	蓋	16.3	3.8	－	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	80%　ＰＬ60
563	須恵器	蓋	－	（3.0）	－	長石・石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土	50%　胎土粗い
564	須恵器	蓋	[15.2]	（2.1）	－	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ	覆土	40%　二次焼成
565	土師器	甕	[21.5]	(14.7)	－	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面ナデ，内面ヘラナデ	覆土	20%
566	須恵器	甕	－	（7.9）	－	長石	灰	普通	5本の櫛による直線と波状文を交互に組み合わせる	床面	5%　ＰＬ65

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
567	砥石	(4.5)	3.5	2.8	(59.0)	砂岩	欠損，四面使用	床面	

第22Ａ号住居跡（第137・138図）

位置　調査Ｉ区北西部のＢ１ａ7区に位置し，台地の西部に立地している。

重複関係　第22Ｂ号住居跡の東部，第22Ｃ・27号住居跡の中央部，第59・60号土坑を掘り込み，第28号住居跡に南部を掘り込まれている。

規模と形状　多数の住居跡が重複しているため，床面だけが確認できた。床面の範囲は長軸5.50m，短軸2.23ｍの不整形で，主軸方向は不明である。

床　ほぼ平坦で，踏み固められた部分が残存する。

竈　南西側に，袖部と思われる一部分の粘土と火床部だけが確認できた。火床部の規模は，長軸89cm，短軸51cmほどの楕円形であり，火床部は掘りくぼめておらず，火熱を受けて赤変している。

ピット　精査したが確認できなかった。

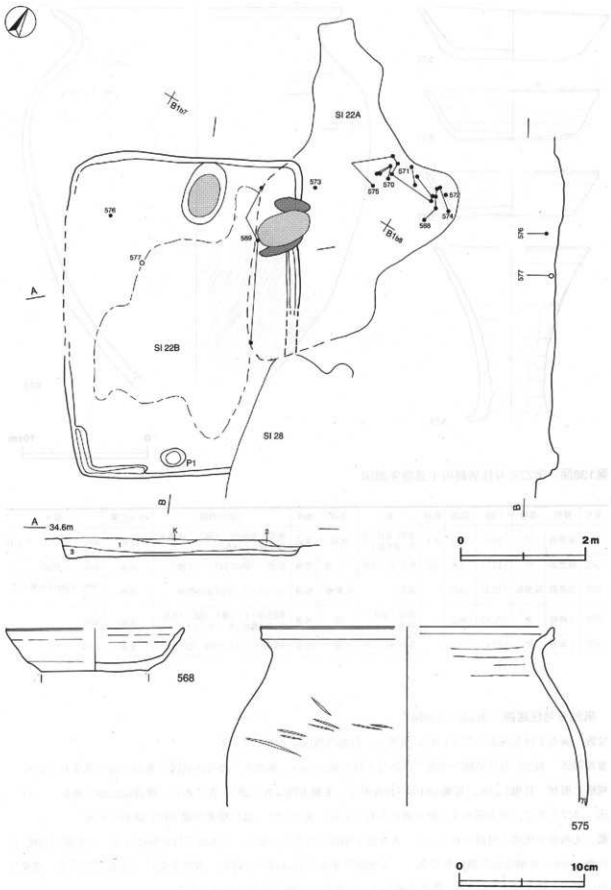
覆土　掘り込みが浅く確認できなかった。

遺物出土状況　土師器片290点（甕289，甑１），須恵器片39点（坏22，長頸瓶１，甕13，蓋３），不明鉄製品１点が出土している。第137・138図568・570～575は竈前方部の床面直上から集中して出土しており，一括投棄されたものと考えられる。

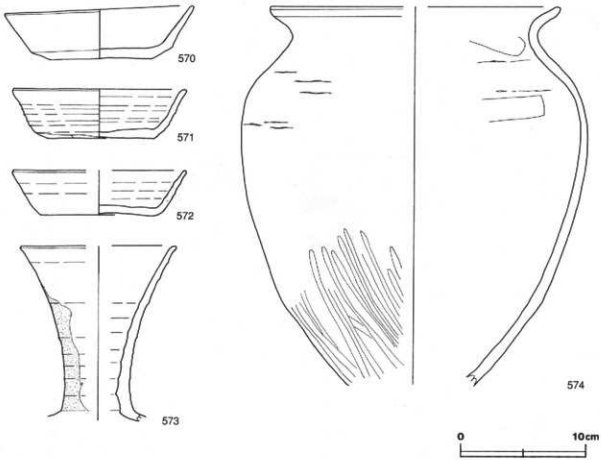
所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀中葉と考えられる。

第22Ａ号住居跡出土遺物観察表（第137・138図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
568	須恵器	坏	[14.2]	3.4	8.6	雲母・長石・石英	浅黄橙	普通	底部回転ヘラ削り，二次底部面	床面	45%　二次焼成
570	須恵器	坏	14.9	4.1	7.8	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部摩滅，二次底部面	床面	70%　二次焼成



第137図　第22A・22B号住居跡，第22A号住居跡出土遺物実測図



第138図　第22A号住居跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
571	須恵器	坏	13.6	4.0	8.4	雲母・長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	床面	80%　PL45
572	須恵器	坏	[13.7]	3.6	9.0	雲母・長石・石英	にぶい黄	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	50%　二次焼成
573	須恵器	長頸瓶	[12.3]	(14.0)	—	長石	灰黄褐	普通	ロクロナデ，内外面自然釉	床面	20%　岩崎41号窯式並行か
574	土師器	甕	[22.8]	(30.3)	—	雲母・長石・石英	橙	普通	体部外面下半ヘラ磨き，屑部ヘラ具痕，内・外面輪積み痕，内面ヘラナデ	床面	40%
575	土師器	甕	[23.4]	(14.4)	—	雲母・長石・石英	橙	普通	体部外面ナデ，屑部ヘラ具痕，内面ヘラナデ	床面	15%

第22B号住居跡（第137・139図）

位置　調査Ⅰ区北東部のB1b区に位置し，台地の西部に立地している。

重複関係　第22C号住居跡の南部と第59号土坑を掘り込み，第22A・28号住居跡に東部を掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.23m，短軸3.81mの長方形で，主軸方向はN－25°－Wであり，壁高は22cmである。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。南コーナー部に壁溝が部分的に認められる。

竈　北西壁中央部に付設されている。天井部・袖部は欠失しており，火床部だけが残存する。火床部の規模は，長軸100cm，短軸62cmの楕円形である。火床部は床面を14cm掘りくぼめ，火熱を受けて赤変している。規模は焚口部から煙道部まで110cm，燃焼部幅70cmで，壁外への掘り込みは32cmである。

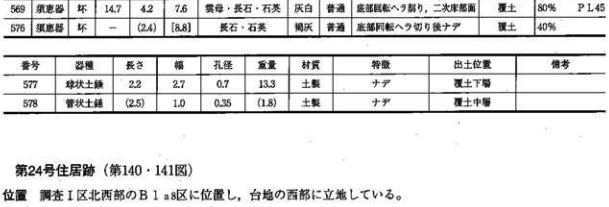
ピット　1か所。P1は深さ18cmで南東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。

覆土　3層からなり，レンズ状の堆積状況を示した，自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
3　極暗褐色　　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片374点（坏48，甕326），須恵器片13点（坏8，甕4，蓋1），土製品2点（球状土錘，管状土錘）が出土している。第139図569・576～578は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器及び遺構の形態から8世紀前葉と考えられる。



第139図　第22B号住居跡出土遺物実測図

第22B号住居跡出土遺物観察表（第139図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
569	須恵器	坏	14.7	4.2	7.6	雲母・長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ削り，二次床部面	覆土	80%　P L 45
576	須恵器	坏	－	(2.4)	[8.8]	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土	40%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
577	球状土錘	2.2	2.7	0.7	13.3	土製	ナデ	覆土下層	
578	管状土錘	(2.5)	1.0	0.35	(1.8)	土製	ナデ	覆土中層	

第24号住居跡（第140・141図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ１ａ8区に位置し，台地の西部に立地している。

重複関係　北側部分が第23号住居跡の南側を掘り込み，東側は調査区域外にのびる。

規模と形状　長軸2.55m，短軸1.85mほど確認され，平面形は方形，または長方形と推定される。主軸方向はＮ－20°－Ｗである。壁高は28～32cmであり，各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，竈前方部から中央部にかけて踏み固められており，壁溝が周回している。

竈　北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが，天井部は崩落しており，第10・11層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで184cm，袖部最大幅105cmで壁外への掘り込みは103cmであり，袖の内壁は加熱を受けて赤変している。火床部はほとんど掘りくぼめておらず，火熱による赤変がみられる。また，煙道部は３個体の甕を連結し，いくぶん傾斜をつけて構築している。竈の土層は６～12層になる。

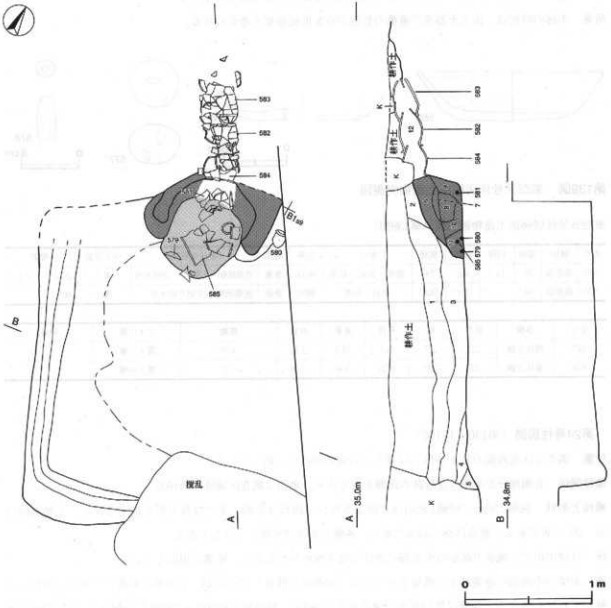
ピット　精査したが確認できなかった。

覆土　12層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第６～12層は竈の土層である。

土層解説
1　暗　褐　色　　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　　ロームブロック中量
5　褐　　色　　ローム粒子中量
6　暗　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
7　褐　　色　　粘土粒子多量・焼土粒子微量
8　褐　　色　　粘土粒子多量
9　暗赤褐色　　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ロームブロック微量
10　極暗褐色　　焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗赤褐色　　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
12　暗　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片241点（坏12，甕229），須恵器片31点（坏23，甕７，蓋１）が出土している。ほとんどの遺物は竈内から出土しており，第141図579・581は火床部から出土している。また，582～584は底部を抜いて連結し，竈の煙道として使用され，580は右袖際から斜位の状態で出土している。

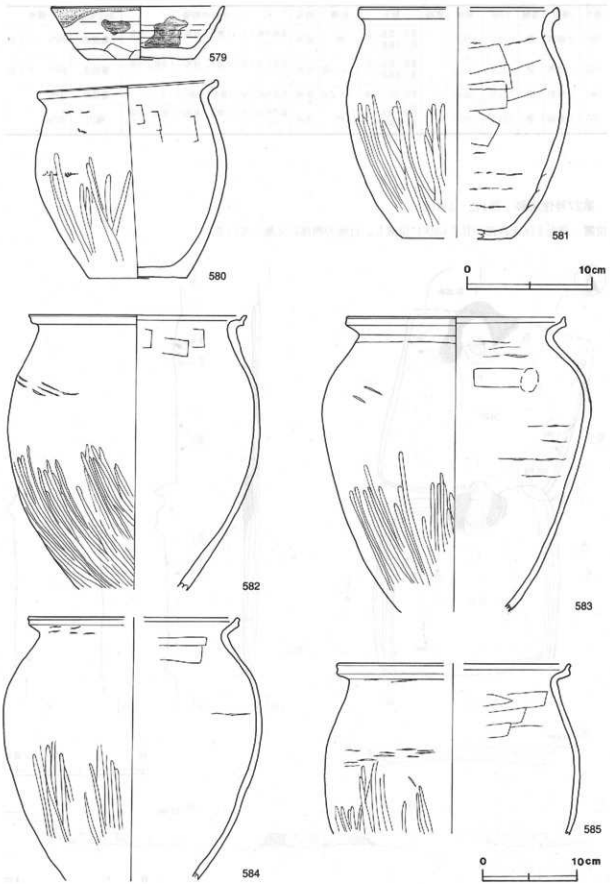
所見　本跡の時期は，出土土器及び遺構の形態から８世紀後葉と考えられる。



第140図　第24号住居跡実測図

第24号住居跡出土遺物観察表（第141図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
579	須恵器	坏	13.6	4.3	8.4	長石・石英・白色針状鉱物	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後二方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り，口縁部自然釉	火床部	90%現転用
580	土師器	甕	14.2	16.0	7.8	雲母・長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	底部ナデ後雑な磨き，体部外面下半ヘラ磨き，内面ヘラナデ	右袖際	95%　P L.61
581	土師器	甕	[15.9]	18.6	[8.8]	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面下半ヘラ磨き，内面ヘラナデ，底部木葉痕	火床部	30%

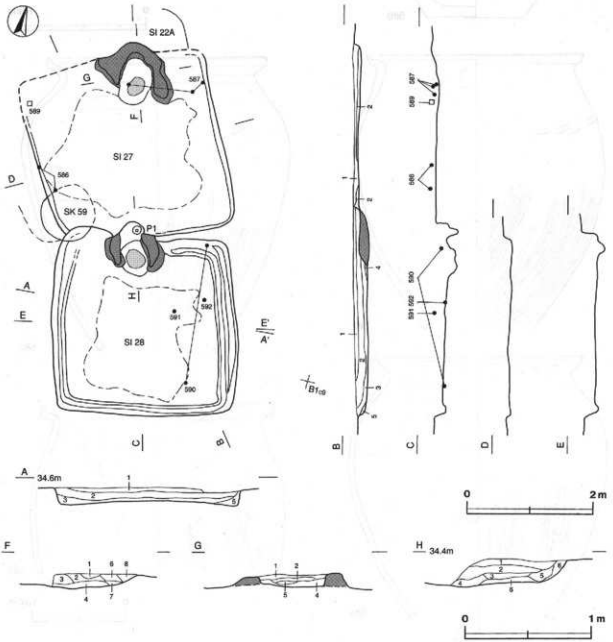


第141図　第24号住居跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
582	土師器	甕	22.7	(29.1)	—	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面下半ヘラ磨き，胴部ヘラ具痕，内面ヘラナデ	竈煙道	70% P L.61
583	土師器	甕	22.8	(31.3)	—	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下半ヘラ磨き，胴部ヘラ具痕，内面ヘラナデ	竈煙道	80% P L.61
584	土師器	甕	[22.0]	(28.0)	—	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面下半ヘラ磨き，内面ヘラナデ	竈煙道	50%
585	土師器	甕	[24.4]	(18.0)	—	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面下半ヘラ磨き，胴部ヘラ具痕，内面ヘラナデ	竈内	30%

第27号住居跡（第142～144図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ１ｂ8区に位置し，台地の西部に立地している。



第142図　第27・28号住居跡実測図

重複関係　第22B・22C号住居跡の東部を掘り込み，第22A号住居跡に北部から西部，第28号住居跡に南部を掘り込まれている。第59号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状　長軸2.92m，短軸2.92mほどの方形と推定される。主軸方向はN－18°－Wである。壁高は14cmであり，各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，竈前方部から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。左袖部先端は一部欠失し，天井部は第22A号住居跡によって削平されている。規模は焚口部から煙道部まで85cm，袖部最大幅112cmで，壁外へわずかに掘り込み，袖の内壁は加熱を受けて赤変している。火床部は10cmほど掘りくぼめており，火熱により赤変している。また，煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	5	暗赤褐色	ローム粒子多量
2	暗赤褐色	焼土粒子多量，ローム粒子中量，粘土粒子少量	6	褐色	焼土粒子多量，粘土粒子少量，ローム粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量	7	暗褐色	焼土粒子少量
4	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	8	暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　1か所。P1は深さ38cmで，南東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットである。

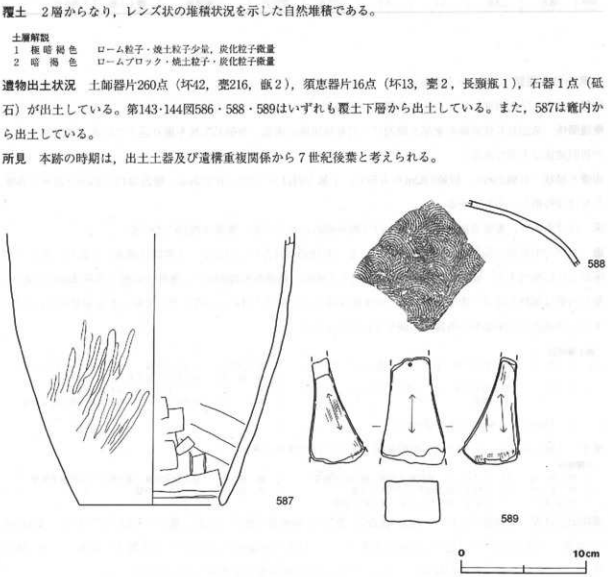
覆土　2層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

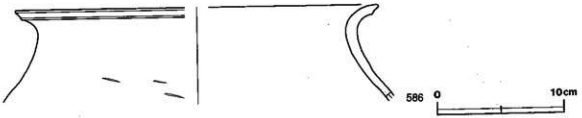
1	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2	暗褐色	ームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片260点（坏42，甕216，甑2），須恵器片16点（坏13，甕2，長頸瓶1），石器1点（砥石）が出土している。第143・144図586・588・589はいずれも覆土下層から出土している。また，587は竈内から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器及び遺構重複関係から7世紀後葉と考えられる。



第143図　第27号住居跡出土遺物実測図（1）



第144図　第27号住居跡出土遺物実測図（2）

第27号住居跡出土遺物観察表（第143・144図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
586	土師器	甕	[28.6]	(7.7)	－	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ナデ，胴部ヘラ丸削，内面ナデ	覆土下層	10%
587	土師器	甑	－	(21.8)	11.5	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下半ヘラ磨き，内面ヘラナデ	竈内	30%
588	須恵器	甕	－	(5.3)	－	長石	灰	普通	5本の櫛による直線と波状文を交互に組み合わせる	覆土下層	PL65

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
589	砥石	(8.6)	5.1	(4.4)	(175.6)	凝灰岩	三面使用	覆土上層	孔径0.15

第28号住居跡（第142・145図）

位置　調査Ⅰ区北西部のB１ｂs区に位置し，台地の西部に立地している。

重複関係　第22B号住居跡の東部と第22C・27号住居跡の南部，第68号土坑を掘り込んでいる。第59号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状　長軸2.96m，短軸2.82mの方形で，主軸方向はN－27°－Wである。壁高は15～25cmであり，各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，竈前方部から南壁にかけて踏み固められている。壁溝が周回している。

竈　北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが，天井部は崩落しており，第１・２層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで92cm，袖部最大幅90cmで，壁外への掘り込みは30cmであり，袖の内壁は加熱を受けて赤変している。火床部はほとんど掘りくぼめていないが，火熱による赤変がみられる。また，煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1	暗褐色	粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	3	暗赤褐色	焼土粒子多量，ローム粒子・粘土粒子少量
2	暗褐色	粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	4	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
			5	褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
			6	褐色	炭化粒子・ローム粒子少量，焼土粒子微量

ピット　精査したが確認できなかった。

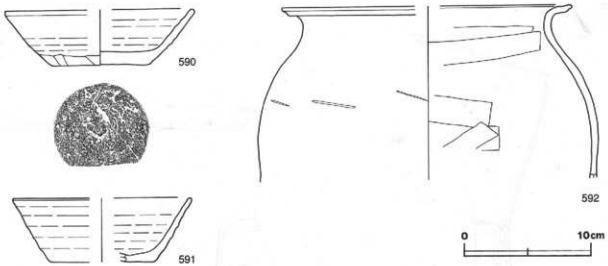
覆土　５層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量	4	暗褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	5	暗褐色	ローム粒子中量
3	褐暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量			

遺物出土状況　土師器片331点（坏43，甕287，壷１），須恵器片40点（坏33，甕７）が出土している。第145図591は覆土上層から出土しており，590は南東コーナー付近の床面直上から出土した土器片と北東コーナー部の覆土中から出土した土器片が接合している。また，592は東壁部の床面直上から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器及び遺構の形態から８世紀後葉と考えられる。



第145図　第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表（第145図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
590	須恵器	坏	[14.9]	4.4	7.5	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後周縁ナデ，体部下端手持ちヘラ削り	床面	50% 二次焼成
591	須恵器	坏	[14.0]	5.1	[8.0]	長石・石英・黒色粒子	灰白	普通	底部ヘラナデ	覆土上層	30%
592	土師器	甕	[23.0]	(13.9)	－	雲母・長石・石英	灰	普通	体部外面ヘラ具痕，内面ナデ	床面	30%

第30号住居跡（第146・147図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ１ｂｆ区に位置し，台地の西部に立地している。

重複関係　第29号住居跡の南部を掘り込み，第31号住居跡に南側を掘り込まれている。また，東側の大部分が撹乱を受けている。

規模と形状　撹乱や第31号住居跡に掘り込まれているために，一部分のみしか確認できなかった。長軸2.57m，短軸2.20mほど確認されており，平面形と主軸方向は不明である。壁高は10cmであり，各壁とも外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，西壁付近から踏み固められた部分が確認されている。

竈　撹乱をうけているため確認できなかった。

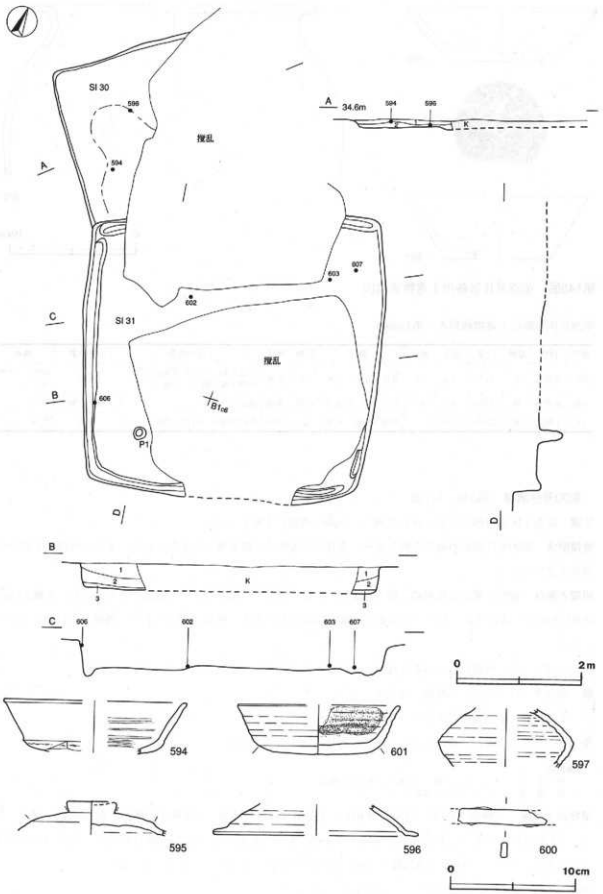
ピット　精査したが確認できなかった。

覆土　２層からなるが，掘り込みが浅いため堆積状況は不明である。

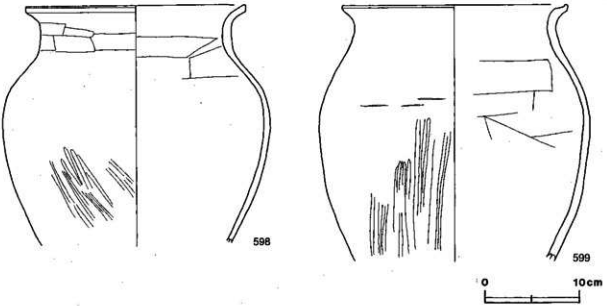
土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　　ームブロック少量

遺物出土状況　土師器片441点（坏32，甕409），須恵器片47点（坏22，長頸瓶１，甕20，高台付坏1，蓋２，壺１），鉄製品１点（刀子），鉄滓１点，砥石１点，軽石１点が出土している。第146・147図595・597～601は覆土中から出土しており，594は南西部覆土中層，596は中央部付近の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第146図　第30・31号住居跡，第30号住居跡出土遺物実測図



第147図　第30号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表（第146・147図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
594	土師器	坏	[14.3]	(4.2)	－	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部ヘラ削り，口縁部ナデ，内面ヘラ磨き，輪積み痕	覆土中層	30%
595	須恵器	蓋	－	(2.5)	－	雲母・長石・石英	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土	20%
596	須恵器	蓋	[16.4]	(2.5)	－	雲母・長石・石英	灰	普通	ロクロナデ	床面	10%
597	須恵器	鉢	－	(4.7)	－	長石	灰白	良好	ロクロナデ	覆土	10%
598	土師器	甕	23.0	(25.1)	－	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部ヘラナデ，体部外面下半ヘラ磨き，内面ヘラナデ	覆土	30%
599	土師器	甕	23.4	(27.0)	－	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面下半ヘラ磨き，胴部ヘラ具痕，内面ヘラナデ	覆土	40%
601	須恵器	坏	[12.8]	4.0	7.2	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	覆土	70% 内面煤付着二次焼成

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
600	刀子	(7.1)	1.2	0.4	(25.6)	鉄	茎の一部欠損	覆土	

第31号住居跡（第146・148図）

位置　調査Ⅰ区北東部のＢ１ｂ6区に位置し，台地の西部に立地している。

重複関係　第29号住居跡の南東部，第30号住居跡の南部を掘り込んでいる。また，北壁から南壁にかけて大部分が撹乱を受けている。

規模と形状　長軸4.80m，短軸4.55mの方形で，主軸方向はＮ－15°－Ｗである。壁高は45cmであり，各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床　撹乱を受けているが，西壁と北東コーナー周辺に残存する。壁溝は周回している。

竈　撹乱をうけているため確認できなかった。

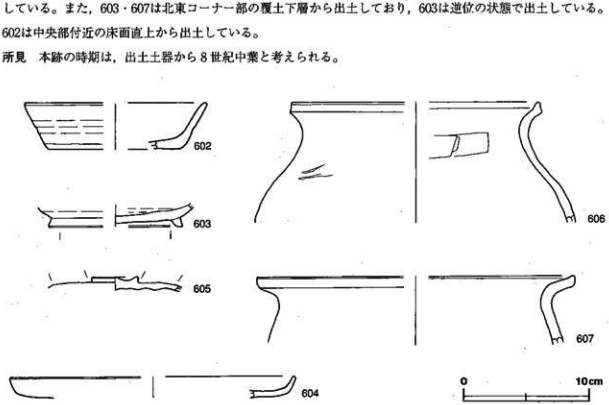
ピット　１か所。Ｐ１は深さ40cmで，南西コーナー部付近に位置しており，配置から主柱穴と考えられる。他の主柱穴は大部分が撹乱を受けているため確認できなかった。

覆土　3層からなるが，攪乱をうけているため堆積状況は不明である。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子中量，炭化粒子・焼土粒子微量　　3　褐　　色　　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　　ローム粒子中量，焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片736点（坏88，甕648），須恵器片95点（坏55，高台付坏1，長頸瓶2，甕34，鉢1，蓋2），鉄製品1点（釘），鉄滓2点，砥石1点，軽石2点が出土している。第148図604～606は覆土中から出土している。また，603・607は北東コーナー部の覆土下層から出土しており，603は逆位の状態で出土している。602は中央部付近の床面直上から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第148図　第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表（第148図）

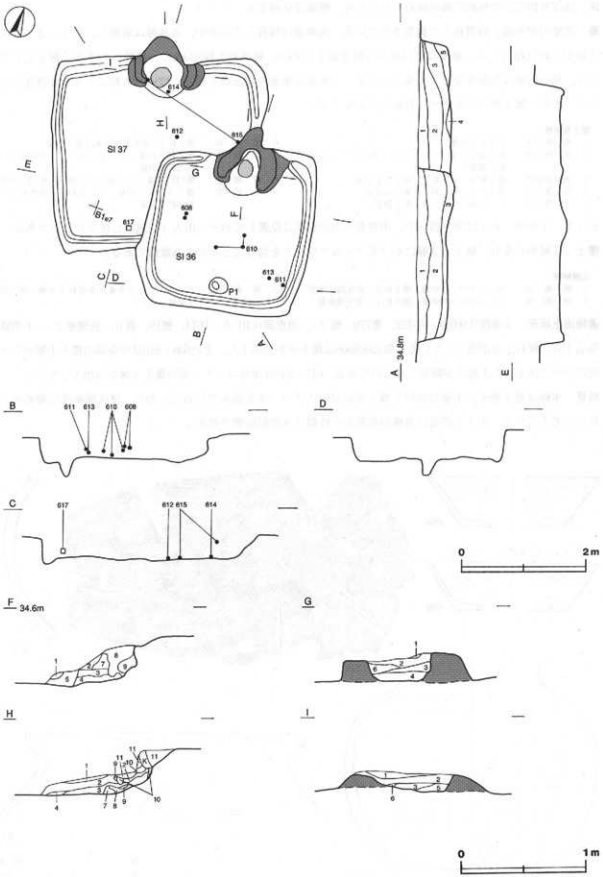
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
602	須恵器	坏	[14.4]	3.2	[10.6]	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	底部下端回転ヘラ削り	床面	20%
603	須恵器	高台付坏	－	(1.8)	[10.6]	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	覆土下層	30%
604	須恵器	鉢	[22.6]	(1.7)	－	長石	灰	普通	ロクロナデ	覆土	5%
605	須恵器	蓋	－	(1.2)	－	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土	10%
606	土師器	甕	[19.6]	(9.7)	－	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	肩部ヘラ具痕，内面ヘラナデ	覆土上層	20%
607	土師器	甕	[25.1]	(5.4)	－	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	内外面ナデ	覆土下層	5%

第36号住居跡（第149・150図）

位置　調査Ⅰ区北西部のＢ１ｄ7区に位置し，台地の西部に立地している。

重複関係　第34号住居跡の南側，第35号住居跡の東側を掘り込み，さらに，第37号住居跡の南東コーナー部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸2.70m，短軸2.66mの方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｗである。壁高は49cmであり，各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。



第149図　第36・37号住居跡実測図